

- (二) 掬廉街道 至掬廉百八十支里
- (三) 大肚川街道 至大肚川八十支里
- (四) 海龍城街道 至海龍城百十支里
- (五) 柳河街道 至柳河七十支里
- (六) 南山城子街道 至南山城子八十支里
- (七) 興京街道 至興京二百六十支里

開原街道上白銀河より分岐し、八家子を経て興京に至るものと柳河を経て興京に達するものとの二あり、後者稍々近距離なりとす。

(ロ) 金融及通貨

金融機關には東三省官銀號及當舖五戸あり、其他邦人の金融業を營むものあり。通貨は従前は各地と等しく、當地大商舖發行の兌換券即ち帖子及奉天票流通せられしが、現今にては帖子全くなく奉天票のみ流通せらる。銅子兒は奉票の一角即ち十錢に對し十文乃至十五文間を上下するを常とし現在は十二文なり。

(ホ) 白銀河

北山城子の西方五十支里、同地より開原に通ずる大街道上に在り、道路に沿ひて不規則なる街衢を成

せとも甚た不潔なり。

戸數二百八十、人口二千を算する小市街にして巡警局、保衛團、郵便局、小學校、耶蘇教會堂等あり。

前記の如く小市街なれども旅客及車馬の往來頻繁にして四圍より集まる農民も少からざる關係上一見稍々繁盛なり。又日人一戸及鮮人十五戸居住す。

産物は大豆、高粱、粟等の農作物にして其年額少からざるも中間の一小街なる爲め開原及鐵嶺方面に直送せられ、當地に集まるもの少し。

(ヘ) 門臉

開原の東方二百二十五支里、興隆台の東二十五支里、北山城子より開原に達する大街道上に在り戸數百、人口六百を有する部落にして多少街形を成し約二十戸の商家及巡警局、郵便局、税局、保衛團、小學校等あり。

當地は本來宿驛なれども、附近農民との間にも相當日用雜貨の小取引行はれ又其生命たる旅人の往來絶へざる爲め人口の少き割合に寂寞ならざるなり。

一五、輝南縣

(イ) 輝南

一、沿革及位置

當地の歴史は頗る古く周、漢、隋唐等に歴屬し、其後幾多の變遷を経て清朝に至り狩獵地として封禁せられ、康熙三十七年以來約百八十年間は荒蕪に委せしが、咸豐、同治年間に流民の來住し私かに開墾に従事するもの漸く多きを加ふるに及び、光緒四年（明治十一年）之を開放し海龍府に屬せしめたり。後宣統元年府の東南八社の地を割きて輝南廳を設置せり。之れ現今の輝南縣の前身にして、縣政を布かれしは民國二年なり。

朝陽鎮の東南約四十五支里、恰も縣の中央に位し、蛤蟆河の西岸に瀕す。元と地名を蛤蟆河と稱せしが現時は一般に輝南と稱し、舊名を呼ぶものなし。

二、戸數及人口

戸數約八百、人口五千を算し日人五名居住す。

三、市街の狀況

市街は四面山岳を以て圍繞せられ、城内及南門外に別たる。

城内は直經約一支里の正方形にして、高さ一丈餘の土壁を以て繞らされ東西南北の四門を有す。主たる街衢は城内を南北に貫く中央大街と南門外より直に蛤蟆河岸に至る延長約一支里の一條街とにして商家の存在するは此中央大街と南門外なりとす。而して城内には空地多く、東門及北門外には數戸の

車店あり。

四、官公衙其他の諸機關

輝南縣公署、警察所、巡警局、兵營、稅局、郵便局、電報局、電話局、商務會、高等、初等小學校、基督教會堂、泰東日報社支局、奉天商業銀行出張所及我領事館警察官吏出張所等あり。

五、一般產物及特產物

木材、大豆、葉煙草、麻、藍靛、山貨（人參茸の類）、石炭等あり。

六、商工業

(イ)、商業。當地は全然朝陽鎮の勢力範圍にあり。由來當縣下は大部落に乏しく従て其商業範圍も比較的狭小にして、移出入共に朝陽鎮に支配せられ他縣々城に比し著しく遜色あり。然れども最近著しき發達をなし、奉天省東北隅に於ける穀類、材木及山貨等の重要集散市場たるに至れり。今商店の主なるものを擧ぐれば左の如し。

材木商 二

雜貨舖十三（内油坊、磨坊兼業一、磨坊兼業一）

糧 棧 七（内油坊、磨坊兼業三、他は磨坊兼業）

冬季當地朝陽間は木材、大豆等を積載せる大車絡繹として絶ゆることなく頗る盛況なり。今其重なる

産物の一箇年に於ける移出高を擧ぐれば大約左の如し。

板子	六千丈、	櫃套	四千套、	棺材	八百隴、	過梁	二千根、
架木	一千斤、	椽子	一萬根、	標子	一萬根、	柱脚	二萬根、
大豆	三萬石、	葉煙草	八十萬斤、	麻	四十一萬斤、	茸	一萬五千斤、

移入品は主として雜貨にして總て朝陽鎮より之を仰ぎ、更に縣下各部落に移出せらるるもの多し。當地より重要各地に至る距離を示せば左の如し。

朝陽鎮に至る四十五支里

濛江に至る百三十支里

磨磬山に至る九十支里

杉松崗に至る三十五支里

様子哨に至る五十支里

(ロ)、工業。燒鍋、油坊、磨坊、粉條子(即ち豆素麵)製造業、製紙業、磚窯業等あれども見るべきもの少く、多くは大雜貨舖又は糧棧の兼業にして、燒鍋、油坊、磨坊兼業一、油坊、磨坊兼業四、磨坊二十三、粉條子製造業三を其主なるものとす。一箇年の製造高は燒酒十五萬斤、豆油十五萬斤、麥粉五十二萬斤、粉條子一萬六千斤内外とす。

(ロ)、杉松崗

杉松崗炭坑の所在地にして、輝南縣城を距る西南三十五支里、柳河縣との境界地點に位置し、戸數約

百、人口六百、郵便局、小學校、巡警局等あり。

炭坑は大正五年日支交渉に依り我國に於て採掘權を獲得せる所謂南滿九鑛山の一に屬し、炭質は半金屬性の光澤を有する善良なる無煙炭にして最も骸炭製造に適す。現在は坑數十四坑あるも、其採掘法未だ幼稚にして、其上夏季出水期には採掘不能となるのみならず、運搬にも大なる障害を生ずる等の關係上目下冬季間のみ採掘に従事し居れり。従つて未だ出炭量多からずして、僅かに本縣及海龍柳河並に吉林方面に移出せらるるに過ぎざるなり。

(ハ)、樓街

當地は水質良好なる關係上、古くより燒酒の名産地として其名を知られ今日あるも亦之が爲めなり。而して輝南の西南方に位置し、朝陽より様子哨に通ずる道路の略中間にある一邑鎮にして、周圍は山岳重疊し平地稀なるが故に、農耕地稀に農産亦殆ど見るべきものなし。

戸數百五十、人口九百を算し、巡警局、郵便局、小學校等あり。

商家は燒鍋及小雜貨舖の外は殆ど見るべきもの無く家屋も集團せざるを以て街形を成さず。

商工業としては前項に記述せるが如く、燒鍋は當地の殆ど生命とせらるるだけに、製造法は依然舊式なれども、相當大規模の造酒家數戸ありて營業隆盛を極む。又此外當地は山岳地帯なるより木材、薪炭等の産出多く、各地に移出するもの少からざるなり。

(二) 蛟河

山岳地帯に在るを以て、耕地に乏しく農業は幾年を経るも進歩の跡なく只附近は森林多く薪材及木炭の産地として往時より其名を知らるるに過ぎず。

輝南縣城の北方七十支里、磐石縣界に近く位し、戸數約百、人口五百を算す。

家屋は點々存在し街形を成さざれど、巡警局、郵便局、小學校等あり。

産物は薪材、木炭及山貨の類のみなるも、需用に伴ひ年々其産額増加の趨勢にあり。而して此等は主として朝陽鎮方面に移出せらる。

一六、柳河縣

(一) 柳河

一、沿革及位置

當地は柳河鎮又は柳樹河子とも稱し、元通化縣管下に屬せしが光緒二十八年時の盛京將軍增祺の奏請により通化縣の内龍岡以北二十一堡の地を割きて柳河縣を設置するに至り、始めて當地を縣城となし以て現今に至る、而して市街は北山城子の東南七十支里に位す。

二、戸數及人口

戸數六百四十、人口五千五百、内日本人七戸十四名及び鮮人四戸二十二名あり、而して日人は質屋

を營む。

三、市街の狀況

伊通河の南岸に市街を形成し、四面山岳を以て繞らされ、東西約四支里に亘る一條の大街と之に交叉する二、三の街路より成り、街路の幅員は北山城子に比すれば狭小なれども良好なり。

周圍は土壁を以て繞らされ東西南北各一門を有す、當地も水質不良にして住民井水と河水を併用す。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署及其附屬官署、稅局、保衛團、兵營、郵便局、電話局、商務會、農務會、教育公所、教育會、高等、初等小學校、朝鮮人小學校、我領事館警察官吏出張所等あり。

五、一般産物及特産物

大豆、高粱、粟、水稻米、葉煙草、麻、藍靛、柞蚕、山貨、藥材、人參、蜂蜜等ありて直接開原鐵嶺等に移出せらる、又近來移住鮮人の水田耕作に従事するもの多く管内のみにも其數一千三百餘戸、人口六千六百に達し、其耕作面積四千九百餘天地年收穫高四萬九千支石に達し、靛の儘鐵道沿線に移出せらるる人參も亦年五千斤の産出あり。

六、商工業。當地は附近に北山城子の大焦散地を控ゆるが故に、商工業の發展覺束なく従て大商店に乏しく繁盛ならざるなり、去れば此地は商業地と言はんよりも寧ろ縣公署を有する關係上一小政治地と

云ふを至當とせん、要するに主として縣衙を生命とする市街地たり。此地には珍らしくも日本酒及ビール、サイダー等常に市場に存在する一事なり、其理由を質せば、四圍に贅澤なる生活を營む不逞鮮人の少からざるに因るものなりと。

商店は總數約二百戸ありて其主なるものは雜貨舗、糧棧等なり、移入品は諸雜貨にして奉天、開原、鐵嶺等よりせられ、移出品は前記産物にして其年集額概ね次の如し。

大豆	四萬石、	高粱	三萬石、	葉煙草	三十萬斤、
水稻米	四萬九千石、	人參	五千斤、		

當地の工業は油坊七、磨坊十五戸あれども凡て土法にして論ずるに足らず。

(ロ)、仙人溝

柳河の東北約三十支里に位し、炭坑の所在地として知られ、戸數約百五十、人口一千を算す。巡警局、郵便局、小學校等あり。

當地産出の石炭は黒色の光澤を有するも、其質脆弱にして大部は粉炭なり。其採掘法は所謂土式の極めて幼稚なるものなるも、一箇年約百萬斤内外の産出ありて、販路は柳河を始め當縣管内の各地とす。

素と石炭を生命として起りたる地方なるを以て他に商工業の見るべきもの殆どなきも、石炭を中心と

して微弱ながらも小取引行はれ、商家なく商取引なしと云ふにあらざるなり。

(ハ)、碗口街

柳河の西南四十五支里に在り、戸數百、人口六百に過ぎざれども街形を成し巡警局、保衛團、税局、郵便局、小學校等あり。

當地は交通上の要點に當り、商家約四十戸を算し、産物は大豆、高粱、粟、葉煙草、柞蚕、人參、蜂蜜等にして戸數の少きにも拘はらず割合に賑かなり。

(ニ)、五道溝

柳河の東南六十支里に在り、戸數二百、人口一千二百を算する小市街にして巡警局、保衛團、兵營、税局、郵便局、商務分會、小學校等あり。

商家約九十、油坊及燒鍋各一あり、當地の燒酎は品質良好にして其名を知らる。産物は大豆、高粱、粟、米及人參、蜂蜜、柞蠶、葉煙草、麻等なりとす。

當地も馬賊の娛樂地たる特徴を有し、其土地の繁榮と彼等との關係は椽子台子に於けるが如し。

(ホ)、紅石拉子

柳河の西南約七十支里に位する半商半農的市街にして、戸數約三百、人口二千を算す。巡警局、保衛團、郵便局、小學校あり、又市中には電話の設備ありて通化、柳河及北山城子等と通話し得るの便あり。

り。
附近には鮮人の水田業に従事せるもの少なからず。産物は大豆、水稻米、麻及各種の山貨にして、其中人參の産地として其名を知らる。
大小の商家百戸以上に達し比較的繁盛なり。
工業としては焼鍋一、油坊一等あれども、何れも舊式小規模にして當地の需要を充たすに過ぎざるなり。

(へ) 弧山子

柳河の東南七十支里、様子哨に通ずる街道上に位置し、戸數約六百、人口三千六百を算す、内邦人二戸四名居住し、賣藥兼質屋業を経営す。官公衙又は類似のものとして巡警局、保衛團、遊撃隊、兵營、税局、郵便局、商務會、基督教會堂、小學校等あり。
産物は大豆、葉煙草、山貨及木材等にして、商家は大小二百戸に達し、日用雜貨類を附近部落に供給す、又附近には鮮人の水田業に従事せるもの少なからず。
工業としては焼鍋二及油坊約七戸あれども規模小にして地方の需要を充たすに過ぎず。

(ト) 通溝

柳河の東方七十支里に位し、様子哨、弧山子の略々中間にあり、戸數約二百、人口千三百を有し、巡

警局、税局、兵營、郵便局、商務會、小學校等あり。
附近一帶は土地肥沃にして、農産に富み、當地は此等農産品の小集散地たり。又特産として麻、葉煙草、茸其他各種の山貨あり。然れども半農半商と稱するも尙ほ過分となすの部落なれば、商工業上論すべき價値頗る少し。

(チ) 勝水河子

當地は柳河の東北八十支里に位置し、柳河様子哨街道及海龍様子哨街道に沿ひて街衢を成し、戸數約二百二十、人口千四百を算す。

山間の一邑鎮に過ぎざれども、巡警局、保衛團、税局、商務會、小學校等あり。

附近一帶は大豆、葉煙草、麻等の産地にして、當地は恰かも其集散地に當り、規模元より小なれども商狀常に活氣あり。邦人一戸ありて賣藥兼質屋業を營む。

(リ) 三源浦

一、沿革及位置

當地は元と無人の原野に過ぎざりしが、今より十五、六年前より附近一帶に鮮人の居住するもの多く盛んに水田耕作に従事し、其産額も漸次増加するに及び頓に發達を遂げ、山間に稀なる一邑鎮を出現するに至れり。而して附近は馬賊及不逞鮮人の根據地として知られ、殊に當地を距る十五支里に於て

不逞鮮人は學校を設立し一種の軍隊的教練を施し又監獄の如きものをも設けて、村役場程度なれども政府的行動に出で、以て良民を苦しめ不逞振を發揮しありと稱せらる。柳河の南方約九十支里、通化の北方七十支里の地點に位す。

二、戸數及人口

最近に於ける戸數約四百、人口二千五百を算す。

三、官公衙其他の諸機關

巡警局、保衛團、稅局、郵便局、電話局、小學校、鮮人小學校等あり。

四、一般産物及特産物

當地産物中水稻米は、鮮人により耕作せられ、其産額大豆に及ばざること遠しと雖も逐年増加し、今や著名の産品に數へらるるに至れり。此外高粱、粟、葉煙草、麻等ありて、地方の需要に充てらるるの外は柳河或は北山城子方面に移出せらる。又附近は有名なる人參の産地にして、當地は其大集散地たり。

五、商工業

商家は約百五十戸ありて、其主なるものは、雜貨商、油坊、糧棧等にして商況は南山城子を凌駕す。移出品は前記産物にして、移入品は概ね柳河に同じ。工業としては、支人の經營に係る精米所二戸あり、何れも石油發動機を用ひて附近より集る水稻米の

脱穀及搗精に従事しつつあり。其他油坊二戸、燒鍋一戸あるも、總て土法にして僅かに土地の需用を充たすに過ぎず。

當地の支人は排日的氣分ありて、邦人に對し家屋土地の貸付を肯せず、故に邦人の居住するものなし。爲めに一時設置せられし我警察官出張所も撤回の止むなきに至りしと云ふ。

(又) 様子哨

一、沿革及位置

當地は古くより輝南、海龍、朝陽鎮等に通ずる道路を有し、地理的關係より漸次發達をなしたるものなり。現在は柳河縣分治所の所在地として、政治的にも商業的にも縣下有數の地歩を占む。而して海龍の東南九十支里、柳河の東北百十支里なる縣の東北境に近接し、朝陽、輝南間車馬の來往頻繁の要衝たり。

二、戸數及人口

戸數約千二百、人口一萬内外を算し、邦人質商三戸外に鮮人の居住者も少なからず。

三、市街の狀況

市街は西に山を負ひ、東南北三面は遙かに山脈連亘し、三通河は南方より市の東を迂廻して北流す。市街は略長方形を成し、東西約三支里、南北約二支里に亘り、東西南北に交叉する數條より成る。市

内は大小の商家櫛比し、商業殷賑にして、街上人馬の往來絶ゆる時なし。

四、官公衙其他の諸機關

縣分治所、巡警局、兵營、保衛團、郵便局、電報局、電話局、税局、商務會、小學校、廟及我警察官出張所等あり。

五、一般産物及特産物

産物は大豆最も多く、又水稻米も近來鮮人によりて耕作せられ、其産額少なからざるものあり、此外高粱、葉煙草及木材、薪炭並に焼酒、豆粕等亦豊富にして、當地方の需用外は北山城子方面に輸送せらる。

六、商工業

(イ)、商業。當地の商業は遙かに縣城たる柳河を凌駕す。商家は約五百戸以上に達し、其主なるものは

- 雜貨商、糧棧、油坊、燒鍋、質屋等にして、移出品の重要なものの年額を示せば次の如し。
- 大豆 六萬石、 高粱 四萬石、 水稻米(粳) 四萬石、
- 葉煙草 五十萬斤、

斯くて此等諸品の主として北山城子方面に移出せらるることは前述の如し。

移入品は綿糸、雜貨等最も多く、其移入状態は主として開原及鐵嶺よりせられ、又北山城子地方より

の再移出に係るものも少からざるなり。

(ロ)、工業。各種の工業あるも總て土式にして、且つ其生産額等も時期に依り一定せず、又此等製品の

大部は當地方に於て消費せられ移出するもの少なし、只燒酒は北山城子方面に稍多額の移出を見るのみ。今各種工業家の戸數を擧ぐれば左の如し。

- 油坊 十一、 燒鍋 六、 磨坊 七、 密業 四、
- 七、雜件

當地も有名なる馬賊の出沒常ならざる地方にして、時々其襲來に遭遇し少からざる害を蒙りつつあるも、從て被害あれば從て恢復し、毫も悄怍の色なし、以て其發展力の尋常ならざるを知るべし。兎に角前途有望の地たり。

(ル)、邊沿街

當地は柳河より興京を経て撫順に通ずる道路上に位し、柳河の西南百十支里、興京、柳河の兩縣境に在り。戸數約百、人口六百に過ぎざるも商家多く、商業比較的盛なり。

又官公衙には巡警局、保衛團、郵便局、電話局、小學校等あり。

産物は大豆、高粱、山貨等其主なるものにして、穀類出廻期の如き、一小市街地にも似ず商況活氣を呈し、往々旅客の往來も容易ならざることあるなり。

(7)、南山城子

當地は往時に在りては、北山城子と共に重要市場の一なりしが、其後北山城子の急速なる進歩の影響を蒙り、復た昔日の面影を見る能はざるに至りしなり。

柳河より撫順に至る街道上に在りて、柳河の西南百二十支里、北山城子の南方八十支里に位す。

最近に於ける戸數約百、人口七百を有し巡警局、兵營、保衛團、稅局、商務會、郵便局、小學校、鮮人小學校等あり。

主なる産物は大豆、水稻米、葉煙草、茸、人參等の山貨及砂金等にして、其一部は北山城子方面へ輸送せらるるも、大部は撫順方面に移出せらる。然れども工業に關しては特記すべきものなし。

當地は有名なる馬賊の巢窟にして、其被害絶ゆる時なく、住民堵に安ずるを得ず、之れ當地の發展思はしからざる一因なり。

(7)、椽子台子

柳河の東南百二十五支里に在りて、戸數百五十、人口一千を有し多少街形を成す、而して巡警局、保衛團、稅局、郵便局、商務分會、小學校等あり。

燒鍋一及約八十の商家ありて稍々繁盛なり、當地の特徴とも稱すべきは、馬賊の娛樂地たる一事なり其爲め賣婦割合に多く、賭博亦盛なり、而して彼れ馬賊の來往地たる關係上未だ其害を受けたることなしと。

なしと。

産物は大豆、高粱、粟及柞蠶、葉煙草、人參其他の山貨にして其取引に依り利する所あるも、第一の顧客としては、馬賊を推さざるべからざるなり、奇々妙々の邑鎮と云ふべし。

一七、復縣

(1)、復州

一、沿革及位置

當地の城廓は明朝時代の築造に係り、當時は海に近く山を負ひ要害堅固の地なりしも、現今は次第に海岸に遠ざかりたるものにして、清朝の初には、蓋平に屬し、雍正十一年知州を置き復州と稱せしが民國二年更に復縣と改稱せられたるものなり。

普蘭店の西北八十支里、瓦房店の西北六十支里、西南娘々宮を距る五十支里に在り。河流多く、土地は概して砂礫地又は砂地なり。

二、戸數及人口

最近の調査に依れば戸數日人四、支那人二千、人口日人五、支那人一萬二千を算す。

三、市街の狀況

市街は東西南北各約二支里の城壁を有し、西門は破壊せられ東南北の三門現存す。市の中央に城隍廟

あり、廟より城門に向ひて四條の大街を通じ、其兩側は大小商店櫛比して市の主要部をなす。又城外
三 東南隅に古塔あり、唐代の建造なりと云ふ。

四、官公衙其他の諸機關

復縣公署、警察所、巡警局、保甲團、巡防隊、郵便局、稅局、鹽稅局、農務會、商務會、教育公所、
醫學會、圖書館、師範學校、中學校、高等、初等小學校、廟宇、基督教會堂等あり。而して縣公署は
早晚瓦房店に移轉する豫定なりと云ふ。

五、一般產物及特產物

主なる產物は粟、蜀黍、玉蜀黍、陸稻、大豆等の穀類にして、柞蠶繭、鹽等少なからず。

六、商工業

(イ) 商業。鐵道の開通となり交通不便の地となりたる關係上、商業範圍も狭小となり、當地及附近村落
に對する物資の小集散場たるに過ぎざるなり。主なる移出入關係地方は大連、營口等にして、天津と
も亦娘々宮を介して多少貿易關係あり。

商家は大小合して約三百戸あるも、内主なるものは約五十戸にて其内譯は概ね次の如し。

燒鍋一、油房七、雜貨二十三、糧店五、香舖一、磨坊五、鐵匠爐二。

移出貨物は包米、高粱、青豆、豆粕、豆油、山繭、石炭、耐火粘土等にして、移人品は綿糸布、麥粉、

燐寸、石油、紙、棉花、砂糖、茶、煙草、鐵鍋、牛皮、綿麻、燒酒等なり。

(ロ) 工業。燒鍋は前記の如く一戸あるのみにて問題とならず。油坊は八戸にして一箇年豆粕約十萬枚
を製造し、其一部は當地にて消費し、他の大部は瓦房店より鐵道を経て大連に、一部は娘々宮を経て
戎克に依り山東方面に移出せられ、豆油は主として當地方に於て消費す。尙ほ外に製粉業者三十餘家
あるも舊式にして見るべきものなく、獨り製鹽業は盛にして一箇年約二萬五千石を製出すと云ふ。

柞蠶業は主として東部即ち莊河及蓋平縣に接せる地方に於て行はれ、云はば此地と縁遠きも其飼養蠶
一場の面積は二百十三把剪子（一把剪子は蠶場の面積を計算する單位にして、柞樹四千株内外、收繭年
額五萬粒乃至十萬粒）に達すと云はる。

(ロ)、娘々宮

普蘭店の西北百四十支里、復縣城の西南五十支里に位し、復州半島と長興島との間に存在する一小島
にして、干潮時には馬車に依り半島との間を往來することを得。又西方長興島との間は其距離數町水
深くして戎克の碇繫に適す。

元と當地は、復縣城に移出入せらるる貨物の吞吐口として頗る繁盛なりしが、南滿鐵道開通の結果復
縣管内の產物は、漸次鐵道に吸收せられ、戎克の來往大いに減じ、現今にては戸數僅に三十、人口約
二百を有する哀むべき小地と化し、僅に巡警局、稅局等あるに過ぎず。

上述の如く往時は貨物の集散盛にして、移出穀物の如きも十萬石を算せしが、最近にては約三萬石即ち三分の一にも充たざるに至れり。而して移入貨物も亦之に準ずるもの如し。以て當地の現況を知るに足るべし。

商業取引は地理的關係上陸路は復縣城を主とし、他は總て水路に依り天津、營口、芝罘等を其主なる取引地とす。而して移出貨物は始て穀物のみにして、主として天津に仕向けらる。移入品は布疋、石油、砂糖、紙類等の雜貨にして、前記各港より移入し。再び復縣城に輸送せらる。尙ほ此等移出入に關係ある商店は、穀物問屋兼雜貨商三、穀物問屋油坊兼雜貨商一、磨坊、旅店各二あるのみなり。

(ハ)、瓦房店

一、沿革及位置

當地は古來此地方に於ける經濟上の一中心點として多少其名を知られしが、東清鐵道の此地を相し南部線三大驛の一として各種の設備を施し次て我滿鐵の其後を受け市街區を設定する等、土地の發展に資する事多かりし結果人口次第に増加し店舗相加はり、市況日に殷賑に赴き今日の隆盛を見るに至りしなり。

復縣管内の略中央に位し、大連を距る北六十七哩、大石橋を距る南八十四哩、復縣の東南六十支里に位し、地勢西方は山脈を以て塞され、東部又丘陵を負ひ南北僅に開け、土地高くして乾燥せるより健康

上の適地を以て目せらる。

二、戸數及人口

日本人	附屬地	五四三戸	一、七五六人
鮮人	同	二戸	一八人
支那人	同	五一七戸	二、五一一人
	附屬地外	二一五戸	七八〇人

三、市街の狀況

當地は滿鐵本線の停車場所在地にして、南は金州附近、北は王家屯、得利寺、松樹等の各地に通じ且つ貔子窩街道の要區たり。

市街は鐵道を挟みて東西に分れ、其東部は官吏、滿鐵社員等の所謂屋敷町に屬し、市區整頓道路清潔にして、家屋は概ね煉瓦を以て造らる、其西部は所謂商業區にして一條の大街其中央部を東西に貫き小街南北に交叉し商家櫛比し、取引又活潑にて當市の生命部たり、市の東部に滿鐵會社の經營に係る公園あり、規模大ならずと雖も子女の運動場に適し、又中央部鐵道西側に官民の寄附に成れる公會堂ありて六百人を收容するを得べく諸種の集會及興行等に使用せらる。

四、官公衙其他の諸機關

支那側にては復縣地方審判廳、檢察廳、模範監獄、警察第三區事務所、稅局、郵便局、鹽務局、警察隊第三分隊、硝磺分局、商務會、儲蓄會、小學校あり。日本側には守備隊、警察支署、郵便局、尋常高等小學校、家政女學校、幼稚園、實業補習學校、公學堂、圖書館、滿鐵醫院、同地方事務所、同保線區、同機關區、同列車分區、同檢車分區及電燈株式會社、滿洲銀行出張所、正隆銀行出張所、信託株式會社、商務會、西本願寺布教所、日蓮宗布教所等あり。

五、一般產物及特產物

包米、高粱、綠豆、粟、大豆、小麥、蕎麥、落花生、柞蚕繭、林檎等の外豆油、豆粕、煉瓦、石灰、織物等の工產あり。

六、商工業

(イ)、商業。地理的的交通的關係上斯業の發達著しく爲めに取引活潑にして一箇年の總取引高は約六十萬圓に達すと聞く、然れども邦人の經營に係るものは石炭の賣込、穀類、獸骨の買込等二、三を除く外は概ね在留人を顧客とする共喰的雜貨商にして、其成績は餘り香ばしからず、之に反し支商は農民と日人とを向ふに廻はし克巳努力日に其勢力を擴大し、利益を收めつつあるなり。今最近に於ける當驛發着貨物を擧ぐれば左の如し。(單位噸)

品目	發	着	品目	發	着
大豆	一〇五	六、二〇二	豆粕	九、一八八	—
高粱	一四一	一一二	豆油	一、二七九	—
麥類	五六	四三	麥粉	二二一	一、五八〇
柞繭	五二二	—	其他農產物	一七二	一、一四三
鹽	五二二	三一	雜穀	一一六	一四一
包米	六六〇	一四五			

(ロ)、工業

油坊。當地の油坊、新式のもの四、舊式のもの一にして、是等は多く復州方面の資本家に依り經營せられ、初めは舊式なりしも近來新式に轉じ、動力に蒸氣機關を用ゐる漸次進歩に向ひつつあるなり。

(ニ)

煉瓦製造業。邦人の經營にして、一箇年の製出數は煉瓦五十萬個、瓦六十萬枚なりと。石灰製造業。當地を距る東方三支里、轉角房及南方五支里凸字店の二箇所に石灰製造所あり、兩者とも支人に依り經營せられ、一箇年の製造高は兩者併せて約百萬斤なりと。機織業。支那人經營に係る手織工場六箇所あり、何れも織工十數名を使用し小規模なるも一箇月約粗

布九百反を製出すと言はる、將來進歩改良の餘地多し。
石炭。當地の東方約八支里の炸子窰炭坑は、日支人に依り經營せられ、常に採炭苦力百名餘を使役して採掘し、炭價廉なるを以て當市支那人の需用に供せらる。

(一) 松樹

一、沿革及位置

松樹は往時寂寥たる一小驛に過ぎざりしが、柞蚕の産多く殊に東方一帶に水田に適する土地を控ふる爲め近年著しき發展をなし今日の繁華なる市街をなすに至りしものにして、滿鐵本線得利寺驛の北方四哩に位置し、前面には鐵道横はり背後に山を負ひたる狭小なる平地に街衢を形成せるも商況比較的活氣を呈す。

二、戸數及人口

邦人	二十二人	六十人
支那人	二百戸	千三百人
計	二百二十二戸	千三百六十人

邦人は藥種商二戸、警察官吏派出所一、精米所一を除き他は鐵道従業員にして、支那の二百戸中には商店百五十戸あり。

三、市街の狀況

當街は面積極めて狭小なれども、我が治下にある爲め清潔法等意外に普及し一見支那街とは思はれざる程度にあり、街は山麓の一小平地と線路との間にありて、家屋は支那式なれども頗る整然たり。住民は一般に裕福にして、十萬以上百萬圓以内の資産家のみにても二、三十戸に達すと聞く、此等の關係上常に馬賊の注目する所となり、時々其襲來の情報あり、爲めに當局者の警戒頗る嚴重なり。

四、官公衙其他の諸機關

我警察官吏派出所、松樹停車場、公學堂、郵便局、滿鐵地方事務所派出所、又支那側には巡警局、税局、鹽務局等あり。

五、一般産物及特産物

豆油、豆粕、生野菜、柞繭、米等にして、當地の東方岫巖、莊河及本縣の一部より産出する水稻米は年額二萬五千石以上に達し美味を以て知らる。

尙ほ當地の水稻米に關し二、三の参考事項を記さん。

- 一、松樹に毎年出廻はる粃は約二萬五千邦石(主なる産地は一面山、莊河、岫巖地方とす)。
- 二、粃に對する精米の率は約三割八分を以て普通とす。
- 三、粃の我一反歩に對する産額は邦量二石五斗。

四、播種量は我一反歩に對し邦量約五升。
 五、粃一石(我一石七斗)は小洋(奉票)約二十圓内外にして、重量三百三十支斤(我一石は約二十七貫二百匁に相當す)を以て普通とす。

六、商工業

(イ)、商業。當地は比較的商業繁盛にして、一見全街舉て商舖なるの觀あり、而して其商店は割合に規模大にして、其取引額亦豫想外に大なり。
 移出の主なるものは産物の部に示せし米、生野菜、柞繭、豆油、豆粕等にして、移入品の主なるものは、高粱、玉蜀黍、粟、酒類、鹽、綿糸布、紙類、麥粉其他の雜貨とす。
 今最近一箇年間に於ける當驛發着重要貨物の數量を示せば次の如し。(單位噸)

品目	發	着	品目	發	着
米	一、六八〇	三〇四	大豆	一〇一	一三二
高粱	—	八五五	包米	三六	四一八
粟	四	五七三	小豆	一九	—
生野菜	一七五	四七	柞繭	二、八四〇	八

豆油	酒類	綿糸布	紙	豆粕	鹽	麥粉	計
四四一	—	—	—	三、九〇一	—	—	九、一九七
—	四三二	二八八	一九〇	—	—	—	五、二二一
—	—	—	—	—	—	—	—

(ロ)、工業。當地の工業は油坊と精米所の二種にして、油坊は五戸あり、其一箇年の製造能力は豆粕約十五萬枚、豆油約五十六萬五千斤にして、其販路は主として大連方面とす。又精米所は南滿精米株式會社(大連鈴木商店支店經營)にして二十八馬力の瓦斯發動機を据付け磨擦器小形七台に粃擦臼二台を備へ、一日の最大能力約六十石(晝夜兼業)とす、而して最近一箇年間の搗精米五千石以上に達し、一石に付約八升の碎米と約四十斤の糠を得と、次に精米三斗入込に要する費用は邦貨約五、六十錢なりと云ふ。

七、雜件

當地の水質は良水と言ふにあらざるも、飲料水として不可なし。
 當地は背後に山を負ふ關係上冬季北風を遮り割合に温暖なり、同時に夏は稍々熱し。

一八、岫巖縣

(イ) 岫巖

一、沿革及位置

當地は金、元代には蓋州に隸屬せしが、清の康熙三年蓋平縣に屬し、奉天府の管轄する所となり、後岫巖州と改稱せられ、民國二年更に岫巖縣の設置せらるるや其縣公署の所在地となり以て今日に至れるものなり。

大洋河に臨み東鳳凰城、西北海城を距る各百八十支里、大石橋に至る西二百支里、大孤山に至る南百四十支里、莊河に至る亦南百八十支里の所に在り。

二、戸數及人口

最近の戸數約一千六百、人口一萬を算し、其内日人七戸十八人及外國人一戸四人あり。

三、市街の狀況

岫巖城は今より約二百四、五十年前に築設したるものにして、其規模極めて狭小周圍僅に一支里餘なるも東南北三面に城門あり。城内は主として官衙公署及其附屬官舎に占められ、其間僅に小賣店の存在するに過ぎず。而して市街は城外にありて、南北一支里、東西半支里餘に亘る。商業區は南北の兩街にして就中南街は稍々繁盛なれども、街上を往復する顧客は寥々たる程度なり。

四、官公衙其他の諸機關

岫巖縣公署、警察所、電報局、稅局、郵政局、商務會、巡防隊、鹽務局、國民高初等小學校、實業學校、師範學校、國民中學校等あり。

五、一般產物及特產物

產物には水稻米、大豆、高粱、玉蜀黍及雜穀、柞蚕、豆粕、燒酒、玉石細工、木材等あり。

六、商工業

商店は大小總數四百六十を算し、主なるものは燒鍋、油坊及雜貨店にして、邦人の賣藥商を營むもの七戸あり。

(イ) 商業。取引は大孤山を主とし營口、海城、蓋平、鳳凰城、安東及莊河等の各地と商關係を有するも、貨物分布の區域は主として四周六、七十支里間に限られ、其範圍は狭小なり。來集貨物は前記穀類を主とす。其他管内の產物として柞蚕、豆粕、燒酒あれども柞蚕は此地に入らずして、直接各市場に搬出せらる、柞蚕の大部は繭の儘大孤山又は安東を経て芝罘に出で殘餘は生糸又は繭紬となりて蓋平に仕向けらる。又穀類及豆粕の七分は大孤山に、燒酒は大孤山を主とし莊河、青堆子にも移出せらる。其他石細工品の營口を経て上海に移出せらるるものあれども其額多からざるなり。綿布其他の雜貨を營口、海城、安東及大孤山方面より、綿麻、磨菇(茸)、葉煙草等を鳳凰城方面より移入して、附近數十支里の間に分布するに過ぎず。移入雜貨中外國品は多く營口に仰ぎ、之を近距離

にして移入上最も密接の關係を有する大孤山に仰がざるは、一見奇異の感なきに非らざるも、其理由
は管内西部地方より營口に出づる木材の歸荷として雜貨を積載するの便あるに因る。

(ロ)、工業。油坊五戸あり一戸一箇年の製粕高は八千枚内外にして、總製出高は約四萬枚、其内十分の

七は大孤山に出で海運に依り安東縣に仕向けられ、殘餘は地方の消費に充てらる。

燒鍋四戸ありて、其釀酒高は一箇年六十二、三萬提(約九十五萬斤)内外にして、六、七分は大孤山、莊

河、青堆子方面に移出せられ、殘餘は當地方に於て消費せらる。

玉石細工業玉石舖六戸あり、各舖皆城内に軒を連ね、岫巖石細工として其名を知らるるも、製作粗笨

にして製産額少く、一箇年三、四千元に過ぎざるなり。

其他染坊七戸、磨坊二戸あれども、特筆すべき程度のものなし。要するに當地は安奉線開通の今日と

なりては僻陬の一都市に屬し、其將來は現狀を維持し得れば幸福と思はざるを得ざるべし。

一九、莊河縣

(イ)、莊河

一、沿革及位置

莊河縣は元と岫巖州の一部なりしが、清の光緒三十二年(明治三十九年)同州の黃海に瀕する地方を割
き、新に獨立の莊河廳を設け東邊道尹に隸屬せしむ。後民國二年縣治を布き莊河縣と改稱せられ、當

地は縣公署の所在地となりたるものなり。

魏子窩の東百八十支里、大孤山の西百四十支里、岫巖の南八十支里、莊河口を遡ること百八十支里に

位置す

二、戸數及人口

戸數僅に七百餘、人口四千七百、内日本人三戸七名居住す。

三、市街の狀況

市街は城壁なく只二條の道路より成り、其上商家の大なるもの殆どなく商況微々として振はざるなり

四、官公衙其他の諸機關

莊河縣公署、警察所、巡防隊、稅捐局、鹽釐總局、漁業分局、郵便局、電報局、巡警局、銀行、商務
會、農務會、監獄、師範學校、高等小學校男女各一、初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

當地の特産は海産物にして、漁業は管内石城島を以て稍々盛なりとす。其他沿海各地之に従事するも
のあるも舊式の漁獲法にして注目に價するもの少し。其漁獲物は大刀魚、鱈、鯖、鱧、鱸、鯛等にし
て、一箇年約八萬斤内外なり。之に亞くは鹽にして管内青堆子以西の海岸一帯に多くの鹽田を見る、
其數合計約三百町歩にして、一箇年に於ける製鹽高は約十萬石なりと云ふ

六、商工業

(イ)、商業。陸上方面に於て取引を有する地方は營口、遼陽、海城、岫巖、大孤山等なるも其往來は餘り頻繁ならず。而して遼陽、海城、岫巖よりは燒酎、煙草、麻の類を移入し、鹽及鹽魚を移出し營口、大孤山等よりは雜貨を移入す。

當地に集まる物資の主なるものは山繭、水稻米、大豆等にして、多くは大連に輸送せらるるも、獨り山繭は直接芝罘に輸出するもの多し、然れども縣下中蓋半縣及復縣に接近せる地域のものは松樹驛に安東及鳳凰縣に接近せる地域の部分は安東に送らるるものを多しとす。

(ロ)、工業。當地の工業は油坊三戸、窯業四戸あるのみにして而も其經營振は至て幼稚にして特筆すべき程度のものなし。

七、雜件

此地に來航する船舶は、元と莊河を航行し、市街に沿へる河岸に於て貨物の積卸を爲せしも、該河は年々土砂の流下に因り碇繫の便を欠くに至りしを以て、今より十七、八年前莊河を距る三支里の下流、裝塢を碇繫地となせり。然るに同地は冬季十一月下旬より三月上旬迄結氷するを以て、其期間は大拉腰口と稱する莊河を距る十八支里に存在する不凍港に碇繫す。來航船は芝罘、安東、大東溝、大孤山、貔子窩、青堆子、長山列島等に航行し、雜貨及穀物は殆ど總

て戎克に依り運搬せらる。

(ロ)、青堆子

沙河々口を溯る事二十支里、其左岸に臨み、西莊河及東大孤山に至る各七十支里、北岫巖に至る百四十支里に在り。當地は縣内に於て大孤山に亞ぐ市街地にして、戸數約五百、人口約四千、内日人二戸三人居住す。

官公衙には税捐局、巡警局、巡防隊、郵便局、電報局、鹽務局、商務會、小學校等あり

當地附近の産業は柞蠶及製鹽を主とし、工業に就ては何等見るべきものなく、只小規模なる油坊數戸あるのみなり。

當地と商業關係を有する都邑は、岫巖、海城、鳳凰城等なるが、此等の地方よりは少量の燒酎、山繭若くは葉煙草、麻の類を移入し、鹽及鹽魚の類を移出するに過ぎず。

物貨の集散範圍は附近六十支里に限られ、此等の地方に産出する包米、水稻米、大豆及山繭等を移出し又芝罘より移入する雜貨を供給す。要するに大孤山に比し狭小なる集散地たり。

商店は其數大小合して約百二十戸にして、其内稍々大なるもの約二十とす。此地と國內貿易關係を有するは芝罘を主とし、上海之に次ぐ。

移出品は前記の山繭、包米、大豆等にして移入品は絹綿布及雜貨類なり

(ハ) 大孤山

一、沿革及位置

當地は東北百八十支里(海路三百支里)に安東を控へ、北岫巖に至る百四十支里、西莊河縣城を距る百四十支里、南は黃海に瀕し東は大洋河に臨み、同三角洲に建設せられたる一商港にして、往時安東の未だ發達せざる當時に在りては、常に木材市場として著名なりしのみならず穀物、雜貨の吞吐港として其商業範圍は遠く東方より北方に亘り一時商業上重要な地位を占めたりしも、光緒初年後大東溝、安東縣の勃興に伴ひ、年々其繁榮を該地に奪はれ、今や衰退の老境に在り。

二、戸數及人口

戸數二千二百二十八、人口一萬五百十三を算す。

三、市街の狀況

北は多少風景に富む石山を負ひ、東西に通ずる不規則なる二條の大街と、之を圍繞する住宅區及小街より成り、家屋は比較的良好の部に屬すべし。毎朝穀類、野菜類の開市ありて多少雜沓す。英商怡隆洋行の獨占たる汽船は、毎日安大間を往復して、旅客の搭載と物資の移送に従事せるを以て解氷期間は安東との交通便利なり、但し港の遠淺なるより乗降に不便を感ずるものあるのみ。

四、官公衙其他の諸機關

兵營、巡警局、税局、郵便局、電報局、電話局(安東及岫巖に通ずる長距離のもの)、商務會、銀行、兩等小學校、寺廟、日本領事館警察官吏出張所等あり

五、一般產物及特產物

大豆、水稻米其他の農產品及柞蠶並に安平類とす。

六、商工業

(イ)、商業。既記の如く安東の勃興に伴ひ商業範圍を同地に奪はれ、且つ數年前までは山東通ひの民船も直ちに市街の南端まで進航し得たるも、年々大洋河の土砂に港口を埋没せられ、目下は荷役船の外入港する能はず、只二百石積内外のものに限り時に大潮を利用して漸く遡行し得るも、三、四百石積のものに至りては冲合四支里の處に碇泊し、此處にて貨物の積換を爲さざるを得ざる不便に陥り、商勢益々不振の傾向を呈するに至れるを以て、當地の商人等は明治四十年商務會の事業として、經費十萬七千吊(現今は吊文制度なし)を投じ、長さ五支里の突堤を市街の東南端より船着場に至る干瀉の上に築き、輕便鐵道を布設せり。

當地に於ける各種雜貨は、殆ど全部芝罘より移入す。只冬季結氷後在荷品の不足を生じたる場合に限り、安東又は大東溝より仕入れ、又此地より仕向くることあるも、其量殆ど論ずるに足らず。然れども上海直移入の土布にして青堆子、莊河、龍王廟等に送らるるものは、一先つ此地に陸揚し、再び小

民船又は馬車に依り分布せらるるもの多し。岫巖より此地に来るものは繭及燒酎等なり。今最近の調査に依る物資集散の概況を擧ぐれば左の如し。

大豆三萬五、六千石

包米約一萬石、

水稻米三千石、

豆粕三萬枚、

豆油五萬斤、

安平二萬四千捆、

柞蠶一萬籠(一籠に五萬個入と七萬個入の二種あるも其區分判明ならず)

此等の集散物は十中の七迄は安東に吸収せられ、大連に出づるは其殘餘に過ぎざるなり。

(ロ)、工業。製造業としては只油坊あるのみにして、燒鍋又は磨坊なし。燒酎は鳳凰城、城廠地方より之を移入し、麥粉は外國品を需用す。

油坊は其數七戸あり、一戸概ね碾子(臼)三台又は四台と搾子十二台とを設備し、職工十一、二人、馬匹十一、二頭を使用し一日二十槩乃至三十槩を製造す。其期間は約八箇月にして、一家一箇年の製出高約四萬枚に上り大孤山全市の總製出高は約三十萬枚に達す。而して其三分の二は本邦に輸出し、餘は芝罘及當地の需要に供せらる

第三節 洮昌道

一、遼源縣

(イ)、鄭家屯

一、沿革及位置

元と當地は達賴罕王旗下温都兒郡王の所領にして、今より七十年前一蒙古人の此地に旅店を開設せし當時にありては、荒涼たる平原にて單に東蒙唯一の産物たりし畜産品の露店の市場として多少其名を知られしに過ぎざりしが、地の利の關係は逐年居住者を呼び、急速なる發達を遂ぐると共に、何時しか農産市場と化し、當方面に於ける蒙古貿易市場として、穀類の大集散地として、將又遼河の最終點埠頭として、重要市鎮たるに至りしなり。加ふるに大正七年四洮線開通となり、一層交通の便を増し遠近四圍の開發を促進せしが、偶々東支線の輸送力衰へ南滿地方より東蒙奧地へ雜貨の供給頻繁となり鐵道便を利用し此地を經由して移入する物資の漸く増大するや、著しく繁盛の度を加へたり。然れども大正十年白音太來支線の開通を見、同十二年四洮線の全通となりたる結果一個の中間驛となり、一方遼河の水運は水田の灌漑に因り甚しく航行を困難ならしめたるのみならず、他方鐵道當局の貨物吸収に努力せし等諸種の原因は、此地の前途に暗雲を下すに至りしも、其後の實狀に徴すれば、別に衰退の象徴なきに似たり。而して現縣治は民國二年の設置とす。

四平街の西方鐵路五十四哩餘、洮南の南方百四十餘哩、白音太來の東方七十哩に位し、遼河の右岸を距る二支里にあり。

二、戸數及人口

戸數六千三百五十、人口五萬二千六百にして、外に日人百二十七戸、三百二十二人居住す。

三、市街の状況

街衢は支那家屋を以て充たされ殊に不規則にして道路狭く、其上不潔なれども案外大廈高樓に富む。市街は長さ東西約八支里、南北四支里に亘り、城壁なく樹木なく一見人をして新興の殖民的都市たるを思はしむ。四時共に商況活潑にして、各種物資の集散多く頗る繁盛なり。

四、官公衙其他の諸機關

支那側。洮昌道尹公署、遼源縣公署、警察所、交渉署、地方審判廳、同檢察廳、陸軍兵營、郵便局、電報局、電話局、電燈廠、巡警總局、軍官學校、稅局、商務會、監獄、銀行、師範學校、中學校、男女高等小學校、同初等小學校等。

蒙古側。福長地局、巡邊局(一名草局子とも稱す)。

日本側。領事館、滿鐵公所、小學校、醫院、銀行等。

五、一般産物及特産物

産物又は集散品の主なるものを擧ぐれば、高粱、粟、大豆、麻子、瓜子等の農産品及豆粕、豆油、麻粕、曹達、絨氈、畜類、各種皮革、羊毛、猪毛、甘草、甘草エキス、染物、燒物等にして、此中絨氈は模様大小各種ありて、邦人に愛用せられ特産の一たるなり。

六、商工業

(イ) 商業。商店は大小九百餘戸を算するも、其内比較的大なるは約三百餘戸にして、其種別左の如し

當舖	四、	糧米舖	一九、	油坊	九、	銅匠舖	三、
石油公司	二、	雜貨舖	八九、	藥舖	一四、	車店	九、
燒鍋	一、	洋貨莊	八、	紙坊	二、	油漆舖	二、
皮張舖	二九、	酒舖	一一、	木匠舖	二七、	客棧	三、
錢莊	二七、	船店	五、	曹達商	四、	京貨莊	二、
鞍鞞舖	一一、	靴鞋舖	一二、	鐵匠鑪	二一、	糧棧	三〇、
銀匠舖	一三、	麻舖	一二、	茶葉舖	六、	磁器舖	一八、
錫匠舖	五、	染坊	六、				

移入品の主なるものは、綿糸布、砂糖、鹽、陶磁器、鐵器其他内外雜貨、煙草、木材、石油等にして總額六百五十萬元内外に達す、又洮南、瞻榆、開魯等より移入せらるる甘草は、其額年々二百萬斤乃至三百萬斤に達し其多くは邦人の手に依り取扱はれ、重要集散品の一たるなり。當地集散品の大宗たる各種穀類は、毎年十一月頃より陸續馬車に依り搬出せられ、十二月を最盛期とし、一日の出廻り馬車八百輛内外、其數量四千石に達する如きは珍しからず。該穀類は糧棧に買収又

は委託せられて院内に保管し、従来は一部當地にて消費せられ、一小部分は陸路馬車にて滿鐵沿線四平街に搬出せられ、他の大部分は春季遼河の解氷後民船に依り營口に送るを例とせしが、四洮線の開通以來陸路馬車に依り四平街に搬出せらるるものは皆無となり、糧棧の手に入るや直に麻袋内に收められ、鄭家屯驛構内に搬出し、順次鐵道により輸送せらるるもの漸く多きを加へ爲めに水運は年一年其領分を鐵路に蠶食さるるに至れり

今當地に於ける移出貨物概數年額を示せば次の如し。

品目	數量	品目	數量	品目	數量
高粱	一〇〇、〇〇〇石	小麥	五、五〇〇石	大豆	三二、〇〇〇石
粟	七五、〇〇〇石	麻子	二八、〇〇〇石	玉蜀黍	一四、〇〇〇石
瓜子	二四、〇〇〇石	大麥	三、三〇〇石	其他穀類	一〇〇、〇〇〇石
羊皮	八、〇〇〇枚	牛皮	一一、〇〇〇枚	馬皮	四、〇〇〇枚
狼皮	一、〇〇〇枚	狗皮	六、〇〇〇枚	狐皮	九〇〇枚
羊毛	一五〇、〇〇〇斤	猪毛	三〇、〇〇〇斤	駱駝毛	四、〇〇〇斤
猫皮	一〇、〇〇〇枚	牛	二、〇〇〇頭	馬	一、七〇〇頭

羊	獸骨	曹達
一一、〇〇〇頭	二四、〇〇〇斤	五、〇〇、〇〇〇斤
甘草		
自一一、〇〇〇、〇〇〇斤 至二一、〇〇〇、〇〇〇斤		

(ロ)、工業。當地の製造工業は燒鍋、油坊、磨坊、毯毡局(絨氈製造所)、皮舖、染坊等にして、其製造所等を概示すれば次の如し

- 一、燒鍋一戸ありて一箇年約五十萬斤の燒酒を製造す。
- 二、油坊は四鄭線開通後漸次發達し、現在既に九戸に達し一箇年平均豆油四十萬斤、豆粕大三萬枚小二十萬枚を製造し、其内豆油約二十萬斤及豆粕の大部を移出す。
- 三、麻油坊は十四戸を算し、麻油の年産額平均八十萬斤にして、當地消費一割餘を除き、他は總て營口其他の各地に移出せられ、麻粕は製造數三十萬枚の内二十萬枚は當地に於て消費し、殘餘は廣く各地に移出す

- 四、磨坊は多くは糧棧の兼營する所にして其數九十戸を算し、外に小磨坊三十戸に達するも鐵道の開通後機械製粉の侵入に因り、磨坊の製造高は逐年減少し、今や其年生産概數は、小麥粉約二百萬斤蕎麥粉約百萬斤、包米粉約百萬斤に下りたり。

五、豆素麵製造業も粮棧の兼營に係るもの多く、其數大小五十餘に達し、其年生産概數は約四十五萬斤なり。

六、毯毡舖は其數七戸ありて、原料として綿山羊毛、駱駝毛及牛毛を使用し、絨氈の製造販賣をなせども、總て幼稚にして進歩遅々たり。

七、皮舖は畜産物の集散地たる關係上比較的多數にして、其數大小六十餘戸を算せしが、原料の騰貴、販路の縮小等の爲め、近年著しく減少し營業不振の状態に在り。

八、染坊は大小合せて十七戸にして、總て支那服用の土布を染色するを專業とし、注目し價するものなし。

九、窯業、當地に於ける窯業に磚瓦窯及瓦盆窯の二種あり、前者は二十餘戸ありて年平均製造高百萬枚に上り、後者は粗製支那陶器を製造するものにして、其數五戸の筈なり、何れも規模技術共に特記の價値なし。

十、甘草エキス製造業は内蒙一帯の特産品たる甘草より「エキス」を製造するものにして、大正六年邦人の投資に依り、興安産業合資會社を設立し、斯業を開始せるものにして、業績不可ならざるも好景氣時代に餘り手を廣げ過ぎたる爲め、今や財界の影響を受け苦境にある模様なるも、汲々として其挽回に努力中なれば、必ず捲土重來再び羽翼を張るに至るべし。

十一、電燈公司是支人數名の發起に依り、資本金小洋二十萬元、拂込額十五萬元を以て設立し、大正七年十月營業を開始したるものにして、其發電量一日平均千百キロ、九千三百餘燭なるも營業狀態面白からず、辛うじて營業を持續しある筈なり。

七、雜件

當地は上記せし如く、當初畜産の市場として興り亞で併せて農産の集散地となり、遼河の水運に依り之を吞吐して一大發展を遂げ、更に四洮線の開通に依り最終驛たる地位を占め、愈々發展の驚くべきものありしが、其後水陸兩方面共其重要の度を減するに至りしも、元來滿洲の各種集散品は必ずしも文明的交通機關に依り集散さるるにあらず、時間の長短よりも賃金の高低に支配さるること多し。然るに穀類等の出廻期は農民の閑散期にて馬車の用途なき時なれば、殆ど只に近き運賃をも顧みざる慣習あり。爲めに鐵路に並行し三、四百支里の遠方よりする馬車の運搬絶えざるなり。此意味に於て當地は住民の前途を憂ふる如き衰退を來すこと斷じてなき事を筆者堅く保證す、ビク／＼することなく大いに奮闘して可なり。努めよ鄭家屯住民の諸氏よ！。

(ロ)、三江口

鄭家屯の東南十四哩七鎖、遼河の右岸約三支里に位し、三江口驛は對岸大民屯にあり。此地は鄭家屯を経て南流する西遼河、懷德縣方面より流るる東遼河及西北より來る小清河の三河相會

する點に近接せるより、三江口と命名されしものなりと傳へらる。

鄭家屯埠頭の開放せられざる以前は、遼河の最上流埠頭として、鄭家屯及興地物資の移出及營口方面よりする雜貨移入の關門を爲し、一方四平街、八面城、昌圖方面より鄭家屯に至る街道の渡船場として要衝の地に當り、市況日に殷盛に赴き、戶數五百餘、人口三千五百を算せしが、鄭家屯埠頭の開放に依り、其有利なる地位を失ひ、且つ頻りに洪水の被害を蒙り、加ふるに四洮線の開通に當り、其停車場は地勢上對岸大民屯に設けられたる結果、商家の移轉するもの多く、市勢頓に衰退し今や戶數約百七十、人口千二百に過ぎざるなり。

集散物資の主なるものは大豆、高粱、綠豆等の農産物にして、最近に於ける年額約七、八萬石なり。而して其七割は水運により移出せられ、外に鯉鱸等の水産物亦少なからず。雜貨の輸入は一箇年約二千件なり。是等物資の集散と上下航船の碇泊に依り、僅に往時の面影を保持せるのみにして、巡警局、税局、小學校、郵便局等の機關あるも、要するに前途望みなき一個の老衰地たるに降りしは此地の爲めに同情に堪へず。

水質一般に不良にして、瀘過せざれば飲料に供し得ざると、年々殆ど洪水の被害なきは稀なるとは當地の一大缺點にして、驛の大民屯に置かれたるも此等に原因する所多し。

(イ)、太平川

鄭家屯の北方二百六十五支里に位し、戶數約百、人口九百を算し、内商家約十戸にして軍隊（約三十名）巡警局、郵便局、小學校、税局等の機關あり。然れども殆ど街形を成さざる一個の部落なり。産物は農産品なれども、直接鄭家屯等に送られ此地に集散することなく、要するに來往人馬の宿泊地たるに過ぎざるなり。

四圍に廣漠たる荒地多く、從て牛群羊群の放牧せるもの少しとせず。一般に蒙古的氣分多し。

二、洮南縣

(イ)、洮南

一、沿革及位置

洮南は元蒙古札薩克圖王旗の遊牧地にして、僅に蒙人家屋數戸の存在せるに過ぎざりしが、光緒二十九年（明治三十六年）、時の奉天將軍增祺の献策により清國政府と札薩克圖王との協議を経て此地を開放せり。爾來漢人の來往するもの逐次増加し、大いに開墾せらるるに及び、光緒三十一年洮南府を新設せしが、民國二年更に縣と改稱せられ、政治及商工業の中心地と化したるものなり。

地名を薩鷄街又は忙牛鎮と稱し、鄭家屯の北西約五百支里、伯都訥の西方約四百三十支里、洮兒河の右岸六支里の地點にあり。

二、戶數及人口

最近の調査に依れば戸數約四千七百、人口約二萬七千を算し、内商家九百四十戸にして邦人亦六戸十七名居住す。

三、市街の状況

縣城は周圍五支里の土壁を以て繞らされ、東西南北の四門を有し、尙ほ東西北の三面に各小門二あり。街衢は南北三條の大道ありて之に二條の大街交叉す。共に市内樞要の部分にして、道幅廣く商舖櫛比す。家屋は總て平屋建にして、北滿各地に見ると同様、土葺屋根其大部を占むるも、大商舖、官衙中には煉瓦建、瓦葺の壯麗なるもの尠からず。

四、官公衙其他の諸機關

師旅兩司令部、陸軍兵營、洮南縣公署、警察所、巡警總局、地方審判廳、同檢察廳、稅捐局、荒務局、天恩地局、郵便局、電報局、電話局、商務會、農務會、銀行、教育會、勸學所、衛戍病院、高等小學校、初等小學校、女子小學校、改良私塾(八)、私立學校(一二)等あり。

巡警局は管内を六巡警區に分ちて、各區に步騎警を配置し、城内に巡警總局を設け之を統轄す。

稅捐局は文書、會計、核收(稅捐徵收)、稽查(漏稅監視)、の各科を設け、每課に課員一名、補助員たる備員及巡差若干を置きて事務を分掌す。其徵稅管轄區域は洮南、安廣、鎮東、鎮東、開通、洮安、瞻榆の七縣にして、開通、安廣、瞻榆各縣に分局を設け、突泉、鎮東、乾安、洮安、瓦房等の各地に派出所

を置き而して各分局に委員、分卡に備員を配置しあり。

天恩地局とは即ち地稅徵收局にして、縣公署内に在り。縣知事の管理に屬し、蒙古王府より協理を派して徵租の事務を幫助す。

荒務局は民國八年七月奉天公署より總辦李學詩、幫辦王翹先を派して、洮南東街に本局を置き、各荒地には分局を設け、札、圖、鎮の三旗下に於ける荒地の拂下に關する事務を辦理せしめつつあり。

五、一般產物及特產物

當地に集散する產物の主要なるものは、穀物、牛、馬、羊、豚及皮革類等なり。然れども連年に亘る蒙古一帶の擾亂、蒙匪の跳梁、馬賊の横行等の爲め、非常なる窮乏に陥り其結果蒙古特產品の取引は昔日の如く旺盛ならず。今最近に於ける當市場出廻はり貨物の種類及數量の概況を示せば次の如し。

品名	數量	品名	數量	品名	數量
高粱	一〇〇、〇〇〇石	蕎麥	五、〇〇〇石	大豆	六〇、〇〇〇石
黃米	一五、〇〇〇〃	小麥	二五、〇〇〇〃	包米	一〇、〇〇〇〃
粟	三五、〇〇〇〃	穀類其他	三四、〇〇〇〃	馬尾	二〇、〇〇〇尾
牛	一〇、〇〇〇頭	羊毛	一五、〇〇〇斤	猪鬃	一〇、〇〇〇斤

馬	六〇、〇〇〇頭	駱駝毛	七〇、〇〇〇斤	猿皮 (黃皮子)	一〇、〇〇〇枚
羊	二五、〇〇〇"	驢皮	一〇、〇〇〇枚	狗皮	一〇、〇〇〇"
豚	一五、〇〇〇"	貉子皮	二二、〇〇〇"	貓皮	一五、〇〇〇"
馬皮	〇七、〇〇〇枚	狼皮	五〇〇"	狐狸皮	二、〇〇〇"
獸骨	五〇、〇〇〇斤	其他曹達、川魚の出廻りも亦少なからず			

六、商工業

(イ)、商業。當地方より移出する物資は主として牛馬羊豚等の家畜及皮毛、川魚、曹達及穀類等なり。而して其移出先牛は齊々哈爾濱方面を主とし哈爾濱方面之に次ぎ、馬は主として農安、長春方面にして皮毛は奉天、天津方面に移出せらる。又魚類は鄭家屯に向ふもの多く、曹達は伯都訥、奉天、天津北京方面にして、農産物は鄭家屯方面なり。斯くて移出總額は一年平均三百萬元にして、農産品は其五六割を占む。

當地に移入せらるる貨物は綿糸布を主とし、其他各種の雜貨及少量の農産物、鹽、豆粕等なり。其移入元は綿糸布、洋雜貨は奉天、營口、鄭家屯方面にして、農産物は伯都訥、長春、鄭家屯方面を主とし、鹽は營口、豆粕、豆油は法庫門、新民屯方面なり。最近一箇年間に於ける此等移入貨物の數量を

示せば次の如し。

品名	數量	品名	數量	品名	數量
綿糸	五〇俵	紙類	一、五〇〇捆	洋煙	五、〇〇〇元
綿布	一、五〇〇"	洋蠟	二〇〇"	洋麵	一〇〇袋
洋雜貨	三〇、〇〇〇元	燐寸	二、五〇〇"	麥類	七〇〇石
砂糖	三、五〇〇俵	石油	三、〇〇〇"	鹽	一五〇、〇〇〇斤
硬米	五〇石	豆油	一〇、〇〇〇斤	木材	二〇〇車
豆粕	一〇、〇〇〇枚	燒酎	五、〇〇〇"		

尙ほ此等物資の移入總額は約四百萬元見當にして、其一部は更に奥地に向け再移出をなせり。當地の商業系統を道路的に區別せば大約次の如し。

(一)、洮南、鄭家屯間 五百支里

鄭家屯より邊昭及開通を経て當地に至る大道にして、道路は平坦車行に便なり。奉天、營口等の方面より鄭家屯を経て當地方に移送せらるる貨物は從來必ず此大道に依りて運搬せられしも、最近四洮鐵道開通の爲め漸く之に吸收されつつあるなり。

(二) 洮南、農安間

五百支里

洮南より哈拉烏蘇、四海窩棚「タコン」、營台、三井山等の各地を経て農安に至る道路にして、當地方面より該方面に達する三道中の中間道に當る。本道は其南道及北道に比して稍々交通不便なれども、途中匪賊の危険少きを以て、移出品運搬車馬の往來頻繁なり。然るに四洮線開通の結果漸次其領分を鐵道に吸収せられ、日に寂寥を見つつあるなり。

(三) 洮南、齊々哈爾間

五百四十支里

洮南より鎮東、泰來及昂々溪の各地を経由し齊々哈爾に達する大道にして、該地方より齊々哈爾に向ふ牛群は皆此大道に依りて搬出せらる。鐵道開通後も此形勢に就ては別段の變化なきに似たり。

(四) 洮南、伯都訥間

四百三十支里

洮南より安廣、大賚等の各地を経由し伯都訥に至る道路にして、木材の運搬は概ね此道に依る、但し鐵道開通の結果は將來多少の變化を招來すべし。

(ロ) 工業。當地の工業としては燒鍋、油坊、豆素麵、染坊、毡子、窯業、製革及機業等なれども、何れも規模小にして加ふるに幼稚なる舊式の製法を踏襲す。然れども最近に於ては多少其生産力を増大し、製品は該地方の需要を充すのみならず、鄭家屯方面にも多少の移出力を有するに至れり。尙ほ其製造能力を擧ぐれば次の如し。

(一)、燒鍋。市内に四戸(各二班)ありて一箇年の醸造高燒耐約十三萬斤なりと云ふ。而して一班一日の原料及醸造高は高粱三石二斗、麩子(糶)百二十塊、燒耐五百斤内外なり。

(二)、油坊。城内に於ける油房は九戸にして、其年製出額は豆油約百十六萬六千斤、豆粕四十三萬七千枚なり。此外麻油を製造するもの兼營者を合し十二戸ありて、一年の製造高は麻油約十萬斤、粕約二萬枚内外なり。

(三)、磨坊(製粉業)。本業の多くは糧棧、燒鍋、旅店等の兼營する所にして、城内に五十餘戸あり。而して毎戸一班乃至三班を有し、一日一班麥粉約百七十斤を製出す。又市中には四十餘戸約九十班の粉坊ありて一日千四百四十斤の製造能力を有す。

(四)、窯業。煉瓦製造業十數戸、陶器製造業五戸あり。三月より十月に至る間に於て洮兒河の土を以て水缸、鉢壺等を製造し、蒙古方面に移出す。

(五)、染坊(染物)。約十五戸あり、原料は主として黑龍江省より供給を受けつつあり。以上の外毡局十數戸、豆素麵業、皮革業、機業等あれども其規模小にして未だ特記の程度に達せざるなり。

鐵道は地方の文明を開發すること意想外のものあり、特に支那就中滿蒙に於て其最も然るものあるを見る。當市も今や鐵道開通の福幸に接するに至りしを以て、其地位に更に重要な度を加へ、前途益々

多望なるを疑はざるなり。此地は筆者に縁故深し、大に其發展を祈らざるを得ざるなり。

(ロ) 瓦房

洮南の西北百十支里、洮安の西方八十支里、突泉の東北百二十支里、那全河の東南二十支里に在り。

戸數百三十人口八百を算するも街形を成す部分は約七十戸に過ぎざるなり。然れども燒鍋一、雜貨舖

六、藥舖二、菓子舖二、肉舖二、鐵工二、木工一、料理店一、旅舎一の商店あり。

又巡警局、小學校、郵便局、税局等ありて、貧弱なれども此地方に於ける小市場たり。

産物は農作物を主となすも、外に木材の集散あり。即ち洮兒河の上流索倫地方より流下し來る木材は

一旦此地に着したる後夫々各地に分布せらるるものにして、丸太を主とし一年の集散高は大小合せて

約五千本なりと云ふ。

三、昌圖縣

(イ) 昌圖

一、沿革及位置

昌圖縣は明時代の遼河衛の地にして、清朝に至り蒙古博王旗下に屬し、久しく荒蕪に委したりしが、

嘉慶七年漢人の移住を許し開墾を奨勵し其後幾多の變遷を経て、光緒二年遂に昌圖府と改稱せられ、

續いて民國二年新に昌圖縣と變更せられ、昌圖城は縣公署の所在地となりたり。

當地は舊名を古榆樹城子と稱し、今も斯く呼ぶ古老なきにあらざるも、最大部分は現名を呼稱す、滿

鐵昌圖驛の西方約二十支里の地點にありて、驛との間は手押式輕便鐵道に依り連絡せらる。

二、戸數及人口

戸數約三千五百四十六(内支人三千五百三十四、日人十二)

人口約二萬五千二百十五(内支人二萬五千九十九、日人二十五)

を算し此内商家約四百戸あり、而して住民中支人は直隸人六分を占め山西、山東人之に次ぐ。

三、市街の狀況

市街は東西に稍々長く、人家稠密なれども、南北は比較的粗散なり、而して街衢は東街、西街、南街

北街の四區に分たれ中央には大厦多きも周圍は矮小なる家屋多し、又街道は北街の一部を除く外波狀

又は傾斜せり、斯くて其一部には公設又は民設の街燈を點す。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署、警察所、蒙旗地局、哨鑛局、地方收捐處、税捐局、郵便局、電報局、電話局、陸軍第二旅第

三團第二營部、商務會、農務會、昌圖縣保甲、監獄、銀行、農事試驗場、鹽務分卡局、日本警察官吏出張所、

師範學校、男子高等小學校、女子高等小學校、國民小學校及寺子屋的學校等あり。

五、一般産物及特産物

大豆、粟、高粱、麥類、胡麻、雜穀等の農産物及豆粕、豆油、燒酎等の工産あれども、他に録すべき
 價値ある特種産なし。

六、商工業

(イ)、商業。當地に集散する主なる物資の年額を擧ぐれば、大豆十萬石、粟十萬石、高粱六萬石、胡麻
 五百石、小麥一萬石、大麥五千石、豆油二十五萬斤、豆粕大小四十萬枚、燒酎百五十萬斤の範圍にし
 て此約八分は他地方に移出せらる。

又當地の商家は廣源昌、同泰祥、廣昌和、寶聚源等の巨商を筆頭に約四百戸ありて、之を大別すれば
 概ね次の如し。

質商五、染商十二、屠殺業二十、古物商五、旅店四十、飯店十五、裁縫舗二十、茶館二、鍛冶八、榨
 油業四、妓館三十五、問屋三、粉坊六、燒鍋二、磨坊四十等にして通江口の水運繁榮時代に在りては
 北方各地との貨物の來往盛に、商取引亦甚だ振ひ鐵嶺に次ぐ重要市場たりしも南滿鐵道の開通するや
 當地以北に於ける貨物の大部分は同鐵道により運搬せられ爲めに通江口の水運物資は頓に減水し、其
 衰微は間接に此地の商業に影響しまた昔日の如く旺盛ならざれども、今尙ほ鐵昌圖に於て卸積する貨
 物は悉く此地を經由して各地に頒布せらるるを以て、輕視すべからざる市場の一たり。

元來當地は縣の政治中心たると共に、經濟上の中央市場を爲し、通江口と相俟て附近の各市鎮を支配

したるものなるが、彼の私帖子發行禁止命令は此地の經濟界に大打撃を與へ、復た立つ能はざらしめ
 從來此處に集散せし穀類、雜貨類は或は開原に、或は金家屯に、殊に大豆の如き穀類は現今に在りて
 は、生産地より直接開原又は通江口に搬出せられ、此地を經由するもの甚だ少く、昌圖の經濟的地位
 は漸く他方に移り昔時の盛況なきに至りしは、盛者必衰とは云ふものの、此地の爲め同情に堪へざる
 なり。

(ロ)、工業。當地の工業としては、油坊四戸、磨坊四十戸、粉坊六戸、燒鍋二戸等あること既記の如く
 なるが、何れも幼稚なる土式經營にして、特筆すべき程度のものなし。

(ロ)、鐵昌圖

鐵昌圖とは昌圖驛所在地を云ふ。馬踪河の左岸、昌圖城の東約十二支里、雙廟子の南十六哩、開原の
 北二十哩の地點に位置し、露國の經營時代にありては、市街と目すべき程度に至らず、道路家屋等亦
 不備不完全を極めたりしが、我野戰鐵道提理部の手に歸し、亞で滿鐵會社の經營に移りて以來漸次市
 區を劃定し、道路を修築し、又家屋の建設規定を實施する等努力の結果稍々見るべき今日の市街を形
 成するに至れり。斯くて逐年隆昌に赴きつつありしが、惜哉本家とも云ふべき昌圖の衰頹するに伴ひ、
 當地亦其影響を受け、市況衰退の傾向にありて、現下戸數二百二十(邦家八十、支家百四十)、人口約
 一千二百(邦人二百四十五、支人九百五十二)を算するも、將來増加の望殆どなし。

麻袋	二七	五一二		
----	----	-----	--	--

備考、本表中馬其他ノ畜類七百五噸八、馬十八頭、牛二十六頭、生豚四百八十二頭分トス
工業は現下擧ぐべきもの更になきも早晚必ず造酒及製油業の起るに至るべく、兎に角交通關係上將來發達すべき有望の地たり、

(二) 金家屯

金家屯は昌圖城の西五十支里、通江口の北方同じく五十支里、開原の西北九十支里にありて、戸數千三百、人口一萬を算す。

市街は八面城より法庫門に通ずる街路上にありて、東南より西北に亘る細長き一條の街衢を成し小河の東南より市街の西部を迂回し北に流るるものあり。主なる商家は百五十戸にして、一般に概して富裕なり。

當地は縣内五市場の一にして巡警局、商務會、郵便局、税局、自警團、高等小學校、初等女學校、男子初等小學校等の諸機關あり。

産物は大豆、高粱、麻、葉煙草の類にして、外に燒酎、豆油、麥粉、燒物、木炭等の製造品あり。當地に來集する穀物の集散高は年額十萬石と唱へられ、其六割は通江口に下り、二割は豆粕に變じて

開原に出て、他は昌圖に送らる。

取引上密接なる關係ある地方は通江口、昌圖、開原の三地にして、時期と交通と價格の如何に因り必ずしも一定ならざるも、移出に於ては通江口を主とし、移入に於ては通江口五割、殘餘の五割は昌圖と開原に二等分の割合にあり。

工業方面に於ては、燒鍋と油坊と磨坊とにして其概要は次の如し。

燒鍋は二戸ありて、年産額約六十萬斤、主として當地附近に於て消費せられ、一部は康平、通江口、法庫門地方に移出せらる。

油房は五戸にして、一戸一箇年の搾油に消費する大豆は約三百石、從て其製粕數は約二千枚とす。其他の油坊も亦略ぼ之に同じ。故に油坊數は多きも、一箇年の總製造高は僅に豆粕一萬枚、豆油約五萬斤内外に過ぎざるなり。

磨坊は穀物問屋及大商店の兼營に係るもの多く、其數約五十戸あり、内一戸は碾子二台を有し、一日二班の製粉をなすも他の多くは一台の碾子を備へ、一日一班の作業を爲す。一班は小麥五斗より約百五十斤を製粉するものにして、一年の生産總額は約百萬斤に達すと。

以上の外粉坊五戸窯業二戸あるも、共に記するに足らざるなり。

(ホ) 鶯鷺樹

一、沿革及位置

當地は光緒二十年(明治二十七年)頃迄は、極めて寂寞たる一寒村に過ぎざりしも、爾來漸く繁榮に向ひ、同二十七年頃には最も旺盛を極め、當時は燒鍋四、當舖五を初め糧棧等の巨商軒を併ぶる勢なりしが、同年起りし團匪事變により大打撃を被り、漸次衰退の徴現はれ、加ふるに近來鐵道附屬地なる雙廟子の發展に伴ひ、當地の商家にして雙廟子に本居を移す者ある等漸次商勢を雙廟子に奪はれんとする状態にあり。四平街より昌圖に通ずる道路に在りて雙廟子驛の北西十五支里に位し、東北方四十支里にして四平街に、南方五十支里にして昌圖に達す。

二、戸數及人口

戸數約六百、人口四千を算し、内邦人三戸(六人)居住し、藥舗又は質商を營みつつあり。

三、市街の狀況

主なる街衢は延長一支里餘に亘る一條にして比較的整頓し、家屋も煉瓦建のもの多く、清楚たる小市街を形成す。

市街の中央半支里間は大小商舖櫛比し、道路の兩側には各種露店及興業物等居並び、行路者群集して物品を購ふ狀、恰も大連浪速町に於ける夜店然たるものあり、以て其商況の一般を窺ふに足るべし。

四、官公衙其他の諸機關

遊撃馬隊、巡警局、郵便局、税局、區所(一種の町役場)、保衛團、商務會、高等、初等小學校等あり

五、一般産物及特産物

産物には穀類の外燒酎、豆粕、豆油、豚等あり。

六、商工業

附近一帯は穀類の産出頗る多く、其出廻期には取引最も盛なり。商家の主なるものには油坊、燒鍋、糧棧、當舖、雜貨商等比較的大なるものありて一見商業繁盛なり。要重移入品は麥粉、鹽各五百屯、綿糸布百三十噸及少量の雜貨類にして、移出品は穀類なり。最近雙廟子驛より發送せる年數量は左の如くにして、其約六割は當地附近より供給せるものなり。豚も亦當地産は著名にして同驛より發送せる五千頭中其大部は此地方より移出せるものなりと云ふ。

品目	發送總數	同上の六割	同上邦量換算數
大豆	一五、五〇〇噸	九、三〇〇噸	五五、八〇〇石
高粱	六、八〇〇噸	四、〇〇〇噸	二四、〇〇〇石
玉蜀黍	七〇〇噸	四〇〇噸	二、四〇〇石
粟	五、二〇〇噸	三、一〇〇噸	一八、六〇〇石

小麥	一、二〇〇屯	七〇〇屯	四、二〇〇石
豆粕	一、七〇〇屯	一、〇〇〇屯	六、〇〇〇屯
豚	五、〇〇〇頭		

工業としては、油坊大小十戸、燒鍋一戸にして、其年産額は繞耐五十萬斤、豆粕大約四萬枚、小十萬枚、豆油二十五萬斤内外なり。而して豆油は約三割其他は殆ど全部各地に移出す。

當地と交通上密接なる關係を有する地方は雙廟子、大窪、昌圖にして、常に來往頻繁なり。

(ハ) 實力屯

昌圖縣城の西北方五十五支里の地點にあり。南方三十支里にして金家屯に、六十支里にして弧榆樹に、北方五十五支里にして大窪に、同二十支里にして八面城に通ず。戸數約三百、人口約千五百を算する農村なれども、一部街形を成し、往時に於ける八面城、法庫門街道上の一驛站にして巡警局、郵便局高等初等小學校、税局等あり。

當地は昌圖城の商勢力内にありて、移入雜貨の大半は該地より來るもの多く、大豆等農産品の移出に於ても、通江口に仕向けらるるもの約六割を除けば、殘餘は悉く昌圖城内に仕向けらる。従て昌圖城とは商取引上密接の關係あるを以て、交通頻繁なり。

四圍に肥沃なる耕地多く、又富裕なる農村少からざるを以て、一見前途發達の見込ある如くなるも、既往に徴するときは現在以上の發展は容易ならざるべし。

(ト) 通江口

一、沿革及位置

當地は俗に通江子又は同江口とも稱し、光緒三年(明治十年)の開埠に係り、同三十年同江廳を設け昌圖府に隸屬せしめ、諸般の事務を管理せしが、宣統元年之を廢止し、爾來昌圖の管轄内に入れり。

此地は明治三十八年日清通商條約に依り開放せられてより、頓に發達せしが、光緒三十二年(明治三十九年)其上流四百七十支里に當る鄭家屯の開埠となり、加ふるに其背後地たる昌圖開原地方物資の殆ど滿鐵線に吸収せらるるに至りたると、頻繁なる水害を蒙りたるとに因り大なる打撃を受け、市況漸次衰微の傾向となりたり。然れども尙ほ其勢力は侮るべからざるものあるなり。

昌圖縣城の西南七十支里、開原驛の西方六十支里、遼河の左岸に位する重要なる商埠にして、水深十二尺以上に及び、埠頭には少くも六十隻を下らざる戎克の繫留さるるを常とす。

二、戸數及人口

戸數約一千、人口五千八百を算し、其内日人六戸二十人居住す。

三、市街の狀況

市街は遼河に沿ひ南北に通ずる長さ約二支里に亘る一條の大街と其中間より分岐せる一條の街路より成り、有力なる質商糧棧等は繞らすに堂々たる高壁を以てし、其規模頗る宏壯にして他に比類少し。然れども街衢は一般に不規則にして、右曲左折し、家屋亦整一ならざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

昌圖縣佐公署、電報局、郵便局、水路巡警局、稅局、商務會、保衛團、高、初等小學校、廟宇、耶蘇教堂及我警察官吏出張所等あり。

五、一般產物及特產物

大豆、高粱、麻、棉花、葉煙草、燒酒、豆粕、豆油、麥粉、燒物等とす

六、商工業。當地は開埠以來北方物資を吞吐し、一時は穀類の集散額一箇年七十萬石乃至百萬石、來往船舶も二千隻に達せしことありしが、前述の如き原因により凋落し、現今にては、大豆五萬石、雜穀三萬石の移出を見るに過ぎざるなり。移入雜貨は八千件内外にして、其一部は對岸康平縣方面に再移出せらる。商家は大小約八十戸を算し、主なるものは船店、糧棧、雜貨商、質商等なり。

當地より各地に至る距離左の如し。

至昌圖七十支里、至鐵嶺九十支里、至開原六十支里、

至康平六十支里、

製造業

燒鍋一家ありて二班を備へ、其製出高燒耐一日約九百斤、年産約二十五萬斤にして、殆ど全部此地に於て消費せらる。

油房は三戸にして内一戸は三碾四搾、他は二碾三搾を備ふ。然れども總年産額は僅に豆粕十萬枚内外に過ぎず。

右の外磨坊三十五戸、粉坊四戸、窯業二戸あるも、何れも幼稚なる土式經營にして特筆すべき程度のものなし。

(チ) 此地の將來を察するに、現在以上衰微せざると同時により以上發達の見込なく、現状維持を持続すべし

當地は雙廟子驛の西方五十五支里に位し、八面城より寶力屯に通ずる道路の略中央に當り、北八面城を経て梨樹に通じ、南寶力屯を経て金家屯、法庫門に至る。

東西三支里、南北二支里にして、戸數約二百、人口約千八百を有する大部落なれども、街形を成すは一部にして、商家約二十戸に過ぎず。然れども巡警局、郵便局、小學校、商務會等あり。

產物としては大豆、豆粕、燒耐等を主とし、其中造酒工業は最も發達し、雙廟子驛に搬出する數量のみにても、一年百八十噸の多きに達し、油坊亦盛にして最近に於ける年生産は原料として大豆六萬石を

消費され、豆油十五萬斤、豆粕四萬枚に達すと云はる。

(ウ)、八面城

當地は四平街の西方鐵路十七哩五、鄭家屯の東方三十七哩一の地點に位置し、四洮鐵道八面城驛の所在地にして、市街は東西約四支里南北約半支里に亘り、街路の兩側に楊樹を植ゑ春夏の候多少風光の愛すべきものあるなり。

往時は奉天より吉林、鄭家屯等に通ずる道路の要衝に當り、商業比較的繁盛なりしが、其後鐵道の開設するに及び商況昔日の如くならざれども、四圍に良好なる農耕地を控へ穀類の來集するもの多く、從て毎年穀類の出廻期には、各地より商人の來集するもの多く市況頓に活氣を呈す。

市街は比較的整頓し又割合に大なる家屋多く戸數約千八百、人口一萬其内商家四百戸に達し、巡警局兵營、郵便局、電報局、電話局、農務會、商務會及我領事館警察官吏出張所ありて日人六戸居住す。來集穀類の主なるものは高粱、大豆、粟等にして、燒鍋も數戸あり。外に磨坊、粉坊、油坊等あるも其經營法は幼稚なる土式にして云ふに足らざるなり

(ヌ)、孤榆樹

昌圖の北方百十支里、八面城の西方八十支里に位せる遼河の一埠頭に於て、戸數約二百五十、人口千五百を算し、巡警局、水路巡警局、税局、小學校、郵便局等あり日人一戸居住し質屋業を營む。

元來當地は河岸より二支里を隔てたるも、七、八年前の洪水にて、水流其岸を洗ふに至り、俄然良埠頭となり戸數俄かに増加し、最近一箇年間の移出農産物は大豆、大麥等約四千石、移入雜貨亦一萬件に達し、一般埠頭地に逆比し稍々發達の傾向に在るも、而かも現在以上に發展の見込殆どなし。市街は遼河の左岸に沿ひ主たるものは一條にして、家屋矮小全く純然たる一個の舊式なる支那街たり。然れども埠頭には常に十五隻内外の戎克ありて、一種の港的氣分を添ふ。

四、康平縣

(イ)、康平

一、沿革及位置

康平は舊名を康家屯と稱し、蒙古博王旗の治下にありしが、清の嘉慶七年之を開放し、移住開墾を奨勵せしより、漸次發達をなし、光緒六年(明治十二年)縣治を布くに當り、當地を城基地と定めたるものなり。法庫門より鄭家屯に至る街道上、法庫門の北方六十支里の地點にありて、東南北は何れも低き丘陵を以て繞らされ、西方に小ならざる沿澤地あり。

二、戸數及人口

戸數五百八十、人口三千八百四十を算す。

三、市街の狀況

市街に城壁なく、南北二條東西三、四條の不規則なる街衢より成り、家屋の多くは矮小にして見るべき建造物殆どなく、一個の田舎市街にして街上寂寞、僅に土地及附近農民の右往左往するを見るのみ

四、官公衙其他の諸機關

康平縣公署、警察所、兵營、郵便局、電報局、師範學校、高等小學校、初等小學校、商務會、農務會、勸學所、自警團、監獄、廟宇、福音堂、回教院等あり。

五、一般産物及特産物

高粱、大豆、小麥、胡麻等を主となす。然るに最近縣當局の獎勵にて棉花の栽培年と共に増加し、將に一特産たらんとしつつあるなり、又附近の沼に産する鮎は年額二萬斤内外に過ぎざれども美味を以て知らる。

六、商工業。當地は蒙古未開放地に接壤せる市街なれども、附近に砂地及砂丘多く交通亦不便なるより其建設は遙に鄭家屯より古きも、其發達頗る鈍く僅に附近村落及博王旗一部の物資小集散地たるに過ぎず、從て其商業範圍も亦東二十支里、西十支里、南十五支里、北十支里程度なり。從來は新民屯及法庫門とは物資移出入の關係にて、冬季鄭家屯に出入する物資の如き、此地を經過するもの割合多く、此等地方との間に多少の交通ありしも、四洮線開通の爲め、此交通すら往時に比すべくもあらざるなり。當地に於ける商店は約八十戸にして其概要左の如し。

質屋	一、	製粉業	一一、	雜貨店	一〇、	洋貨舖	二、	木匠舖	一、
裁縫店	三、	染坊	二、	油坊	七、	藥舖	三、	靴屋	一、
皮屋	二、	旅店	四、	肉舖	三、	銀細工屋	三、	飯店	四、
饅頭舖	六、	烏拉舖	二、	鍛冶屋	二、	瓦盆窯	一、	機業	一八、

移出品は曹達、高粱、胡麻、麻、棉花、馬、牛等を主とし、其仕向地は法庫門、通江口、鐵嶺、新民屯等なるが、棉花は主として奉天方面に移出す

移入品は綿糸布、砂糖、食鹽、燐寸、石油等の雜貨なれども一箇年の總額は、二十萬元に充たすと云へば論ずるに足らざるなり。

(ロ) 哈拉沁屯

當地は康平縣城の西南約七十支里、蒙古旗界の南方二、三支里の地點に位置し、縣下に於ける對蒙貿易の第一線にある中繼市場にして、戸數約四百、人口約二千四百を算し、巡警局、稅局、郵便局、小學校等あり。

從來當地の商況は遙かに縣城を凌駕せるも、近年匪徒の出沒甚しき關係上、其影響を受け、多少蕭條の感なきにあらざるも、尙ほ物資集散市場として縣下第一位にあり。而して一箇年間に於ける來集物資の品種數量は概ね左の如し。

穀類一萬石、牛八十頭、馬三百頭、羊二千頭、皮類四千枚

此等物資の仕向地は法庫門、新民屯を主とす。又燒酒約二十萬斤、麥粉約八萬斤等の産出ありて、其大部は蒙古人に供給せらる。

(ハ) 後新秋

康平の西南百四十支里、哈爾沁屯の同じく西南七十支里にあり。

戸數百二十、人口八百を算し、不完全なれども一部街形を成し、巡警局、小學校、郵便局、税局などの機關あり。

産物は高粱大豆小麥等の穀類にして別に特産なきも、商家約十五を算し、附近農村との間に日常の小取引行はる。

五、梨樹縣

(イ) 梨樹(舊奉化)

一、沿革及位置

當地は古來偏險城又は梨樹城と稱せられ、清代に至り蒙古達賴罕旗の地となり久しく荒蕪に委しありしが、道光元年之を開放せり。斯くて光緒三年奉化縣の設置となり、更に民國三年現名に改稱せるものにして相當繁榮せし地なるが、鐵道開通以來、公主嶺四平街等に其商業的勢力を奪はれ、殊に光緒

三十四年(明治四十一年)有力なる糧棧中倒産者を出せしより著しく衰頹を來せり。爾來漸次衰微して昔日の面影を留むるもの少きも、尙ほ舊都市として廣く其名を知らる。

當地は地名を買賣街と稱し、四平街の北三十五支里、郭家店の西四十支里、八面城の東北五十支里にあり。而して東北九十支里にして公主嶺に、北八十支里にして懷德縣に達す。

二、戸數及人口

戸數約二千五百、人口約一萬九千、内商家五百戸内外を算す。

三、市街の狀況

四圍土墻を以て圍繞せられ、煉瓦造りの四門を有す。縣治の際濠を繞らし之に架橋したるも毫も修理することなく、現今は濠橋共に廢潰さる所多し。市街は井字形を成し、北に偏する東西大街及西に偏する南北大街は熱鬧の地區にして、殊に東街最も繁盛を極め大家の軒を並ぶるもの多く、縣衙及蒙古地局は南街にあり。

四、公官衙其他の諸機關

梨樹縣公署、警察所、税局、西公益地局(蒙古達賴罕)、電報局、電話局、郵便局、商務會、巡防隊、監獄、官立病院、教育會、師範學校、巡警教練所、高等、初等小學校、簡易識字學校、廟、回教寺院及日本警察官吏出張所等あり

五、一般産物及特産物

焼酎、豆粕、麥粉、大豆其他各種農産物。

六、商工業

(イ)、商業。前述の如く當地は古くより商業發達せる地として其名を知られしが鐵道開通後四平街に壓倒せられ、現今來集する穀類の年額は大約大豆七萬石、高粱六萬石、粟五萬石、小麥四千石内外にして、専ら現品の取引行はる。糧市は東西兩街に在りて、奇數日は東街、偶數日は西街に於て開かれ、附近村落のものは當日市に集まるも、多少遠隔の地より來る糧車は、糧機(糧車店を兼ね)に一泊し、翌日各自馬車を集市に驅りて取引を爲し、金家屯、八面城に於けるが如く糧車店內に於て賣買せらるることなし。而して糧棧(糧車店を兼ね)八家、糧車店十七、八家あれども、年と共に其取引蕭索に赴く傾向あるは當市の爲め歎すべきなり。

布疋雜貨店の主なるもの大小約四十戸、其仕入先は始ぎ營口にして四平街を経て移入せらる。而して商務會の調査によれば、移入年額百四十萬吊(約二十一萬元)なりと云ふ。貨物の取引は概ね現銀取引にして、偶々半個月若くは一個月の延勘定をなすものなきにあざるも極めて稀なり

(ロ)、工業。燒鍋五戸ありて其年産額燒酒約五十萬斤なりと云ふ。

油坊十五戸あり、主として糧棧の兼業にして之を專業とするもの六戸に過ぎず。豆粕大小二種あるも

約九割は大粕(五十二斤もの)を製造す。現在一戸三、四班の製造を爲すものあれど、多くは二班にして其年産額は平均豆粕三十萬枚、豆油百三、四十萬斤にして、大部は移出せられ、當地方に於て消費せらるるものは約十分の三に過ぎず。

磨坊約五十戸に達し、普通一日一班の製造高麥粉約百八十斤(小麥六斗)にして年産額二百萬斤内外に及ぶも擧て當地及附近村落に於て消費せられ、外國粉の輸入を見ざる状態にあり。

(ロ)、郭家店

一、沿革及位置

當地は東清鐵道時代に在りては驛舍宿舍及兵營等の外數戸の支那家屋點々として存在せしに過ぎざる掛値なき一寒村にして、其存在さへ知るものなかりしが、最近に至り各地よりする特産物の集中漸く多きを加へ年々其商勢力範圍を擴め、爲に此地に居を構へて各種商業に従事する者逐年増加し殊に最近更に市街を擴張すべく支那側に於て約十萬坪の土地買収を了し家屋の建築に着手せし勢なるを以て現今にては滿鐵沿線に於ける有數の新興特産物市場として既に廣く其名を知られ將來益々世人注視の標たる名實を備ふるに至るべし。

四平街の東北十六哩、公主嶺の西南十七哩、八面城の東北七十五支里、梨樹の東方二十支里の地點に在り。

二、戸數及人口(日支兩街共合せて)

戸數		人口	
日本人	五〇	日本人	二〇〇
支那人	七〇〇	支那人	五、〇〇〇

内商家二五〇戸

三、市街の状況

市は最近の發展に係り、街衢は比較的整然たり、市街は鐵道を挟みて東西の二區に分れ一條の大道に依り結合せらる、兩區共主要大街の外更に四、五の附屬小街(胡同)を有し、其中最も殷賑なるは東區の南一條街なりとす、本街には巨商軒を並べ車馬の往來織るが如く頻繁なり、街路は未だ完全と稱し難きも平坦にして兩側に溝渠の設備を有し、支那街としては多少誇るに足るものあるべし。尙ほ既に定まりたる建設案の實現し完成の曉は更に數段の光彩を放つに至るべし。

四、官公衙其他の諸機關

我守備隊、郵便局、警察官吏出張所、支那側の市政辦事處、巡警局、郵便局、小學校、税局、東三省官銀行支店、商務會等あり。

五、一般産物及特産物

大豆、高粱等の農産物を主とし外に豆油、豆粕あり。

六、商工業

當地の商工業の中心たる大商店は十數軒を算するも、其多數は他地方に於ける商家の分店にして一種の系統あり爲に其取引徑路の如きも、概ね一定せるものの如し。初め當地の經濟的發展を見るや、不良分子の山師的營業を試むるもの續出し、當地の對外信用を失墜するの恐れありしが、此等の不良分子は漸次淘汰せられ、現今にては確實なる基礎を有する者のみとなれり、而して各商店相互の保護機關として商務會あり、又農商儲蓄公會あり。

當地の集散物は上にも記せしが如く主として農産物にして最近に於ける其數量等次の如し(單位石)

品	種數	量	品	種數	量	品	種數	量
大豆	一	一八〇、〇〇〇	麥	一	—	包	—	三五、〇〇〇
高粱	一	二六〇、〇〇〇	小麥	一	六、六〇〇	計	—	五〇八、五八〇
米	一	四八〇	小豆	一	一二、〇〇〇			
粟	一	三、五〇〇	其他	一	一一、〇〇〇			

此外大正十二年の如き約二千頭の牛を蒙古方面より移入し、當屠場にて屠殺の上内地に輸出せり。又最近に於ける當驛發着主要貨物を見るに次の如し。(單位噸)

品種發	大豆	米	高粱	包米	小豆	粟	麥	雜穀	豆粕	豆油
送	三〇、〇〇〇	三六	五〇、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	五〇〇	六〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	一五〇
品種到	果實	鹽	安平	麥粉	石油	麻袋	布糸	木材		
着	一、〇〇〇	一、二〇〇	一七〇	一、三〇〇	二五〇	一、三〇〇	五〇〇	七〇〇		

工業は燒鍋と油坊の二にして、多くは土式に屬し且つ規模大ならざれども油坊は一日に豆粕約二百五十枚産出の能力あり。外に煉瓦製造所あるも是亦特記すべき程の事なし。

(ハ)、榆樹台

一、沿革及位置

榆樹台は八面城の東北約六十五支里、梨樹縣城の北方約三十支里の地にある一小市街なり

二、戸數及人口

城内戸數約四百六十内商家六十戸、城外には西門外に五十戸、東門外に九十戸計約六百戸、人口五千餘を算し、日人二戸五人、鮮人二戸六人居住し、鮮人は水田業に従事す

三、市街の狀況

道路に沿ひて西南より東北に延びたる一條街にして、南北二支里、東西三支里、四周は繞らすに土壁を以てし、四門を有す。各門には巡警ありて出入を看視し、夜間は各門を閉鎖す。

四、官公衙其他の諸機關

城内に巡警局、郵便局、兵營、小學校等あり、而して城外には別に官衙なし

五、一般産物及特産物

農産物の外特記すべきものなし

六、商工業

移出品の主なるものは大豆、蜀黍、豆粕、豆油等にして、燒酒、雜穀、皮類等之に次ぐ。移入品は布疋、棉花、食鹽、材木、砂糖類、紙類、石油、煙草、洋蠟、鐵類等なり

道輸送の盛なる穀類の出廻り期間にありては特産物の入市するもの、晝夜絡繹として絶ゆる事なく、平均一日の入市馬車数は三百二十台を下らず、驛内の堆貨は積んで山を爲し、取引頗る活潑にして市況旺盛を極む、其等の關係上大商店は逐年大厦高樓を増築し、今日の大を成すに至りしものなり。又鐵道東附屬地に接する支那新市街は大正十年四月尹梨樹縣知事が、四洮鐵道の開通と共に當地の將來に矚目し、奉天省長の認可を経て、四十萬二百坪の廣大なる土地を買収し、第一期に千五百間房子(數間房子が我一軒に相當す)、第二期に二千八百四十四間房子を新築し、其戸數は疾くも千七十餘戸人口七千三百餘人に達せり、此發達の裏面には免稅、阿片煙館の默許、賭博の公開等支那政策に基く有力なる理由あるは看過すべからざるなり。殊に從來伊通縣下に通ずる道路の大難關たりし孟家嶺の峻阪も開鑿されしを以て將來愈々膨脹の氣運に在り。要するに四平街は今や南滿本線に接する市街中重要都市の班列に入りたるものと謂ふべし。

四、官公衙其他の諸機關

日本側
 獨立守備、憲兵分遣所、警察署、郵便局、滿鐵地方事務所、四平街驛、保線區、滿鐵醫院、小學校、幼稚園、實業補習學校、公學堂、圖書館、取引所、電燈會社、信託會社、鮮銀正隆銀行各支店、四平街銀行、四平街市民協會。

支那側

四洮鐵路總局(附屬地外)、郵便局、鹽務分局、梨樹縣稅捐徵收分局、交通銀行支店、興業銀行支店、東三省官銀行支店、商務會。

五、一般產物及特產物

當地に集中する諸產物は兎も角、當地の產物としては大豆、高粱、粟、豆粕、豆油等の農產品又は之を原料となすものに止まり、特記すべきものなし。

六、商工業

(イ)、商業。當地は買賣街、八面城、鄭家屯、大疙疸及半拉山其他大小の都市に通ずる要衝に當り、殊に四圍一望千里の沃野を控ゆるより大豆、高粱、麻子、包米、蘇子、瓜子及粟等農產物の當地に來集するもの多く、其年額は優に二十萬噸を超ゆと稱せられ、加ふるに四洮鐵道の開通以來蒙地に對する物資供給の市場たる地歩を獲得せしを以て、市況は一層活氣を呈するに至りたり。

今此地に於ける商取引の狀況を窺ふ爲め、最近一箇年間に於ける當驛發着の主要貨物を擧げん、即ち左の如し。(單位噸)

品名發	送	品名到	着
大豆	六四、九四三	野菜類	一、三四七

計	米	苞米	高粱	小豆	粟	小麦	大麦	雜穀	其他	豆粕	豆油	計	酒類	葉煙草	砂糖	木材	紙類	綿布	綿糸	棉花	味噌醬油	麥粉	鹽	石油	麻袋其他	計
二五八、二一九	四、二二五	二九、二五〇	九〇、九一六	三、一二八	三〇、六七四	一八八	二〇九	一二、五四七	七、〇一三	一四、〇六三	一、〇六三	七二、六五六	一七四	一、五五七	八四四	一、九五八	五三七	一、三四七	九七〇	七九五	一五一	四、九九八	三、五二一	一、五一八	五二、九三九	七二、六五六

注意、發送は四洮線を經由滿鐵線に入りたるもの及荷馬車にて來集したるもの等一切を含む。

到着は四洮線に依り蒙古方面に入りたるもの及附屬地附近にて消費するもの一切とす。

(四)、工業。油坊、燒鍋、煉瓦製造、醬油釀造等各種工業勃興の氣運にあるも、未だ小規模のもののみにして、概況左表の如し。

名稱	工場數	一日の生産能力	一箇年の生産額
油坊	一	一二石	二、〇〇〇石
煉瓦	三	三六、〇〇〇個	五、〇〇〇、〇〇〇個
燒耐	一	三石	六〇〇石
醬油	一		八〇〇石

(ホ)、大民屯

四鄭線三江口驛の所在地にして、遼河の左岸に瀕し一埠頭を成す。元來當地は一寒村に過ぎざりしが、鐵道敷設と同時に驛の所在地となりたると對岸三江口の如く水害を蒙る憂無きとにより、來住して商業を營むもの漸く多きを加へ、且つ三江口の商家にして當地に轉住するもの多かりし爲め、頓に發展を遂げ、南北に通する一條の小市街を形成し戸數約二百、人口千四百を算するに至れり。

巡警局、税局、郵便局、小學校、我警察官出張所及大小の商家五、六十戸に及び、商況比較的活氣ありて、三江口を凌駕するに至れり。將來當地の發展大いに見るべきものあらん。

(〜)、小城子

當地は梨樹より懷德に通ずる道路上、梨樹を距る北方九十支里に在りて、縣下最北端に位する一小市街たり。市街は道路に沿ひ約二支里に亘り、戸數約百五十、人口約一千百を算し、内商家四十戸内外あり。官公衙としては、牛馬税捐局、郵便局、小學校、巡警局、兵營等なり。

商業は稍々活氣あり。商家の主なるものを擧ぐれば、酒造業七、問屋業二、雜貨舖四、小雜貨店四、染物業一、菓子業四、皮店二、旅店二、金物店三、藥店一、紙店一等なり。

移出品は大豆、蜀黍、豆粕、燒酎、雜穀等を主なるものとす、又移入品並に其仕入先を見るに次の如し。

自營口 布類、砂糖、食鹽 自錦州 棉花

自長春 木材

六、懷德縣

(イ)、懷德縣城(八家子)

一、沿革及位置

當地は元と蒙古達賴罕旗下の遊牧地にして、久しく荒蕪に委しありしが、道光元年(紀元二千四百八十八年)土地を拂下げ、漢人の移住開墾を許し、同治三年(紀元二千五百二十四年)分防經歷廳を設け光緒三年(明治十年)懷德縣と改稱せられたるものなり。

別名を八家子と稱し、長春を距る西百十支里、公主嶺を距る北九十支里、范家屯を距る北西七十五支里にあり、而して東北百六十支里にして農安に通じ、西南二百四十支里にして鄭家屯に達し、南百七十五支里(黒林子經由)若くは百六十支里(小城子經由)にして梨樹に到着す。

二、戸數及人口

戸數千四百九十、人口一萬六千三百にして、曾て邦人の居住者ありしも今はなし。

三、市街の狀況

市街は土墻を以て圍まれ、方五支里と稱せらる。東北より西南に通ずる一條の大街は商區にして、其中最も熱鬧なるは中央約二支里の間とす。商家は梨樹に比すれば概して資本豊富のもの多く、家屋の構造亦壯大にして、一見商業の盛大なるを感せしむと雖も、人馬の來往梨樹に及ばず、商業も亦多少該地に劣るが如し。

四、官公衙其他の諸機關

懷德縣公署、警察所、税捐局、郵便局、電報局、東公益地局(蒙古達賴罕王旗)巡警教練所、戒煙所、

自治研究所、商務會、農務會、兵營、監獄及附屬罪犯習藝所、自衛團、勸學所、師範學校、初等農業學校、初等小學校四、高等小學校、回々寺院、天主堂、福音堂、廟等あり。

五、一般産物及特産物

大豆、高粱、粟、藍靛等の農産品及豆粕、豆油、焼酒等を其主なるものとす。

六、商工業

(イ)、商業。當地の商業は主として布疋雜貨の賣買にして著名なる穀類の産地なれども其取引は案外少し、之れ直接産地より公主嶺方面へ送らるるに因るものなり。從て商業繁盛なりと云ふ能はざるも、梨樹の如く著しき衰退を來さず、數年間同様の商勢を保ち居れり。此地の最盛期は光緒二十九年より三箇年にして、當時通貨の流通甚た豊富なりしを以て、四圍の農民此地に於て賣買するを好み、商業甚だ旺盛なりしも、爾來現銀漸く缺乏して、帖子の流通多きを加へ、財界紊亂して再び舊に復せず今日に至りしもの如し。

商家の主なるものは焼鍋七、當舖五、機業二、雜貨店十四、油坊二十、粮棧(糧車店を含む)十四なり。商務會は會員を上等舖七、中等舖十五、下等舖七十に別つ。其他の小舖を合すれば大小約四百戸に達す。商家中他地方に比し最も多きは當舖及焼鍋にして、殆ど皆穀類及布疋雜貨の賣買を兼營せり。穀物の賣買は殆ど皆冬季集市上の取引にして、其賣買は粮車店内に於て行はるる慣習あり。今一箇年

の集散高を擧ぐれば大約左の如し。

大豆四萬石、高粱六萬石、粟一萬石、小麥五千石、而して穀物の集散額は年々多少減少するの傾向あり。其理由は上記せし如く范家屯及公主嶺に直接移送せらるるに由る。穀物類の外、農産品の主なるものは藍靛にして、年産額約百萬斤、其價格約十三萬元なりと。布疋雜貨の移入額は、商務會の調査に依れば年額約五十萬元なりと云ふ。

焼酒、豆粕、豆油、穀類等の移出先は范家屯四、公主嶺六の割合にして、長春地方に移出するものなし。而して移入は公主嶺を経由するを常とす。

(ロ)、工業。焼鍋七家ありて各三班を有し、一箇年の醸造量六十萬斤にして、一班の製造は高粱四石五斗に對し出酒量四百餘斤なりと云ふ。

移出地は主として大連にして、鄭家屯方面之に次ぐ。而して當地方に於て消費せらるるものは、大約産出額の十分の三内外なるが如し。又其移出經由地は范家屯四、公主嶺六の割合なり。由來奉天省の焼酒は吉林省に入ることを得ず、吉林省のもの亦奉天省に移入を禁せられ居るを以て、吉林省界に在る此地の如きも全然隣省との移出入關係なし。

油坊二十一家あり、一家二班乃至四班の製造を普通とし、一班の定數は一槩即ち豆粕六十枚にして、最大製造力は普通十二槩とす。而して此地の年産額は豆粕二十萬枚、豆油百二十五萬斤内外なり。

磨坊約四十家あり、一家一班若くは二班を備へ、一班一日の製造高麥粉約百二十斤(原料小麥四斗)にして、年産額百萬斤内外を普通とす。

七、雜件

此地には紙煙捐と稱し紙卷煙草税を徴收しつつあり。其理由として一般に告知せらるる所を見るに、其害阿片と異なる所なきを以て、漸次之を禁止せんとするに外ならずと、單に紙卷煙草のみに課して之を葉煙草に課せざるは、一は地方費の支出に困難なる結果に基くものなるも、他方輸入外國貨物に對する反抗的一策と見做せざるにあらざるなり。其税率は之を販賣者の種類に依りて二別し、商店は年額九十元、露店及行商人は月額一元五十仙なり。斯くて違反者の商店なる時は罰金十元、露店及行商人なる時は五元を課するの規定にして、紙卷煙草販賣者は各々自治研究所に登記するを要するより該商等は其不法を詰りつつあるも、不平を鳴らしつつ納金し居れり。

(ロ)、大黒林子

大黒林子は一に黒林子とも稱す。范家屯を距る西三十支里、公主嶺を距る北四十支里にあり。而して東北九十支里にして長春に達し、北方五十支里にして懷徳に至る。

戸數約五百、人口五千、巡警局、税捐局、商務會、郵便局、小學校等あり。商家の主なるものは燒鍋二、糧舖三、油坊九、雜貨店五十六、糧棧十にして、往時は商業隆盛なりしも、最近數年間の情勢に

徴すれば年々衰微の傾向ありて、穀物(主として大豆、高粱)の來集額も著しく減少せるが如し。物皆の移入地は主として公主嶺なれども移出地は主として范家屯にして、普通地方の商路に珍しき觀あり油坊九家の内一家を除く外總て糧棧を兼營す。其製出さるる豆粕の多くは三十斤物にして、五十二斤物は極めて少し。各家は二班又は三班の作業力を有するも、一般の市況に同じく近來は餘り振はざるが如し。

(ハ)、范家屯

一、沿革及位置

范家屯は鐵道開通の當初は、驛舍兵營の外何等建築物なかりしが、北方懷徳方面の捷路に當り、東方双陽磐石縣地方に於て産する大豆、高粱等農産物の當地に來集するもの逐年増加の結果、日支人の居を此地に移し商業を營む者亦次第に増加し、以て今日の隆盛を見るに至りしものなり、而して此地は公主嶺の北方約十九哩に位し、滿鐵范家屯驛の所在地たり。

二、戸數及人口

當地は年と共に戸口増加し最近に於ける戸數は日本人約百二十、支那人一千五百、人口日本人四百、支那人二萬を算す。

三、市街の状況

市街は鐵道の南北兩側に亘りて築造せられしも、附屬地狹隘の爲め該地に連接し、著しく東方に發展するに至れり、家屋の多くは支那式なれども中には支洋折中若くは洋式のものも少からざるのみならず、新建築の多數なるより一見人をして新興地たるを想はしむ、將來更に發展するなるべし。

四、官公衙其他の諸機關

附屬地内に長春警察署派出所、獨立守備隊、郵便局、取引所、銀行等又附屬地外に支那側巡警分局、稅務分局、郵便局、小學校等あり。

五、一般產物及特產物

當地は物產の集散せらるるもの累年増加を示し、大豆、高粱、粟、小麥、玉蜀黍、小豆等を其主なるものとす、又豆粕、豆油等の產出あり。尙ほ當地の北方約十支里なる新開河附近に於て水田の經營に従事せる朝鮮人約四十名ありしが水害の爲め何れにか轉住し、現今在住するもの皆無にして米の產出なきに至りしは惜しむべし。

六、商工業

當地は大看板を掲ぐる商業地と稱する程度に達せざるも、今や其經濟上の勢力範圍は意外に廣大なるを以て特產物及輸入物資の集散市場として相當の地歩を占むるに至りしのみならず、前途發展の途上にあり。試に最近に於ける當驛發着貨物の重要なるものを擧ぐれば次の如し。(單位噸)

品目	發	着	品目	發	着
大豆	八七、五六八	一、六六二	煙草		
高粱	八五、五七九	七八九	鹽		二、七二六
玉蜀黍	四、三六二		麥粉		二、〇八五
小豆	三、六六〇		麻袋		二、九二一
粟	七、七六五		生果		八八二
麥類	四二五		木材		一、六七三
雜穀	二、九九七		綿糸布類		九〇四
豆粕	二五、七五八		鐵及鐵製品		九二六
豆油	二、五三六		其他	三、二〇二	七、三三三

又工業としては油坊業二、燒酎製造業一の二種を擧げざるべからざるが何れも相當の資本を投下し、最近に於ける年産額は豆粕五十五萬四千七百枚、價格九十二萬圓、豆油二百三十七萬六千斤、價格三十六萬圓、燒酎五十二萬四千四百斤、價格七萬五千圓なりと、外に電燈會社の設置ありて住民は文

明の恩澤に浴しつつあり。

(ニ) 朝陽坡

朝陽坡はV字形をなす小街にして、梨樹を距る北方九十支里、長春を距る西南百三十支里、公主嶺の北方四十支里に位し戸數約百、人口約六百人を算し、内當舖一、燒鍋一、油坊四、雜貨店五、六、粮車店七、八家あり。此地の移出入地は主として公主嶺なり。

巡警局、郵便局、小學校等の機關ありて、四圍に肥沃なる農作地を有するより戸數人口に比し比較的賑なり。

産物は大豆高粱等の農作物にして、冬季其出廻期には、市況頓に活氣を呈す。

(ホ) 公主嶺

一、沿革及位置

此地は公主陵又は公主靈とも稱し著名の靈場なり、古來より公主の靈柩を納めたる神靈の地として百年來有名の地なり、從て公主陵を中心とし陵東西前後と稱するが如し、然れども一見荒寥たる一寒村に過ぎざりしが、露國が此地を以て軍事上樞要の地と爲し苦心經營せる結果漸次支人の移住者を増加し現時の盛況を見るに至りしなり。

露國が鐵道を經營するや、清朝發祥の地たる靈場附近に敷地を求むるを避け現在の地を南部線中の三



大驛の一に擬し、二百萬坪を附屬地として買收し停車場、機關庫、劇場、病院、兵營、寺院、ホ製麵麵場其他住宅三百餘戸を建築し、大停車場の輪廓を造りたるものなり、然るに露國は堅く外國人の居住を許さざりしが、日露戰役の結果滿鐵會社の經營に移り我官民及支那商工業者の移住するもの多く爲めに新興の都市を形成するに至れり。

公主嶺は懷德縣の行政管下に屬し、大連驛より三百九十七哩、長春驛より三十八哩に位置し、陸路伊通の西九十支里、懷德の南方亦略ぼ同距離に在り。

二、戸數及人口

最近の調査に依れば次の如し

戸數	日本人	四百五十戸	人口	日本人	二千五百人
	支那人(支那市街の分共)	六千五百戸		支那人	一萬九千四百人

三、市街の狀況

當地は東西に流るる一小河により市街を二分せらる、即ち附屬地市街は河の北方に位し支那街は河の南方に位す、土人は前者を河北、後者を河南と呼べり、而して河北は更に鐵道を隔てて南北の兩街に分れ、泰平橋と稱する木造跨線橋ありて之が交通に使せり、鐵道以北は諸官衙及滿鐵社宅の所在地にして、家屋は露治時代の建築に係り規模廣大にして壯觀を呈し、鐵道以南は河南街なる支那街と共に

商業區を爲し各種の商舖糧棧軒を並べ、其中市街の中央を貫ける鮫島通は最も繁榮にして人道車道の別亦整然たり、毎年十月末より大豆、高粱、雜穀類の取引期に入り日々幾千輛の馬車他地方より來集し、街上絡繹として市況頓に熱鬧に赴くを例とす。

四、官公衙其他の諸機關

附屬地内の行政は滿鐵之を管掌し、各戸の財産買入の多少に比例して、公費を徴收し教育、衛生、土木、警備の費に充て、又警察事務に關しては長春警察署當地支署其任に當る。

河南支那街には交渉局なる一官衙ありて、一般行政並に警察事務を掌るのみならず、對外交渉の任に當り居れり。今當地に於ける日支の官衙其他を列記すれば左の如し。

日本側。獨立守備隊司令部、獨立守備步兵第一大隊、陸軍衛戍病院分院、騎兵聯隊、憲兵分遣所、警察支署、取引所、郵便局、滿鐵地方事務所、同醫院、同農事試驗場、電燈會社、信託會社、精米會社、神社寺院等。

支那側。交渉局、稅捐總局、鹽務輯私局、巡警第六區局、商務會、郵便局、電報局、議事會、步警約六十名、保甲團等。

學校は滿鐵會社設立の尋常高等小學校、農學校、公學堂の外實業補習學校、家政女學校、幼稚園、圖書館、又支那側の國民小學校等あり。

五、一般產物及特產物

一般產物としては大豆其他の農作品にして、特產は高粱、粟、包米、豆粕、燒酎、醬油、味噌、カリユーム、靴下等なりとす。

六、商工業

此地は交通上の重要地にあらざるも、鐵道を背景として伊通、懷德地方等に於ける農產物の出廻を誘致し市況は年と共に殷盛を極め、年々搬出せらるる特產物は今や約百四十萬石に達し、一躍して我沿線第三位の特產市場たる地位に進み、一箇年の商取引額は約一千萬圓に上ると聞く、試に最近に於ける當驛發着貨物の主なるものを示せば次の如し。(單位米噸一、五二二斤)

品目	發	着	品目	發	着
大豆	一三六、九六七 (一六〇、七七二)	二八〇	小豆	一〇、五四一	五四
米	八六二	五九三	粟	三、一五六 (三、五九六)	一九七
高粱	六五、八一八 (六〇、〇六一)	四三二	小麥	三、二六二 (三、一一一)	一八一

包米	七、五八八 (四、三二三)	一二	雜穀	二二、一〇八 (二〇、二二二)	一、八五二
豆粕	八、四六八 (二〇、二一〇)	一	麥粉	五二二 (六二七)	七、一三四
豆油	六〇〇 (四〇九)	四	飲食品	一、一六五	四、三六二
煉瓦	二八五	一四	布帛類	一、七九六	六、九三五

備考、括弧内は大正十二年三月乃至大正十三年二月迄の發送噸數を示す

商取引の多大なるに似ず、既記せる如き新開地なる關係上商家の多數は古からざる他地方よりの移住者なるか、又は支店の開設に係るもの多數を占む、從て豪農豪商若くは老舗と目すべきもの稀なり。金融機關として、滿洲銀行、龍口銀行、正隆銀行の各支店及中國銀行、東三省官銀號の兩支店あり。當地より輿地の各市場に至る主なる交通路と其距離とを示せば次の如し。

- (イ)、當地より靠山屯を經九十支里にして伊通に達し、更に百八十支里を進みて磨磐山に至るもの。
- (ロ)、當地の南二十五支里二十家子を経て小孤山に至り、吉林街道に合して東方伊通に通ずるもの、其距離百支里。

(ハ)、北方五十支里黒林子を經て八家子(懷德)に至り、遠く双城堡に通ずるもの、其距離百三十支里。

(ニ)、北方二十五支里なる朝陽坡を經て揚家大城子に至るもの、其距離百二十支里。工業としては産物の項に於て記せしが如く油坊、燒鍋、日本醬油釀造等あり、孰れも順調に發達せる如くなるが、其最近に於ける年産額左の如し。

- 豆油 九十八萬五千六十一斤
- 豆粕 二十萬六千三百七十一塊
- 醬油 七百石
- 燒酎 四十六萬九千五百二十斤

七、雜件

當地には既記の如く滿鐵の經營に係る農事試驗場あり、其規模廣大設備亦完全にして、農畜産業に亘り廣く研究を進め、良好の成績を收めつつあるなり。

七、開通縣

(イ)、開通縣城

一、沿革及位置

往時は蒙古の一遊牧地なりしが、光緒二十九年時の奉天將軍增祺の猷策に依り、蒙古王との協議を經

て開放の結果、漢人の來住開墾に従事するもの漸く増加し、光緒三十一年(明治三十八年)開通縣を設け置し、七井子なる地に縣衙を置きたり、之を本縣の創始とす。從て今も舊名の七井子と呼ぶものあり。

鄭家屯の北方三百六十支里、洮南の南方四百四十支里の地點に位す。舊名の七井子と稱するに至りしは七個の給水井あるに因みしものなりと云ふ。

二、戸數及人口

最近の調査によれば戸數約三百、人口二千三百を算し、其大部分は漢人なり

三、市街の狀況

市街は不完全なれども周圍に土壁を繞らし、四方に各一門を有し南北三支里東西二支里に達するも、市街を以て目すべきは南北の一條に過ぎず。置縣後移民漸次増加しつつあるも、附近一帶は砂地にして地味の面白からざるより人口の増加極めて遅く、市街一般の體裁亦貧弱にして、今尙は半農半商的小市街たり。素より何等見るべき施設なし。然れども四洮鐵道も既に開通せしことなれば、將來必ず面目を改むるに至るべし。

四、官公衙其他の諸機關

開通縣公署、警察所、郵便局、税局、勸學所、兵營、遊撃隊、高等小學校、國民小學校、女子國民學

校等あり。

五、一般產物及特產物

此地方は地味曹達質なる爲め、農作物豊饒ならず、且つ住民稀薄にして農業振はず、農家の財源は農作よりも寧ろ牧畜にあり、故に農產品の出廻は他地方に比し極めて少なし。而して其主なる種類は高粱、王蜀黍、粟等なり。

牧畜は主要なるものの一にして牛馬羊豚類の飼養比較的盛なり。

六、商工業

(イ)、商業。當地方農民は多く春夏兩季に於て雜貨の掛買をなし、秋冬の候穀類燃料又は家畜毛皮等により、之か決濟を爲すを常とす。商舖の主なるものは雜貨商十三戸、藥舖三戸、澡堂一戸、鐵匠爐五戸、木舖二戸、豆腐屋六戸、銀匠舖二戸、菓鮮舖三戸、燒鍋二戸、油坊二戸、磨坊八戸、瓦窑二戸とす。

穀類家畜等の移出、各種雜貨の移入等其關係地は主として鄭家屯とす。從來家畜の幾分を齊々哈爾地方に移出し、又小麦、煙草、麻等を伯都訥地方に仰ぎしも、鐵道開通後此形勢に變化を生じ、今も此商關係なきにあらざるも往時に比すれば甚た減少せり、今主なる雜貨の移入年額を示せば次の如し。

品目	目數	量	價	格	品目	目數	量	價	格
大尺布	二〇件		六、〇〇〇元		打連布	四〇件		一二、〇〇〇元	
花旗布	四〇"		一二、〇〇〇"		坎布	三〇"		九、〇〇〇"	
綿糸	五〇"		二〇、〇〇〇"		紙類	—		一〇、〇〇〇"	
石油	七〇〇箱		七、〇〇〇"		燐寸	五〇〇箱		七五〇〇"	
蠟燭	二〇〇"		一、二〇〇"		卷煙草	六〇"		一、八〇〇"	
葉煙草	二〇、〇〇〇斤		六、〇〇〇"		麻	五、〇〇〇斤		一、五〇〇"	
白砂糖	一〇〇袋		三、五〇〇"		赤砂糖	一〇〇袋		三、五〇〇"	
氷砂糖	五〇箱		一、〇〇〇"		鹽	五〇、〇〇〇斤		三、五〇〇"	
茶	二〇〇"		五、〇〇〇"		洋麵	四〇〇袋		一、七〇〇"	
豆油	五〇、〇〇〇斤		八〇〇〇、		豆粕	三、〇〇〇枚		二、一〇〇"	

(ロ)、工業。工業は前に示せし如く燒鍋、油坊、磨坊、瓦窯の類にして、其内燒鍋は二戸にて各一班を有し、一日一班の製造高は原料高粱三石二斗を以て、燒耐五百斤を得、其年産額は約十二萬斤なり。油坊も二戸にて一日に原料大豆約八石を以て、豆粕六十枚、豆油約三百斤を製し、年額豆粕約一萬四千

枚、豆油七萬斤内外なり。磨坊は一班の原料一日小麥三斗を以て白麵百三十斤を得、此年額約三十萬斤内外なり。

(ロ)、金城堡

當地は元と蒙古人の一部落なりしが、光緒初年頃より滿漢人の來住する者次第に増加し、現今に於ては蒙人は十支里乃至二十支里の地に退去し、全く漢人の部落と化したり。而して開通縣城の東方約十五支里の地點に位し戸數約二百、人口千八百を算す。

特に市街と吹聽する程度にあらざるも、附近一帶は僅少の人家よりなる小部落のみなるに、當地は附近稀に見る大部落にして、稍々街形を成すを以て斯る地方にては市街と稱するも敢て不可なからん。俗に哈拉烏蘇と稱せられ、前後の兩街に分たれ巡警局、稅局、郵便局、小學校等あり。

附近は稍々農耕に適すれども、未開墾地多く特に産物として擧ぐべきものに乏しきも、牧畜盛んにして年々多少の畜産物を移出す。然れども開通に近きが故に其商範圍は狭小にして、附近二十支里乃至五十支里に過ぎず。從て其集散物資も亦多からず、唯雜貨舖兼穀物商十餘戸ありて、附近部落との間に小取引せるのみ、而して其顧客の大半は蒙古人なり。

(ハ)、四井子

瞻榆の北方九十支里、開通の西方四十支里平原地帯の間に在りて、戸數八十、人口六百を有し、不完

全なれども一部稍々街形を成し、巡警局、小學校、郵便局等あり。

商家は大小併せて十八戸にして、附近農民との間に日常の小取引を行ひつつあるなり。

周囲の産物は高粱、大豆、瓜子、甘草及家畜並に其副産物なれども、直接開通地方に送られ、此地に集散するもの少量にして云ふに足らざるなり。

(ニ) 巴拉山招

當地は元と蒙古人の一部落なりしが、開通附近の開墾進むに従ひ、滿漢人の來住する者次第に増加し現今にては開通、安廣間に於ける唯一の大部落となりたり。而して開通の北方約五十支里に位し、戸數約百、人口八百を算す。稍々街形を成し、巡警局、郵便局、小學校等あり。

附近一帯は未開墾地多く産物として擧ぐべきものなく、唯小雜貨商約十戸及燒鍋二戸ありて、一箇年の製造高約六萬斤を算するに過ぎざるなり。

一般商家も四圍の農民と日常雜貨の小取引を爲すに止まり、其範圍狭く其量少く論ずるに足らざるなり。

(ホ) 邊昭

當地は開通縣城の南方鄭家屯に通ずる路上、開通を距る六十支里の地點にあり。別名を巴彥昭と稱し戸數僅に四十、人口約三百を算する小部落なれども、此附近に於ては比較的大部落にして、不完全な

れども高さ約九尺の土壁を繞らし、巡警局、郵便局、税局等あり。又約二支里を距る部落に小學校あり。

附近一帯は耕地に乏しく産物としては何等録するに足るものなきも通行者の宿驛地に當り、四、五の雜貨商及二、三の料理店、旅店等あり。

八洮安縣

(イ) 洮安縣城

一、沿革及位置

當地は一名靖安又は白城子(遼代の城趾なりとの歴史的關係上)とも稱す。元と鎮國公旗の遊牧地にして、荒蕪地たりしを開放して移住開墾を奨励し、光緒三十一年(明治三十八年)遂に置縣せられたり。後民國三年蒙匪の亂に際し、住民は一時引拂ひたるも、間もなく復舊し、高さ丈餘の城壁を修築せり。而して洮南の北方六十支里の平原中に在り。

二、戸數及人口

人口稀薄にして戸約二百五十、人口千五百を算するに過ぎず。

三、市街の狀況

市街は方二支里、高さ約九尺の土壁を以て圍繞せられ、東西南北の四門あるも、土壁内の大部は空地

にして、街形を成すは一部に止まり至て貧弱且つ寂寥なり。

四、官公衙其他の諸機關

洮安縣公署、巡警局、兵營、稅局、郵便局、高等初等小學校等あり。

五、一般産物及特産物

當地は産物と稱すべき程のものなく、單に周圍に高粱、大豆、小麦等農産物の産出あるのみ。

六、商工業

壁内に規模の小なる商家約五十戸、燒鍋二戸あるのみにて、商工業至て振はず。斯く商工業の振はざるは南方僅に六十支里の所に洮南を控ゆる關係上、農畜産物は直接産地より洮南に搬出せられ、需用品亦該地に於て求めらるるに因る。

(N) 工業に就ては前記二個の燒鍋の外に何物もなく、從て年額約六萬斤の燒酒の産出あるのみ。

(ロ)、三十戸

洮安の西方四十五支里、洮南の西北六十支里に在りて、戸數三百(内蒙人白)、人口二千百に達するも南北三十支里、東西十支里の廣地域に亘りて散在し、街形を成すは三十餘戸(此街形を成す部分を特に三十戸街と云ふ)に過ぎず。從て商家も大小合せて十二戸とす。然れども巡警局、郵便局、小學校等の諸機關あり。

産物は高粱、大豆、粟等の農作物なるが、農家の副業としての牧畜も割合盛なるを以て、畜産及其副産物も輕視すべからざるものあるなり。

當地の東方に俗に老爺廟と稱する喇嘛廟ありて、其僧數五十名の上に出で、屋上擬寶珠の燦爛として黄金の光輝を發し、一偉觀を呈す。

(ハ)、七十戸

洮安の西北七十支里に在りて、戸數百二十、人口八百五十を有し、た粗末至極なれども一部街形を成し、巡警局、小學校、郵便局等の機關あり。

住民は農業及牧畜を業とするも、商家九戸ありて日用雜貨の販賣に従事しあるなり。

産物は有り觸れたる農畜産にして、特記に價するものなし。

九、安廣縣

(イ)、安廣縣城

一、沿革及位置

元と鎮國公旗の遊牧地なりしを開放して、光緒三十一年(明治三十八年)置縣せられ、縣公署を徐家窩棚なる地に新築して安廣縣と稱せり。之れ即ち現安廣縣なり。

二 洮南の東方百七十支里、大賚縣の西百十支里の平原中に在り。

二、戸數及人口

新開地なれども附近一帶農耕に適する土地の多からざる爲め、人口増加遅々として振はざるなり。従て現時尙ほ戸數百、人口八百を算するに過ぎず

三、市街の狀況

市街の建設地として二支里四方の豫定地域を有するも、多くは茫々たる草地にして市街として見るべきものなく、商舖としても僅に焼鍋二戸、雜貨商二戸、旅店三戸あるのみに過ぎず。されば旅店も旅客の宿泊極めて稀なり。

四、官公衙其他の諸機關

安廣縣公署、警察所、税局及公府租局、巡防隊(歩兵)、小學校、郵便局等あるのみ

五、一般産物及特産物

前記の如く人煙稀なるを以て、集散物資も穀物年額二、三萬石餘にして高粱、糜子、大豆等を其主なるものとす。外に特産物として曹達あり。又家畜等あるも其數多からざるなり。

六、商工業

既記せし如く此地は開放せられしも、土地曹達質にして地味肥沃ならざる爲め遅々として發達せず、全く商業地として目すべき價值なし。工業は附近に於ける地質の關係上曹達の製造稍々盛にして、年額

約六十萬斤に達し、主として鄭家屯を経て南滿地方に移出せらる。

又二戸の焼鍋に於て造らるる焼酒は年額約二十萬斤にして、其製造期は春秋冬の三季間とす一戸は大
班にして一戸は小班なるが、大班一日の造酒原料は高粱四石にして之より焼酒約四百斤を得、而して
小班は此約半數量なり。

一〇、突泉縣

(イ)、突泉縣城

一、沿革及位置

當地は洮南の西方二百支里の平原中に位し、南方四十支里にして、圖什業圖王府に達するを得。地名を蒙古語にて「ボトヘンボラガ」と稱す。元と蒙古の一部落に過ぎざりしが、光緒三十三年(明治四十年)縣治を布くに當り、此地を撰びて街基地と爲し、醴泉と改稱せられ、民國二年更に突泉縣と改められたり。然るに同四年に至り、本縣の既開墾地たる南半部を割きて瞻榆縣の新設せらるるに及び、主たる本縣は設治局となり、交流河以北のトルヂー、黒頂山等の地を管轄するに至りしものなり。

二、戸數及人口

戸數約二百六十、人口二千五百を算す

三、市街は建設日尙ほ淺く未だ人口稠密ならず、加ふるに蒙匪の襲來頻繁なるが故に大なる發達をなす

能はず、爲めに今も市街と云はんよりは、一個の部落と云ふを適當とす。家屋は前記の如く二百以上存在するも、廣く點在し殆ど街衢の體を成さざるなり。

四、官公衙其他の諸機關

突泉縣設治局、稅局、兵營、保全地分局、郵便局、小學校等あり。

五、一般產物及特產物

當縣管下は未だ開墾の進まざる爲め、穀類を産するも其額少く、又家畜は主產物なれども蒙匪の亂後著しく其數を減じ、是亦不振の状態にあり

六、商工業

商業も未だ見るべきものなく、僅に大小の商家約二十戸を數ふるに過ぎずして、日常輕微の賣買を行ひ、現在に於ては見るべき點更になきも、四圍の土質は比較的肥沃にして未開墾地多きを以て、將來開拓の進捗に伴ひ、必ず商業發達の期に到着すべし。工業に就ても燒鍋一戸あるのみにて他に何等記すべき價值のものなし。

(ロ) 那金河

瓦房の西方二十支里に在りて、縣城突泉を距ること略ぼ瓦房に同じく百二十支里内外とす。戸數六十、人口五百に過ぎざる部落なれども商家六戸を算し、巡警局、小學校等ありて、四圍の部落

との間に小取引行はる。

四方山を繞らす盆地なれども產物は農作物にして、其量比較的豊富なるを以て、多からざれども他地方への移出力あり。

一一、鎮東縣

(イ) 鎮東縣城

一、沿革及位置

當地は別名を叉干撓と云ふ。洮南の東北百四十支里、大賚の西北約百八十支里に位し、元と蒙古鎮國公旗の遊牧地なりしが、光緒三十四年(明治四十一年)開放せられ、翌宣統元年始めて此地に鎮東衙門を新設せしものにして、爾後十數年を経るも大なる發展を見ず今尙ほ寂寞たり。

二、戸數及人口

縣衙の所在地なるにも係らず、人口少く最近の數を見るに戸數約百五十、人口千四百内外に過ぎず。

三、市街の狀況

不完全至極なれども周圍に方五支里の城壁を有し、南北各二門東西各一門を備ふるも、城内の大部は草原にして殆ど市街を形成するに至らず、僅に縣公署附近の道路に沿ひたる部分に、雜貨舖等約二十戸、其他に兵營及小なる商家農家の点在しあるを見るのみなれども、民國七年頃より漸次繁盛に赴く

べき象徴あるは此地の爲め喜ぶべし。

四、官公衙其他の諸機關

鎮東縣公署、警察所、兵營、税捐局、郵便局、小學校等あるも他に特記に價するものなし。

五、一般産物及特産物

産物は大豆、高粱等の穀物と家畜特に牛にして、其中穀類は年と共に其産額を増しつつあるなり。

六、商工業

(イ)、商業。市街の部に記せしが如く商家の主なるものは、五、六戸の雜貨舗に過ぎずして粮棧の如き活氣ある商店なく、主要産物の穀類も當地に集中せずして直接農村より洮南地方に送らる。従て商業の見るべきものなきも、家畜特に牛の取引のみは稍々盛にして、春季より秋季に至る間に其取引の行はるるもの多く、而して其仕向先は従來齊々哈爾を主とせしも、露人の没落と四洮線の開通とに因り、現時に於ては、洮南地方に送らるるもの漸次増加の傾向にあり。又牛に次ぐは馬にして其仕向先は、主として農安及長春地方とす。

(ロ)、工業。工業を以て目すべきものは、燒鍋、油坊、磨坊、粉坊の四種なるが、何れも雜貨舗の兼營ると云ふ。

にして土地の需用を充すに止まり、未だ他地方へ移出の程度に達せず。

二、法庫縣

(イ)、法庫門

一、沿革及位置

法庫門は隨代の黒水、唐代に藍州の地なりしが、其後幾多の變遷を経て、蒙古賓圖、博王兩王旗に屬し、更に清の康熙年間開原縣の管轄となり、光緒三十二年に至り遂に新民、鐵嶺、康平三縣の各一部を割きて、法庫廳を置きたり、之れ現今の法庫縣の前身なり。古は三台子又は八戸門と稱したりしが明治三十八年日清通商條約に依り、通江口と共に開放せられ、民國二年縣治を布き法庫縣と改稱せられたるものにして、現時舊名を呼ぶ者なく縣名又は法庫門の二に限らる。

通江口を距る西南六十支里、康平の南方亦六十支里、鐵嶺の西北九十支里に在り。

鐵道沿線より當地に至る捷路は、鐵嶺よりするを可とす。

二、戸數及人口

最近の調査に依れば戸數約三千四百、人口二萬二千を算し、内商家八百五十戸あり、日人亦十七戸五十人居住す。

三、市街の状況

市街は西北に鐵壁山及法庫山を負ひ、南に遼河の支流砂河を控へ、邊門あり。柳條邊門十二中の一にして、康熙三年八姓を戍戸として邊門を衛らしめたるにより、八戸門と名つけ、後法庫門と改稱せるものなり。市街は煉瓦壁を繞らし四門を有し、主なる街衢は南北に通ずる二條の大街なり。由來當地は鄭家屯の開放せらるる以前は、滿洲中唯一の蒙古貿易市場たりしが、該地の發達と共に漸次衰退を來し、且團匪の事變等ありて、現今は往時の如く市況盛ならずと雖も、大街に軒を並ぶる商家の多くは結構宏大にして、少くも建築物の上に於ては遙に往時に優るの觀あり。又列國に開放せるに拘らず、佛英の宣教師及日人の居住するもの五十餘名の外、外國人の居住するものなし。

四、官公衙其他の諸機關

法庫縣公署、警察所、稅局、電報局、電話局、郵便局、兵營、商務會、銀行、農務會、自衛團、監獄、男女師範學校、男女高等小學校、初等小學校、寺廟、醫學研究所、醫院、耶蘇教會堂、勤學所、教育會及我警察官吏出張所等あり。

五、一般產物及特產物

產物は大豆、高粱、粟等の穀類及豆粕、麻油、麻餅、豆油、曹達、麥粉等を主たるものとなす。

六、商工業

(イ)、商業。當地は前述の如く、往時は商業頗る盛大にして、其範圍は吉林、黑龍江地方の一部を包含

せしも、今日は其た狭少となり、管内及康平彰武二縣並に博王賓圖二旗の各一部地方の集散を掌るに過ぎざるなり。

對外關係に於ては、營口と最も密接の關係を有し、鐵嶺、新民、奉天亦取引なきにあらざるも、前者に比すべくもあらざるなり。

重なる商店は糧棧、發貨店、油坊、雜貨店等にして、其概要左の如し。

當舖一、燒鍋三、城店三、糧棧七、油坊二一、糧車店九、車店六、糧米店二四、雜貨店四二、陶磁器商九、菸果蠟局二一、藥舖七、果物商一六、木匠一四、染坊九、鞍轡舖三、銀首飾樓一七、白銅首飾樓四、皮革八、烏拉舖一七、鐵匠爐一二、鞭杆一〇、香油坊六、柳器商六、篋舖四、機坊四。

穀物取引。穀物の買賣は市儼及圍儼の現物賣買にして、凡て糧棧及糧車店の手を經る習慣なるが、之を營むもの二十餘家あり。

布疋雜貨類取引。布疋雜貨類の移入地は殆ど皆營口にして、該地との取引勘定は該地の卯期（過爐銀決算期）を以てし、過爐銀を以て支拂ふ慣習なり。而して當地に於ける賣買は凡て現銀とす。親交ある商店若くは大商店間の取引に於て、往々十日又は二十日間の延勘定を爲すものあるのみ。

集市は毎日開かれ菜市、柴市、牛馬市、糧市等あり。又此地の商業機關たる商務會は主として商家紛争の和解及斗量稅、巡警費の代收を爲すの外、會内に統計局を設けて、移出入貨物及各種の統計表を

作成する等、之を他地方の商務會に比較すれば、大に活動する部に屬すべし。

毎年當地に來集する貨物の主なるものは大豆、高粱、粟等にして豆油、豆粕、麻油、麻餅等の此地方
産出品と共に移出せらる。蒙古との貿易は近時蒙古人の來集するもの少く甚だ衰微し、其稍々盛なる
時期とも云ふべき十、十一、十二月の三箇月と雖も、一斑三車若しくは六車より成るもの僅かに數班の
入市あるに過ぎず。一年を通じて蒙古人の市場に來る者二千人を越えずと云ふ。

蒙古人の貿易貨物は瓜子、穀類、牛馬、乳皮子、乳豆腐、黄酒、皮類にして、就中穀類及牛馬最も多
し。従來は全部布疋雜貨類との物々交換なりしが、時勢の變化は彼等も現銀の價值を認識し、便利な
る普通の取引に移りつつあるなり。

移出品の大部は三面船の埠頭を経て、水運に依り營口に輸送せらる。然れども豆粕、麻餅、芝麻、小
麥は鐵嶺に出づるもの比較的多く、又高粱、大豆、粟の一部は新民屯に陸路搬出せらるるなり。今其
移出品の一箇年に於ける概數及仕向地方を示せば次の如し。

種類	數量	仕向地方	種類	數量	仕向地方
谷子	一五、〇〇〇石	"	雜穀	一六、〇〇〇"	"
元豆	四〇、〇〇〇石	營口	小豆	八七〇石	營口

高粱	三〇、〇〇〇石	營口	豆油	一、三〇、〇〇〇斤	營口
小麥	七、〇〇〇石	"	豆粕	二四〇、〇〇〇枚	鐵營嶺口
粳子	五、〇〇〇石	"	麻油	五〇〇、〇〇〇斤	營口
芝麻	二、〇〇〇石	鐵營嶺口	麻餅	八〇、〇〇〇枚	鐵營嶺口
曹達	二七〇、〇〇〇斤	"			

又同様移入品の概數及仕入地方を示せば次の如し。

種類	數量	仕入地方	種類	數量	仕入地方
綿布類	八、〇〇〇件	鐵營嶺口	曹達	三、〇〇〇斤	蒙古
砂糖	二五〇、〇〇〇斤	營口、鐵營嶺口、新民屯	藍靛	一五、〇〇〇斤	長春
絹反物類	一、〇〇〇疋	鐵營嶺口	陶磁器	二六〇、〇〇〇件	營口

紙類	七五〇件	新民屯口	海紙	三、〇〇〇塊	營口
葉煙草	七〇、〇〇〇斤	吉林、鐵嶺、奉天	鹽	八〇〇、〇〇〇斤	新民屯
線麻	二〇、〇〇〇斤	"	茶	三、〇〇〇斤	營天口

(ロ)、工業。油坊二十一戸あり。内麻油製造を専業とするもの四家を除く外は凡て豆油の兼業とす。一家二班を有するもの多く、一班のものは四家なり。搾油原料は大豆及大麻子にして、一箇年の産出額は、大豆粕大二十五萬枚、小五萬枚、大麻粕(一枚七斤)四十萬枚(内十三萬枚は燃料として油坊に於て消費せらる)、豆油百三十萬斤、麻油五十萬斤なり。

大麻子は此地方の特産物にして、麻餅の製造は多く一日二班に分れ、前班は五棗(一棗七枚)、後班六棗、合計七十七枚を製出す。出油量は上等品は一棗九斤半なるも、下等品は七斤に過ぎず。而して原料は一棗に付五斗即ち一枚に付七升一合の割合なり。燃料は既記の如く麻餅を用ひ、一日二班の作業に對し約二十四斤を消費す。搾油法は舊式にして新式のものなし。

麻餅の用法は主として苗の肥料に使用せられ、麻油は製蠟原料に用ひらる。食用として多少需用せらるるも、結果は良好ならざるなり。而して豆粕の總産額の七割は鐵嶺に移出せられ、麻餅は解水期中三面船を経て營口に移出せらるるもの多く、又一部は新民屯に出づ。

城鎮三家あり、元と此地は城(曹達)の製造甚だ盛なりしが、近時鐵道沿線地方に、輸入西洋曹達の需用増加せる爲め、年と共に減少し、一家一箇年の製造高は平均一千盒(一盒二塊、一塊八十斤)に過ぎざるなり。

磨坊、六十餘家あり、各家多くは一班の製造にして、一日の製粉高は二百八十斤、其年産額は大約三百萬斤に達するも、全部地方の消費に充てられ移出の餘力なし。

燒鍋は原と城内に三家ありしも、收支償はざる爲め閉店し、現在は市外數支里の地に二、三家を數ふるに過ぎず。斯くて其製品は殆ど當地方に於て消費せられ、他地方に出づるもの皆無に近し。

七、鑛業

當縣管内には炭坑四、五箇所あれども、概ね小規模にして殆ど論ずるに足らず。從て其採掘年額も約五十萬斤にして、地方の消費に充てらるるに過ぎず。

(ロ)、柏家溝

法庫門の東方三十五支里、通江口の西南方十五支里に在りて、戸數約四百、人口二千三百と稱せらるるも、街形を成すは一小部分にして商家も大小合せて三十戸に過ぎず。又郵便局、小學校あるも、巡警局等の警備機關なし。

産物は穀類を主とするも、周圍約三十支里の地に少からざる梨(小形の美味ならざるものなるも)を産し、通江口及鐵嶺方面に移出せらる。此地に邦人一名ありて賣藥業に従事す。

(ハ) 三面船

三面船は遼河埠頭の一にして、夏季法庫門營口間に於ける水陸運輸の中繼通路たり。爲めに從來は船舶の出入並旅客の上下共に多く、二十有餘の糧棧ありしも尙ほ不足の觀ありしが、北清事變以後頓に衰頹し、如ふるに鐵道の開通となり、其便多きに反し、水路は水田開拓等の爲め水量を減じ、船の航行に不便を生せしより、今や著しく衰退し、また往時の隆盛を見る能はざるなり。

當地は遼河の右岸を距る事約二支里(流水の如何に依り遠近を來すことあるも)にして戸數百五十餘、人口五百餘を有するも、殆ど街形を成さず、單に集團しあるに過ぎざるなり。而して巡警局、税局、郵便局、小學校等の諸機關あり。

當地より水路鄭家屯に達する距離は、上流約九百支里、通江口へ同約四百支里、營口へ下流約七百支里にして、法庫門の南方陸路七十支里に在り。

解氷期中埠頭に到着する戎克は一日五隻乃至七隻にして、雜貨を積載し上り來りたるもの全解氷期を通じて約四百隻、穀物を積載して同地より下るもの同約七百隻を算し、年移出穀類の總額約十萬石なりとは、從來稱ふる所なりしが、最近に於ては其約半數に減少せしもの如し。其理由は上記せし如く

鐵道の開通に因るものとす。

(ニ) 秀水河子

法庫門の西方八十支里にありて、戸數二百五十、人口千六百を算し、一部街形を成し、大小の商家合せて約二十戸に達する一邑鎮なり。

保甲團、郵便局、小學校、税局等の機關ありて、四圍の農村との間に小取引行はる。

産物は高粱、大豆等の農作物にして、別に特産品なし。

此地に邦人一戸ありて、賣藥及質業に従事す。

(ホ) 葉茂台

法庫門の西方九十五支里、秀水河子の同西方十五支里に在りて、戸數三百、人口千八百を算し、不完全なれども稍々街形を成し、商家約三十此内には二班の設備を有する燒鍋一戸あり。

巡警局、兵營、郵便局、税局、小學校等の機關あり。

産物は高粱、大豆等の農作物にして、別に特産なく、取引は四圍の農村との間に日用諸雜貨を中心に行はるるに過ぎざるも、此一帯に於ける邑鎮たり。

二三、瞻榆縣

(イ) 瞻榆縣城

一、沿革及位置

瞻榆縣は蒙古圖什業圖旗の遊牧地にして、久しく荒蕪に委しありしが、光緒三十二年(明治三十九年)開放し宣統元年(明治四十二年)設置されたる醴泉縣(今の突泉縣)の管下となれり。民國四年突泉縣の南半部を割きて、新に瞻榆縣を新設し六家子(蒙語チオルガンゴロ)なる地に縣衙を置きたるも、同五年蒙匪の亂に依り縣衙を燒失せし爲め、同六年開化鎮(蒙語チャフタイ)なる地に縣衙を移せり。之れ即ち現在の縣城なり。開通縣城の西方約九十支里に在り。

二、戸數及人口

(一) 戸數約三百、人口約千九百を算し、其大部は移住漢族の農民なり。

三、市街の狀況

不規則不完全なれども一團の街衢を成し、商家は大小總數約三十戸とす。家屋の多くは蒲鉾屋根の舊式にして、其間稀なれども點々黒煉瓦造を見るのみ、要するに樹木に乏しき新開の荒涼たる一小市街に過ぎず。本來此地は四圍に未開墾地多く、多望の前途を有するも、馬賊の出沒甚だしく爲めに發展を阻碍されつつあり。故に此難物を除去するにあらざれば、折角の良素質も成長する能はざるべし。

四、官公衙其他の諸機關

瞻榆縣公署、警察所、郵便局、税局、保全地局、小學校、兵營等あり。

五、一般産物及特産物

一般産物としては高粱を主とする穀物を産出せざるにあらざるも、殆ど移出力を有せず。然れども特産としては甘草、瓜子、大小麻子を産し、外に苦參防風等六、七種の藥草を産出す。

六、商工業

商工業家の主なるものは、燒鍋一、茶舖一、旅店二、雜貨舖約十戸にして、集散品の主なるものは、前記産物とす。其移出數量を見れば、甘草約六十萬斤、瓜子五百石、牛約千頭、同上皮六、七百枚、羊約二千頭、同皮約千五百枚なり。

(ロ) 六家子

瞻榆の南方三十支里、平々坦々たる平野の間にあり。

民國四年突泉縣の南半部を割きて新に瞻榆縣を置くに當り、當地は其所在地となりたるも、同五年蒙匪の亂にて縣衙の燒失するや、縣衙は開化鎮即ち現瞻榆縣所在地に移りたるものにして、蒙匪の亂は此地に大なる災厄を與へしものなり。

(二) 戸數八十、人口七百を算するも、街形を成すは一部にして大小の商家を總計するも、其數約二十に過ぎざるなり。然れども巡警局、小學校、郵便局等の機關あり。

四圍の産物は高粱、瓜子、甘草及牛馬毛皮の類なれども、産地より直接鄭家屯方面に送られ、當地に

集散するもの甚だ少し。

一四、双山縣

(イ)、双山縣城

一、沿革及位置

此地は蒙古達賴罕旗の遊牧地にして、久しく荒蕪に委ねありしが、清の光緒年間土地を開放し、招民開墾を許し、民國三年新に置縣せられたり。元と板打窩棚とも稱せられ鄭家屯の東北八十支里、四圍開豁なる平原中にあり。

二、戸數及人口

戸數三百五十、人口約二千を有し、主として山東、奉天方面より移住せる漢人なり。

三、市街の狀況

街衢は東西に通ずる一條の大街と之に交叉せる二、三の小街より成り、家屋は例の客車又は貨車形の矮小なるもののみなるも、比較的清潔にして其大部は商家なり。

四、官公衙其他の諸機關

双山縣公署及其附屬官署、郵便局、小學校、税局、商務會、農會、兵營等あり。

五、一般産物及特産物

高粱、大豆等農産物の外記すべきものなし。

六、商工業

結氷期に於ける農作物の集散する頃は商勢活潑なるも、其他にありては周圍より來集せる農民との間に小取引あるに過ぎず。移出入關係地は主として鄭家屯、營口、大連とす。

七、雜件

此地は周圍に廣大にして肥沃なる未墾地を控ゆるを以て商工業上將來必ず發達すべし。

此地は從來馬賊の巢窟として知らるる所にして、現時彼等の勢力は大に減退せしも、今尙ほ其頭目連の附近に居を置くもの少なからず。物騒と云へば物騒なれども、由來彼等は自己の居住地を荒さるるを常とするを以て反て安全率高し。

一五、通遼縣

(イ)、白音太來

一、沿革及位置

通遼鎮は縣城の所在地にして、別名を白音太來又は巴林愛新鎮とも稱し、內蒙古達爾罕王旗下の廣漠たる放牧地の東部に民國二年新に設けられたる市街なり。鄭家屯の西方七十哩、四洮支線の終點に位し、遼河の右岸を離るること五、六支里の地點にあり。

二、戸數及人口

近來開墾事業大に進捗し、移住農民の増加に伴ひ市街の繁榮を加へ市民亦増加し、最近の戸數五千八百、人口約五萬(出稼者を含むものにて之を除くときは定住者は三萬六、七千位ならん)と稱せらるるに至れり。而して其種類は僅少の蒙人を除くの外殆ど漢族なり。

三、市街の狀況

最初當地東隣の一邑小巴音太來は商舖輻湊し民戸蟬集して稍々繁華なりしに反し、此地は人家寥々甚だ寂寞を極めしが、民國四年該地の水災に遭ひて以來其地の商賈の多くは此地に移動せしと共に彼の繁榮亦之に移り、其後四圍の開發と鐵道の開通とに因り驚くべき急速の進歩發展を遂げ現今の如き大市街を形成するに至れり。而して街衢は井字形なる大街を中心として幾多の小街之に交叉し、東西を貫く中街最も繁盛なる商區となす。

四、官公衙其他の諸機關

通遼縣公署、警察署、稅局、荒務局、商務分會、博愛醫院(滿鐵經營)、兵營、郵便局、電報局、電話局、巴林愛新地局及卓理克圖王府警防營、高等、初等小學校等あり。

五、一般產物及特產物

(1) 農產物。穀類の產出年額は約十萬石にして高粱米約五萬石を主なるものとし、粟、大豆、玉蜀黍、

蕎麥、綠豆、大小麻子、瓜子等之に次ぐ。而して尙ほ逐年其產額を増加しつつあり。

(2)、家畜。一箇年間に於ける家畜の產出數は牛一萬頭、馬七千頭、羊三千頭内外なりと稱へらる。

(3)、皮毛類。皮毛類の主なる品名及產出數量を示せば、

牛皮	三、〇〇〇枚	馬皮	一、〇〇〇枚	山羊皮	五、〇〇〇枚
狗皮	五、〇〇〇枚	兔皮	六〇、〇〇〇枚	狐皮	五〇〇枚
狼皮	五、〇〇〇枚	猫皮	二、〇〇〇枚	緬羊皮	三、〇〇〇枚
山羊毛	一五、〇〇〇斤	緬羊毛	二五、〇〇〇斤	駱駝毛	五〇〇斤
猪毛	二〇、〇〇〇斤	猪鬃	三、〇〇〇斤	獸骨	八、〇〇〇斤
馬尾	二、〇〇〇斤				

等にして一部は當地に於て消費し、大部は奉天方面に移出せられ、年額約十七萬元に達すと云ふ。其他甘草も年額二十萬斤の出廻あり。

六、商工業

(1)、商業。鄭家屯、開魯間四百支里中唯一の商業地にして、商家一千五百戸あり。商務會の發表に依れば、一箇年の取引高は二百萬元に達すと云ふ。

移入品は雜貨類にして、其主なるものは綿絲布、砂糖、石油、燐寸、麥粉等の類なり。而して綿絲布

の九割は日本品にして、其他の雜貨に於ても本邦品は頗る優勢の地位にあり。

洋雜貨の總移入額約四十二、三萬元、土貨移入額四萬七、八千元合計四十七、八萬元なり。雜貨の仕入地は營口を主とし、鄭家屯、奉天、錦縣等之に次ぐ、而して其仕入の割合は次の如し。

營口七割。綿絲布、砂糖、紙類、茶、燐寸、石油其他洋雜貨。

鄭家屯約二割。綿布其他雜貨。

錦縣、奉天、開原約一割。綿絲布、洋雜貨、葉煙草。

農産物の移出地は營口、大連を主とし、外に例外として朝鮮向粟の安東に向ふもの及高粱の開魯に行くもの若干あり。

家畜中牛馬は、附近村落及鄭家屯並に長春方面に送られ、羊は地方の需要に供せられ、牛は十月、十一月の交其大部を哈爾濱及長春方面に移出す。今最近移出されたる生牛を地方別として擧ぐれば、

鄭家屯二割、長春三割、哈爾濱五割、

(ロ)、工業。工業と稱すべきは油坊、麻油坊、燒鍋及磨坊、染坊等にして其概要次の如し。

油坊は五戸あり、一班乃至二班装置を有し、一班一日の製造高は原料大豆三石一斗より豆粕二十三斤物六十枚及豆油百三十五斤にして、一箇年の製造高は、豆粕十五萬枚、豆油三十四萬斤なり。

麻油坊は麻實を以て油を製するものにして七戸あり。作業期間は冬季四、五箇月にして、一箇年の製

造高は油約九萬斤、粕五萬枚内外なり。

燒鍋は高粱を以て燒酎を製造す。高粱四石を以て五百斤の酒を造るを一日一班の作業とす。當地に三戸ありて最近一箇年の製造高は七十二萬斤なりと云ふ。

磨坊十一戸、粉坊二十戸ありて前者は一箇年原料小麥二千四百餘石より四十二萬八千斤の麥粉を製出し、後者は素麵二十餘萬斤を製造す。

七、雜件

當地は四圍の關係上實に多望の前途を有するも、一朝遼河の大氾濫を見るときは、水災危険の大なるものあり。現に民國十三年夏の水害の如き其一例たり。故に此危険を除去すべき方法を講せざれば、永久的發展の上に多少憂患を免れざるべし。

(ロ)、錢家店

鄭家屯の西鐵路五十五哩、白音太來の東十五哩の地點にありて、市街は東西に通ずる一條なれども、戸數百八十、人口約一千を算し、大小の商家約三十にして巡警局、郵便局、小學校、稅局等あり。産物は大豆、高粱、胡麻等の農産品にして、四圍に肥沃なる耕地及未耕地を控ゆるより、平素は小取引の行はるるに過ぎざるも穀物の出廻期に至れば、商況活氣を呈し市内俄に繁盛の度を加へ、來往人馬絶ゆる時なし。

當地の西南方約二十支里に、我東亞勸業公司の經營に係る水田及乾田あり。鐵道開通の結果驛の所在地となりたる關係もあり、此地の前途は有望なり。

(ハ)、餘粮堡

白音太來の西南六十支里を隔つる平坦なる畑地の間に在りて、戸數百二十、人口五百五十を算し、六個の商店、七、八個の小雜貨店あり。又巡警局ありて地方の治安を維持す。不完全なれども周圍に土壁を有し、東西に各一門あり。現今にては農村部落に多少毛の生へたるに過ぎざる一小邑なるも將來必ず發達すべし。

産物は高粱、大豆の類を主とし、土地頗る肥沃にして、年々開拓せられ擴大さるる地方なるを以て其産額も年と共に増加の一方にあり。

燒鍋二戸ありて年額約十八萬斤の燒酒を製出す。

(ニ)、達宰

鄭家屯と白音太來との略中間、即鄭家屯の西方百二十支里、鐵路約三十三哩の地點に位す。最近の戸數約百、人口約五百を有し、商店は四戸の雜貨舖及藥屋或は肉屋の如き小舖七、八戸あるに過ぎざれども、巡警局、郵便局、小學校、税局等あり。而して四圍に肥沃なる未墾地を控へ且つ南方約五支里の地點に新に驛の設置を見、交通の便利を加へし等前途有望の地となりたり。

此地の東方約三支里の平坦なる畑地中に、邦人の經營に係る燒鍋あり、屋號を三泰號と稱し、遠望は宛然城廓の如し。經營主は東京外國語學校出身の青年實業家菊竹實藏氏にして、目下の製造高は一日約六百斤なれども、該地方一帯本製造所に乏しく、從て白音太來、鄭家屯間二百四十支里に亘る廣大なる地域の販路を有するが故に、更に事業を擴大し、羽翼を伸張するの計畫なりと聞く。産物は高粱、粟、大豆等の普通農産物なるも、南方東方の一帯に水田開墾せられ、漸次擴張の狀態にあり。故に早晚水稻米の産地として知らるるに至るの期あるやも知れざるなり。又三泰號の存在する關係上燒酒も此地の一産物たり。

第四節 郭爾羅斯旗

一、王爺府

(イ)、王爺府

郭爾羅斯前旗郡王府の所在地にして、後旗と區別して南公爺府或は單に公爺府と稱し、伯都訥の東南九十五支里、松花江の左岸に位す。公爺府竝に村落は西北流する松花江を距る僅に三支里乃至五支里の低地、江に沿ふて走れる高さ二百餘尺の丘麓に在り。江畔の低地は南北約十四、五支里に及び、北半は若干の耕地を有すれども他は殆ど皆牧地なり。

戸數約二百餘、人口約二千を算し漢人農三戸、宿屋六戸、車宿二戸、小雜貨舖一戸及電報局の外は總て

蒙古人にして、公爺府出入の官吏軍隊を除く外は牧畜に従事するもの大半を占め漢人を雇傭して農業に従事するもの亦三、四家あり。蒙古人部落は公爺府附近に集團し、其東北にあるものを公營子、西南にあるものを二家子と稱す。王爺府は丘麓蒙古人部落の中間にありて東西四町、南北三町餘の宏壯なる邸宅を構へ、二重周壁を以て之を圍む、正門を入れれば高さ數丈に餘る影壁あり、更に左折して木門あり、之より邸内に入る。門前には數名の蒙古兵銃を捧げ出入者を監視す。内部の構造は普通支那式にて、煉瓦を以て築かるるも壯麗ならず。門を入りて官吏の住宅竝に執務室、應接室等あり、第二第三門に入りて王一族の常住所及應接室あり。

公爺府前面數町の地には數百年を経過せる榆樹林立し自然の公園を形成す。前方三支里を離れて北上する松花江の清流、江畔の畜群、帆影一眸の下に集り頗る勝景の地なり。

王府に常駐するもの左の如し。
官吏の外軍樂隊三十名、馬衛隊五十名、歩衛隊五十名、學校には初等高等小學校あり。
呵拱戕廟は王府と距る北八支里にあり。同廟は民國初年頃改築せるものにして、建築工事は漢人の手になり、材料は吉林材を用ひ、其色彩彫刻の美麗なる恐らく東蒙屈指のものたるべし。現に高、寶、鳥の三大喇嘛ありて王府より一排(兵二十名)の蒙兵を派遣して警衛す。
電報局は民國元年八月農安を経て急設せられたるものに係り、漢人を派して一般電報事務を掌る外長

距離電話の設備あり。

王府より各地に至る距離及交通左の如し。

萬金塔に至る八十五支里	審門に至る百五十支里
五家子站に至る二百五十支里	扶餘(伯都訥)に至る九十五支里
農安に至る百二十支里	

第三章 吉林省

第一節 吉長道

一、吉林縣

(イ)、吉林

一、沿革及位置

此地は省、縣及び督軍所在地にして全省の軍事、行政、外交の中心として樞要の地點たり其建設歴史は遠く明代に起り別名を船廠とも稱す此名は往年露國の侵略當時之れに對抗する爲め防備軍が松花江を根據地として永く駐屯し順治十八年(紀元二千三百二十一年)豊富なる良材を利用して大なる造船場を建造し吉黒兩省に要する多數の官船を製造せるに起因す康熙十五年中吉林將軍衙門を甯古塔より船廠に移轉し同時に吉林と改稱せしものにして衙門移轉以來次第に發達し雍正四年(紀元二千三百八十六年)吉林「烏拉」に永吉州を設けたるを始めとし之を奉天府尹に隸屬せしめたるが乾隆十二年(紀元二千四百七年)州を廢し理事同知を置き光緒七年(明治十四年)吉林直隸廳に昇し同八年吉林府に民國二年吉林縣に改められ同十一年吉長道尹を長春より此地に移さる。

當地は東南は松花江によりて濛江、樺甸、撫松、額穆、安圖の諸縣に通じ又東は遠く陸路間島、和龍方面に通じ西は松花江下流老燒鍋、伯都訥、哈爾賓並に下流黒龍江省の各郡邑に水陸の便あり。

二、戸数及人口

支那人		支那人	
戸数	一萬五千三百戸	人口	八萬五千人
日本人	三百八十戸	日本人	千八十九人
外國人	七戸	外國人	十二人

計一萬五千六百八十七戸人口八萬六千一百一人を算し市内殷賑にして人をして一見吉林省の首府たり最重鎮地たるを思はしむ。

三、市街の状況

吉林は滿洲語の所謂「チーリン・ウラー」即ち江流に沿へる地を意味す吉林は其略語にして其名の如く松花江の左岸に沿ふて市街を形成し東西に長く南北に短く西北西は山岳を背とし南方江に臨み滿洲には得難き風光を備ふ在留邦人は母國京都の景に比す茫莫無趣味なる曠野に倦みて吉林の景色に接する時此感を生ずるもの素より無理からざるなり市街を一瞥して奇觀を呈するものは流石木材の産地丈けに其贅澤なる使用振にして滿洲中央平原以西に於ては殆ど見ること能はざるものあり市街の周圍は繞らずに不正橢圓形の煉瓦壁を以てし其延長約十支里に達す城壁の東門及西門外は共に約四支里餘北門外も亦一支里の幅員を以て城に連續す。

四、官公衙其他の諸機關

省長公署、吉長道尹公署、鎮守使署、吉林縣公署、高等審判廳地方審判廳、高等檢察廳地方檢察廳、吉長鐵路局、財政廳、政務廳、吉林警察廳、吉林旗務署、吉林省混成旅、水上警察處、吉林交涉署、商務總會、吉林模範監獄署、吉林全省警務處、吉林統稅徵收局三、吉林造幣廠、吉林農事試驗所、教育會、陸軍醫院、清卿局、電報局、工務會實業廳、權運局、陸軍營三、電話局一、銀行四、憲兵營一、郵便局四、菸酒公賣局、自衛團、招墾局、清理田賦局、測量局、礦務局、省議會、軍機廠、陸軍學校一、男子中學校二、女子中學校一、師範學校一、附屬小學校四、農業學校一、商業學校一、工業學校一、女子師範學校一、附屬小學校五、高等小學校六、初等小學校一五、勸學所一、女子小學校五、職業學校一、消防隊一、電燈局一、講演所一、圖書館二、青年會一、

右の外日本側

領事館一、警察署一、銀行四、尋常高等小學校一、居留民會一、本願寺一、俱樂部一、病院三、

五、一般産物及特産物

(イ)、穀類、當地方は附近一帶山岳地方なるを以て農耕地少く従て穀物の産額少く當市出廻品は年額大約二十萬石内外にして大豆は長春に仕向けられ其他は主として當地に於て消費せらる、由來此地は穀類の集散地にあらずして次に述ぶる葉煙草、藍靛、麻、藥材等各種山貨の産を以て名あるの地なり。
(ロ)、木材は吉林省の産物中其首位を占むるものにして其採伐地帯面積約二百邦方に達す吉林市場に

表はるる木材は悉く松花江の上流頭道溝、二道溝附近のものにして冬季採伐に従事し解氷期を待ちて流筏す其種類は松木と樅木の二に大別せらる松材は赤松、落葉松、杉松等にして其總産額の七割を占め樅木は柞木、櫻木、人參樹、紅葉材、山梨樹、胡桃樹、黃破木等とす。

(ハ)、葉煙草も亦木材に次ぎ有名なる吉林の産物にして吉林の別名に因みて廠菸或は南山菸と稱し松花江上流の溪谷中新墾の諸地方に産す其種類は片子煙、柳子煙、把子煙の三種とす其中片子煙は最も上等品にして葉形の扁平無疵のものを撰み葉柄を絲にて括り合せ軒下或は屋内に懸けて之を乾燥し、六七日の後數十枚を適當に重ね束となすを普通とす柳子煙は葉の破碎せるもの或は片子葉等を細長く巻き合せたるものを謂ひ把子煙は其質最も不良にして普通之を團塊に作りて販賣す元來吉林煙の特長は香氣に富む點にありて該煙の一般に知られたる所以は清朝時代に朝貢品の一として宮中に於て賞玩せられたるにあり隨て滿蒙人、其他宮中に關係あるものにして之を愛用せざるはなく爲めに其販路は東三省は勿論北支那一帶東部內蒙古の各地に跨り集散年額亦千五百萬斤乃至二千萬斤を普通とするに在りしも其後我東亞煙草及英美佛聯合煙公司の優等品(紙卷煙草)を提供し廉價を以て極力販路の擴張に腐心せしと一方菸酒公賣の實施に伴ふ重税に加ふるに近年打續ける不作等の原因の爲め漸次衰退の悲況に陥りたるもの如し。

(ニ)、藍は當地に於て煙草に次ぐ主要物産にして其品質も亦他地方産に比し良好なり然るに一度外國品殊に獨逸品の輸入と共に漸次壓倒せられ殆ど見る影もなき悲運に陥りしが歐洲戰の勃發と共に該品の輸入杜絶せしを以て各地方共再び栽培に努力するに至れり然れども平和來の今日となりては又々叙上の運命を見るに至るべし其産地は省の西南隅、伊通、磐石、樺甸各縣の管内を主とし特に煙筒山地方を最となす。

(ホ)、麻も亦當地方特産物の一にして吉林麻の名聲高し其産地は溪谷の開墾地にして輝發、恒道河子、黑石鎮等の南山一帶の地方と五常縣管内より冬季陸路を橇又は車輛にて移入せらる其年額約百八十萬貫に達すと云ふ種類は紅缸、架頭麻、繩麻、青麻の四を主とす。

(ヘ)、菌(木の子)は蘑菇及木耳の二種にして濛江、撫松、安圖各縣の山中より産出す蘑菇の種類中最も多きは元蘑、珍蘑とす何れも採取後乾燥して結氷後搬出するを常とす。

(ト)、蜂蜜出廻り多き年は四萬斤以上に達す産地は延吉縣首位を占む因に菸、麻、菌、蜂蜜等の山貨を取扱ふ問屋を山貨店と稱す。

(チ)、藥材の種類は甚だ多きも其主なるものは黃芪、山參、黨參、鹿角等にして外に長白山地方より出づるもの二十餘種に達すと云ふ。

(リ)、獸皮、鐵道開通前は單に三姓地方よりのみにても一ヶ年約五萬枚の來集ありしが鐵道開通後の今日となりては當地は獸皮市場として重きをなさざるに至れりされど長白山地方より出づる虎、豹、水

獺、狐、狼、貂皮等は今も尙ほ少しとせざるなり。
 (又)木炭、薪も亦當地に集まるもの少しとせず即ち其年額木炭約五千萬斤薪約六億斤に達すと稱せらる。

其他水産物たる眞珠貝は長白山中を流るる小河に産し吉林は其集散地なれども微少にして論するに足らず然れとも松花江より産する鯉、鱧等の類は案外多く年額五萬貫を下らざるなり。

六、商工業

輸入貨物、

當地の輸入貨物は營口、大連、長春等よりするものは鐵道開通後殆ど之れにより長春經由當地に輸入し更に附近各地方に供給せらる其額少しとせず。

當地雜貨商の重なるものは約三十餘戸にして何れも輸入貨を主とし自國産は一小部分に過ぎざるなり當地商務會の調査に係る布疋類の最近數年に亘る平均輸入數量を示せば次の如し、

種	類數	量種	類數	量
大尺	布	二〇〇、〇〇〇疋	襪	四、〇〇〇疋
套	布	二〇〇、〇〇〇"	市	五、〇〇〇"

清	水	布	五〇、〇〇〇疋	坎	布	二〇、〇〇〇疋	
魚	白	布	六、〇〇〇"	花	洋	布	五〇〇"
花	旗	布	五〇、〇〇〇"	愛	國	布	三、〇〇〇"
漂	白	市	布	一〇、〇〇〇"	毛	布	一、〇〇〇枚
棉	花	布	二〇〇、〇〇〇斤	綿	絲	五、〇〇〇斤	

砂糖の輸入は年額五十萬斤にして殆ど紅糖、冰糖、白糖の三種に限らる多くは香港、上海より營口を経て輸入せらるるものにして露國製糖も時々少量の輸入を見る獨り日本製糖にありては甚だ僅少にして論するに足らざるは遺憾なり少くも南滿製糖會社の如き大に奮發を要すべし、

當地の一箇年間に於ては小麦粉の消費額は約二十五萬袋にして其一半は當地製粉を以て自給し他の一半は殆ど長春及北滿粉なり然れども時に上海粉及米國粉の襲來することあり。

石炭の輸入は年額六千噸の少數に過ぎず蓋し當地は常に薪材の豊富なるものあるのみならず缸窑、杉松崗其他省内よりの出炭少からざるに基因す。

石油は美孚、亞細亞の二公司獨占の状態にして一ヶ年三萬箱内外の入市あり。

葉茶は上海より營口を経て移入し一箇年五十噸に達す面積及土城(共に曹達)は一箇年の輸入三百噸に

達し土城は染坊及豆腐屋に、面城は饅頭の醱酵及洗衣用に供せらる外國品の廉なる場合は營口を經由し輸入することあるも近來は殆ど蒙古産品獨占の形勢たり。

雜貨類は從來日本品最も多かりしが所謂粗製濫造に加ふるに高價たるに至りし結果今や上等品は歐米品、其他は上海方面のもの之に代り日本品の日に凋落しあるは悲むべし紙卷煙草は英米佛聯合煙公司の製品獨占の觀あり我東亞煙公司も代理店を置き販路の擴張に腐心しあるも其發展や甚だ遅々たるものあるなり。

燐寸は從來我が製品の輸入ありしも近來は反て當地の生産品(黃燐燐寸)を他に移出する有様にて殆ど輸入品を見ず。

商業機關、

當地には吉林商務總會ありて省城商家の團結を計り商業の進歩發達を期すると共に全省各縣に存する分會と聯絡を保持す現會員は約四百名にして役員は總理、經理の下に座辦二名會董數名あり吉林の商店を次の七行に分ち各行毎に研究を重ねるものらしく當會の門前に至れば光輝燦たる金看板の並下ざるを見る。

粮行研究所	當行研究所	錢行研究所	店行研究所
藥行研究所	山貨行研究所	雜貨行研究所	

當地の市場は糧市、牛馬市、草市の三に分たる糧市は德勝門外の市廠に開き附近農民の運び來りし穀類を取引す牛馬市は城内牛馬行街上に開き牽き來る牛、馬、騾、驢の取引を爲す冬季は通常日に二、三百頭夏季は同五、六十頭の上市を見る草市は馬糧市場にして松花江岸白衛衛の道路上に於て取引を行ふ工業、

當地の工業は油坊三十八戸(洋式のもの二、土式のもの三六)磨坊十九戸、粉坊十二戸、機業五十五戸、窯業十五戸、燒鍋一戸、製麻七十戸、皮革業五十戸、鐵工百六十四戸、其他製材業、製紙業、製燐寸業なり其重なるもの左の如し。

(イ)、電燈、吉林電燈公司是官民合辦の株式組織にして現在五千燈内外の點燈數なり。
(ロ)、製材、木材の本場丈けに製材業者甚だ多し其大部は木材商の兼業にして木挽職を使用し製材するものとす其資本金二萬吊以上のもの二十、二萬吊以下のもの十餘戸あり其内松江林業公司(松江林業株式會社)は大なるもの一にして資本金一萬元三十馬力の汽罐を有し樑其他大材木を製し又一般角材、棺材及各種板をも製し居れり。

(ハ)、燐寸、製造所は吉林火柴公司、吉林吉福火柴公司の二にして前者は吉林唯一の邦人の經營に係る工業會社にして資本金十八萬元四分の拂込みなり七十馬力の汽罐を据へ支那職工百五十八餘を使用し一箇年間に黃燐燐寸約五萬二千箱を製出しつつありしが露國向安全燐寸の製造にも着手し居れり而し

て蒸汽の餘力は製材に用ひ長春分工場所要の箱及軸木を供給するの外一般の製材に應ずと云ふ後者は支那人の經營するものにして資本金約十萬元一箇年製造能力は三萬箱と稱せらる。

(ニ)、製粉、吉林恒茂火磨公司、本公司は元海林製粉の分工場として設置せしものなるも經營困難の爲め其後分離し五名の合資に變更せり機械は獨逸製新式のものにして停車場近くに嚴然たる工場を有し百馬力の汽罐を以てす原料を榆樹及雙城堡、伯都訥方面に仰ぎ一日の製造能力は三十餘石の原料を消費し約二百袋(一袋四十斤)を製粉すと云ふ外に西門外に小規模の製粉會社あり一日二十石の小麥を消費すと聞く。

前項以外の製粉は穀物商、油房等の土式(馬、騾、驢の力を以てするもの)により營むものにして素より特記の價值なし。

(ホ)、搾油業、當市には一箇年を通じて搾油する油坊五戸必要に應じて作業するもの十戸あり何れも小規模の土式に依る、營業にして豆油、豆粕共悉く當地に於て消費せられ輸出するに至らず彼等の消費する原料と製品との割合を聞けば原料大豆二石四斗より油九十八斤一枚二十五斤の豆粕六十枚を得ると云ふ。

(ヘ)、釀造業、當地附近は高粱の産額少きを以て市内に造酒の本業者なし。

(ト)、製紙業、當地は障子紙の産地にして古麻繩を原料とするものなるも其産額は不明なり。

(チ)、硝子業、玻璃公司に於てランプ、ホヤ、カンテラ、電燈笠、小瓶、石輸入等各種硝子器を製造するも規模小く記するに足らざるなり。

(リ)、省立工廠、城内にあり機械、染色、製靴、木工、葉卷煙草等を試製し一時各種の工業を研究せしも其後中絶し更に最近再興せりと聞くも想ふに記するに足らざらん。

(ヌ)、旗務所工廠、迎恩門外約一支里の江岸にあり併して省立工廠と同様の運命にありと聞く其他磚窑染房等小工業あるも特記の價值なきを以て省略す。

近時工務總會なるものを設立し各縣に工務分會を置き工業従事者間の連絡を保持し目的は工業の研究に進歩を計るにありて當地の會員も已に四百餘名に達すと稱せらるるも未だ商務會の如き活動なく又發達を見ざるなり。

七、雜件

通貨及度量衡

(イ)、通貨、當地に流通せる本位貨と見るべきものは官銀號より發行せる古き歴史を有する所謂吉林官帖にして制錢を基礎となすと雖も之に對する正貨の準備なき爲め紙幣の形を備へたる一種の紙片とも見らるべし其額面は一吊、二吊、三吊、五吊、十吊、五十吊、百吊の七種にして一千文を一吊とす官帖は斯くの如く兌換準備なき不換紙幣にして吾人の眼より見るときは價值なき紙片に過ぎざれども

省内特に田舎に於ける信用は實に堅固にして總て之を基礎として取引せらる併し近時漸く其信用低下し銀貨に若かざること遠く從て價格亦空然の暴落を見るに至りたり。

留(露國貨幣)は羌帖と稱し當地に流通するもの大正二年の頃迄は二、三十萬留内外なりしも同國の瓦解と共に漸次其價值を失ひ今や全く反古同然となり市場にも其影なきに至りたり。

小銀貨即ち小洋錢は甚だ少く中國、交通、殖邊銀行等の紙幣も流通しあるも其數多からざるなり。

邦貨は僅に邦人間に流通するのみなりしも西北利出兵後は大に信用を博し現今に於ては多少の歩引を忍ぶに於ては流通必ずしも不可能ならざるなり。

制錢は名のみ残り近來市場に之を見ること甚だ稀なり。

黑龍官帖も一部通用するも其額甚だ少し。

(ロ)、度量衡、當地の一尺は我一尺一寸五分同一斗は我一斗二升八合同一斤は我百五十三々に相當す。

(ロ)、九站

此地は松花江の右岸に位置し吉林を距る西北二十五支里鐵路八哩三吉林材の發送驛として著名なり。九站街は驛より二町を距て鐵道線に沿ひ東西に長き小街にして戸數約三百、人口一千八百内外に過ぎざるも製材所の存する關係上比較的熱鬧なり毎年五月以降の着筏期に達すれば木挽職等の入込む者數百人の多きに達し活氣を呈す。

巡警局及稅局あり主なる商店は木材商九、雜貨二、質屋一、飲食店其他の小商店二十八戸あれども木材商を除くときは微少云ふに足らず。木材の陸揚げは吉林に比し利便多く殊に洪水に際して流失の憂少きが故に其發送數は吉林よりも多く一箇年五百五十車以上其外雜木等百車を越ゆ之れに反し穀物の集散甚だ少く言ふに足らず。當地に在住邦人あり併し僅に一戸なり。

(ハ)、烏拉街

一、沿革及位置

烏拉街は吉林縣下の一邑にして松花江岸を距る八支里の地にして舊名を打牲烏拉と云ふ而して住民の約八割は旗人なりと云はる隨て當地の開拓は割合古し吉林北滿街道及吉林伯都訥街道の要街に當る關係上往時は繁榮を極めたりしも吉長鐵道開通後は繁榮を其沿線に奪はれ多少衰退の氣味なしとせざるも一見せしのみにては其微なし。

二、戸數及人口

戸數四百三十、人口二千四百を算す

三、市街の狀況

城内は繞すに土壁を以てし東西南北の四門あり周圍約我二十町餘城内戸數少く何れも旗人のみにして

商家なく所々に空地を散見す商家の櫛比せるは西門外より出で南北に交叉する大道にして延長十町の余に達し繁榮を極む南北大道の北端賤廟より北すれば舊城跡あり現今は崩壊して其影を止めざるも東方に娘々廟ありて壯麗なり。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、徵收分局、商務分會、郵便局、小學校等あり。

五、一般産物及特産物

來集物資は大豆、粟、高粱等の農作物にして其過剰品は陸路吉林又は南方五十支里なる吉林線の櫛皮廠驛に送られ同地より鐵路長春に輸送せらる。

六、商工業

當地は附近地方の物資の集散地として有名なり商家又大小合して七十余戸に達す然れども資本の大きなものなく何れも小規模なり其内主なるもの左の如し。

雜貨油坊八、當舖五、糧棧一、

當地には未だ燒鍋なく所要燒耐は白旗屯、溪浪河等より移入す又油坊にて製造する豆餅及豆油は當地の需要を充し尙ほ餘剩あるを以て吉林方面に輸送せらる。

當地と吉林間に四季を通じ馬車の往復あるを以て移入雜貨類は殆ど同地より仕入れらるるも資力の大

なるものありては長春より移入す。

今當地と關係地方に至る距離を示せば左の如し。

九站	四十支里	溪浪河	五十支里	白旗屯	六十支里
吉林	七十支里	樺皮廠	五十支里		

(ニ)、樺皮廠

當驛は吉林を距る二十一哩五九、頭道溝を距る五十七哩五五、樺皮廠街の北五支里にあり驛附近は一帯に窪地にして水害を蒙る爲め發展せず現今僅に糧棧三、小飲食店一あるのみ然れども發送さるる農産品は一年三百乃至四百車(一車三十噸)に達すと云はる。

樺皮廠街は戸數五百五十、人口三千五百餘市街は東西約六町南北一町の一條街にして統稅局、巡警局吉鹽權運局分銷處、郵便局、小學校等あり。

當地に來集する穀物の出廻期は十二月より翌二月頃に亘る間にして舊年未を盛期とす。

商店の主なるものは雜貨兼油坊三、大雜貨舖二にして外に小商店、旅店等約三十を算し邦人の居住者も二戸ありて賣藥兼質屋を營み居れり當地附近は小森林多く殊に木炭の産地として知らる。

(ホ)、大水河

大水河は吉林伊通街道及吉林長春街道の交叉點に位置す戸數約六百、人口三千二百を有し巡警局、稅

局、郵便局及小學校あり。

商家の主なるものは質屋兼搾油業一戸、雜貨舖五戸、鍛冶屋二戸、指物舖二戸、旅店三戸にして外に小なるものあるも記するに足らず、吉長線の開通以前は貨客の來往頻繁を極め市況活氣を呈せしも今や僅に附近の農民との間に少量の取引あるも少數の往來者に依り辛くも往時の面影を存するのみ勿論將來發展の見込なし。

各地に至る距離を示せば左の如し。

双陽河 一二〇支里 烟筒山 二〇〇支里

樺皮廠 三〇支里 馬鞍山 八〇支里

恒道河子 一七〇支里

(ハ) 一拉溪

一拉溪は吉林より伊通に達する街道上にあり巡警局、巡防隊、税局、郵便局、小學校等ありて街形を成し一小市街たり。

當地商店の主なるもの左の如し。

質屋一、 搾油業三、 雜貨舖六、 旅店二、

指物商二、 銀細工舖二、 鍛冶屋三、 藥種商三、

當地の南方二支里なる碾子溝(人口六十)には石材を産す。但し半は農業に従事し所要に應じ伐り出すものとす。尙ほ南方四支里より遠きは三十支里に至る間は木炭の産地にして平時は農業に従ひ餘暇毎に燒炭に従事す。

南方一帶の山間には葉烟草の産地多く其産額少からずと稱せらる。又此地には定期市あり一、四、七の日を其開市日とす。

當地より各地への距離左の如し

長春 百六十支里 段家屯 三十支里 双河鎮 百十支里

(ト) 双岔河

双岔河は吉林より額木索に通ずる街道上吉林の東方七十支里にあり。戸數約六十、人口四百を算する部落なるも街形を成す。當地は木材の集散地にして冬季最も繁盛を極め、一日の出材高車輛四、五百輛に達す、其爲め街路上馬車、輻等絡繹として絶へず。其材木の種類は、枕木、杭木、及燐寸の軸木を主とす。

邦人の材木商にして、出張所を置くもの二十余軒あり。然れども、解氷期に至れば邦人始め流筏に従事の關係上大蛟河に居を移すを以て夏季は寂莫たり。

産物は前記の如く木材に限られ、更に穀物の移出なし。又巡警局及税局の外官衙を以て目すべきもの

なし。

(チ) 額赫木站

双岔河東北約十支里にあり。此地亦枕木等の木材及薪炭の産出地として名あり、枕木の産地は北僅に七、八支里頭道溝附近なり。外に花崗石をも産す。家屋建築材として現今其切出し漸く盛なり。然れども戸数は四十、人口三百内外にして、小雜貨商一戸其他小客店二、三あるに過ぎず。警備は紅蜜峰保衛第十團第二交番所分駐の任する所とす。

(リ) 岔路河

岔路河は吉林、伊通街道上にあり。戸數約七百五十、人口二千五百余を算する縣内重要市鎮の一なり。

巡防隊、巡警分局、税局、禁烟局、初等小學校等あり。

商戸約七十余戸其營業別左の如し

當 舖二、

指物業五、

藥種業五、

製粉業一〇、

搾油業五、

小商戸一五、

烏拉舖(革靴)四、

旅 店七、

鍛冶屋八、

雜貨商八、

當地より長春に通ずる良路ありて冬季は交通頻繁なり。

商取引は長春を主とし、吉林之に亞ぐ、何れも密接なる關係あり。

當地の定期市は、二、五、八の日に開かる、當日集るものは蜀黍、大豆、小麥等の農産を主とす。

附近に於ける農産物は、蜀黍、大豆、粟、稗、陸稻米、藍靛、芝麻(ごま)、荏(ひごま)等にして外に葉烟草、木材、木炭等を産す。

製粉所十戸あり、其一年の原料消費額小麥七千石にして、産額約二十萬斤に達するも殆ど當地に於て消費せられ移出力なし。

燒鍋二戸ありて一箇年二十餘萬斤の燒酒を醸造す。而して其一部は當地に於て消費さるるも大部は吉林に移出す。搾油業は五戸にして一年の消費料は、大豆二千五百石内外なりと。斯くて豆粕は殆ど當地に於て消費せられ、豆油は吉林、長春方面へ移出せらる。

(ヌ) 缸窑

當地は吉林の北方九十支里に位する一邑にして、交通不便の地なるも水瓶類と石炭の産地を以て知らるるの地なり。戸數三百、人口約二千を有し巡警局、郵便局、税局、小學校等あり、然れども商家は大小合して十九戸に過ぎずして當舗兼雜貨商たる公和成を除くときは何れも其規模小にして特記するに足るもの少し。

當地に於ける水甕、素燒類は其名全滿に轟き、缸窑の名稱之より出づ、南滿に於ける本溪湖と相映て

滿洲に於ける同品の二大産地たり。其製品は昌圖以北、北滿一帯及内蒙地方に移出せらる。現時其製造業者は四十三戸にして不出來の水甕類を以て墻壁築造の資料に供し居れる一事に徴するも人をして其産額の巨大なるを思はしむ。

水甕型の製造は何れも夏季に於て行はれ焼缸は一箇年を通じて行はる、各戸竈一箇を有し一回の製造高は三百套(大中小の一組を一套とす)内外にして其焼上に要する日数は概ね二十日とす。各缸竈は一箇年七回焼くものは稀にして、六回のもの多數を占む。而して一箇年の總製造高は六萬套内外なり。移出は冬季結氷後行はるるものにして、伯都訥、吉林等より買付けの爲め出張員を特派す、之を老客兒と云ふ、別に宿を取ることなく缸竈内に止宿し居れり。又缸竈より別に店員を重要地に派遣し進んで賣捌くもの少からざるなり。

炭坑は當地を中心とし廣大の地域に亘るものにして、其存在の範圍は吉林、舒蘭の二縣下に跨り大正四年日支協約に依り、我國との間に特種の罐利關係を生せしに依り俄に有名となりたるも炭質悪く探掘も幼稚なる土法を以てせらるる等名實相伴はざる所大なり。年産額は判明せざるも年額二萬噸内外と稱せらる。吉林、九站、烏拉街地方に少量の移出ある外當地の缸竈用及附近の燒鍋用として消費せらる。吾人の素人目を以て是非を斷する能はざるも將來果して有望なるや否や疑問なるべし。

農産物は山間の低地に似ず割合に來集多く一箇年の總額一萬五千石に達すと稱せらる。蜂蜜、牛骨、

薪炭、毛皮類も亦當地の産物と稱して可ならん。

(ル)、双河鎮

双河鎮は吉林の南方約百二十支里強伊通の東北約二百十支里烟筒山の東北方四十支里にありて、戸數百四十餘、人口約千六百を有し巡防隊、巡警局、自治研究所、小學校及郵便局あり。商戸の主なるもの左の如し。

雜貨屋七、
藥種商五、
榨油業二、
染物屋二、
指物屋二、
製紙業一、
鍛冶屋三、

市内繁昌なりと云ふ能はざるも附近に散在する部落との間に取引行はれ物資の小集散地たり。然れども農産物の大部は當地に集中せずして概ね農民の手より直に長春に輸出せらるるより一の專業雜穀店なし僅に一、二の雜貨舖に依り當地に需要する蜀黍、粟の類を販賣するに過ぎず。要するに半農半商の部落なり。

(ヲ)、下九臺

下九臺は吉長線の主要驛にして頭道溝を距る三十二哩吉林へ四十七哩一四鎮に位置す。同名部落は驛の南七支里にあり、民國元年九月鐵道の開通後附近各地より穀類の來集多額に上り爲めに年々殷盛を加へ同三年には、粮棧十七戸、雜貨舖十四戸、皮舖一戸、藥舖二戸、其他小商店二十六

戸の開業を見るに至り、驛附近に小市街を形成し下九台街と呼ぶに至りたり。現今戸數百三十、人口五百五十に過ぎざるも農産物出廻り期節には人馬の來往頻繁にして熱鬧を極む。主なる建築物は吉長鐵道下九臺工程處、樺皮廠統稅分局、同巡警局及德惠縣巡警局、小學校等とす又郵便局あり將來更に發展すべし。

當地は恰も柳條邊墻即ち郭爾羅斯前旗の開放地たる德惠縣と吉林縣との境界に位し、線路を狹みて兩側に街衢をなし線北は德惠に線南は吉林に屬す。

穀物の發送高は年により一定せざるも、年額二萬噸乃至二萬五千噸と見て可ならん。當地にも邦人の居住者ありて特産物及賣藥業に従事す。

(ワ)、旗塔木

旗塔木は吉林の西北方百四十支里の地點にあり。戸數約百餘、人口五百を算するに過ぎざる小部落なれども燒鍋一、當舖一、雜貨舖五、穀物店二ありて街形を成す。

附近村落より産出する物資は、大豆、蜀黍等にして一旦當地集りたる後吉林及長春方面に移出するを常とす。

此地より長春に至るの距離は二百三十八支里なり。

近時稍々大部落には大抵郵便局(多くは代辦處)及小學校あり此地にも此二機關と稅局あり。

二、長春縣

(イ)、長春

一、沿革及位置

長春は原と寬城子と稱す、嘉慶五年長春堡(現在の長春の地點を隔つる若干里)なる所に理事通判を置き長春廳と名け道光五年に至り長春を移して寬城子(現在長春の地點)に設け後格を上げて府となしたるもの即ち現在の長春縣なり。當市は南滿、東支、吉長三線の接續點にして日、露、支、三國鐵道及該三國勢力接衝の要點に立ち吉林省の西南に位す、伊通河は近く城の東側を北に流れて第二松花江に注ぎ西方及西北方は懷德、農安の各地を通じて蒙古一帶の曠原に連絡あり、運輸交通の都市構成の重大なる要素なるは多辨を要せざるが故に四通八達の地の利を占むる當市の如きは實に滿洲中央の樞要たるを失はず、其創設後日淺く歴史の極めて短きに拘らず、其發達急速にして同治(明治初年)年間尙ほ微々たりし一村落の今日の大都市となりたる蓋し偶然にあらざるなり。

二、戸數及人口

戸數一萬一千、人口六萬八千を算す

三、市街の狀況

街衢整然人馬の往來眞に織るが如し、城は半土壁にして各城門の周圍のみ煉瓦を用ひて墻を造り其延

大豆	10噸	1噸	1,037,000噸	1,037,010噸	171,000噸	269,000噸	10噸	440,010噸
米	130	2,600	530	3,260,000	180	—	6,730	6,910
高粱	—	40	136,800	136,840	26,100	8,300	—	36,490
包米	—	—	17,600	17,600	1,700	400	50	2,150
小豆	—	—	5,850	5,850	800	550	20	1,370
粟	—	—	66,600	66,600	1,600	19,500	20	21,210
大小麥	—	—	54,800	54,800	5,200	341,000	220	346,310
雜穀	—	150	42,500	42,650	5,500	131,100	650	29,250
果實	730	11,000	—	17,730	—	—	12,730	22,730
煙草	50	10	13,800	13,140	50	30	5,360	5,440
木材	50	100	83,200	83,450	37,200	4,000	2,250	43,450
石炭及 コークス	400	1,000	—	2,400	—	—	48,400	48,400
海產物	230	3,000	420	3,640	—	220	96,310	96,440
生獸	—	—	3,510	3,510	—	10	5,600	5,610

獸骨	—噸	220噸	1,480噸	1,600噸	—噸	180噸	220噸	300噸
獸毛	—	150	700	850	—	100	150	250
皮革	20	80	820	920	—	220	1,900	1,920
豆粕	—	2,500	103,560	106,060	60	86,500	2,500	89,060
豆油	70	500	4,100	4,670	—	3,600	820	4,420
麥粉	—	110,000	113,800	113,800	30	77,500	110,100	97,900
砂糖	400	3,500	1,420	5,320	—	220	9,900	10,020
布帛類	220	10,000	5,140	15,250	100	40	56,610	56,750
雜品	2,000	36,000	17,300	55,200	22,100	7,700	100,000	109,800

今此發着品に就き多少の説明を加へん。

移出品、

大豆、長春に於ける移出品の大宗にして毎年城内及新市街に住する特産商の手を経て南下するもの及直接停車場に搬出せらるる物を合算するときは作柄の思はしからざる年に於ても百萬石を下らず、沿線各地に其比を見す。

小麥、主として東支線により南下し來り更に南送せらるるものにして、農産物中大豆に亞ぐの地位にあり。

高粱、吉林省の住民は古來常食として粟を好み高粱を喜ばざる慣習あり。從て當地に集中する本品の大部分は南滿各地及直隸、山東地方に移出せられ、土地に於て消費さるるもの少し。

移入品、

綿布及綿絲、云ふ迄もなく長春に於ける輸入品の大宗にして綿布は大尺布、套白布の土布最も多く之に亞ぐは花旗布、打連布等なり。

砂糖、移入砂糖中白砂糖は從來洋商太古洋行の獨占なりしが、近來邦商の其領域に侵入し侮り難きものあるに至りたり。黑砂糖は、瓜哇産にして福建、廣東等より移入せられ、主として支那商により取扱はる。

棉花には上海方面より來る、南江棉花と、錦州地方より來るものとあり、其移入額二百萬斤に達す。石油、電燈の架設と共に石油の需用は市内に於ては減少の一方なるも、同時に農村の發達に伴ひ其需用は年を追ふて増加し、爲めに主要移入品の一なるを失はず。滿洲石油界は米の「スタンダード」及英の亞細亞兩會社の商戰熾んにして二者共に沿線各地に「タンク」を設置し其販賣に腐心す。然るに近來我石油も漸く擡頭し、競争渦中に投ずるに至りしは喜ぶべし。

其他鹽、藥品、染料の移入額も可なり多量に上り、又邦人居住者の増加に伴ひ、食料品雜貨類の移入も逐年増しつゝあるなり。

要するに移入品は綿糸年額一百萬圓内外、綿布約四百萬圓、麥粉、砂糖、紙類、建築材料、陶器、綿製品、及諸雜貨は年額約二百萬圓、又移出品としては無論大豆を第一とし、其他豆粕、小麥、高粱、木材、及雜貨等にして大豆は年額二百萬圓内外、豆粕雜穀各百萬圓内外と見て大過なし。

(ロ)、工業

邦人經營の工業は開始後日の淺きに拘らず、比較的成績良好にして將來尙ほ諸種の製造工業は經營良しきを得ば確かに有望と認めらる。

日清燐寸會社、其生産高は一箇月約四千五百箱（一箱二百打入）にして前途發展の途上にあり。

吉林燐寸分工場、一箇月生産高千五百箱（一箱二百打入）にして前同斷。

製粉工場、鐵嶺に於ける滿洲製粉株式會社の分工場にして其機械の能力は八百「バーレル」なれば一日に三千二百袋を製産し得べし。然れども目下は原料高と米國粉の襲來との爲め苦境にあり。外に一、二企業半ばのものあり、是又同一の境涯にあるなり。

外に煉瓦工場、製材所、鐵工場、醬油製造所等大規模ならざれども其數多し。

支那側の工業としては、裕昌源製粉（二百バーレル）の能力を有する機械を据へあり（玻璃工廠、油坊、

磨坊、燒鍋等多數なるも特記すべき價值あるもの少し、只新市街のみに於ても一ヶ年約二百萬枚の豆粕を製出するものあるは注目し價すべし。

七、雜件

交通(東支鐵道)、

東支鐵道布設條約は、光緒二十二年(明治二十九年)九月清國政府と露清銀行との間に締結せられ同二十三年起工し同二十九年竣工せるものにして我滿洲線も亦其一部たりしなり。(滿鐵線は四呎八吋半の標準軌道にして東支線は五呎の廣軌道なり)此鐵道は我長春驛に接續して哈爾濱に至り、西は莫斯科及「ペトログラード」に達し更に歐洲各地に聯絡し東は浦鹽斯德に至る。

長春驛中「ホーム」には東支鐵道の連絡停車場あり、旅客の乗換及之に伴ふ手荷物の積替は南行、北行に論なく東支鐵道の旅客列車當驛に來りて之を行ひ、貨物は滿鐵線より東支線行きものは滿鐵線の車輛に依り之を寬城子に送り東支線貨車に積換へ、東支線より滿鐵線に來るものは東支線貨車に積載の儘當驛に來り滿鐵線車輛に積替を行ふ、從て滿鐵の客車は露國側の寬城子驛に至ることなし。又兩鐵道は是等連絡事務執行の爲め相互に驛員を他驛に派遣し、貨客の便宜を圖る。聯絡停車場には待合室あり、東支鐵道各重要驛に至る乗車券を發賣す。

長春、哈爾濱間の距離は百四十八哩にして、普通列車約八時間餘にして達す。旅行券は東「ボグラニ」チナヤ」西滿洲里間は之を要せざるも足一步露領に入れば、一日も之を離すべからざるなり。税關は長春、哈爾濱に於ては受檢を要せざれども「ボグラニ」チナヤ」或は滿洲里に於て檢査を受くるを要す。而して東支鐵道と滿鐵とは標準時を異にし、滿鐵線の正午十二時は東支鐵道の午後〇時二十三分なり。

吉長鐵道、

吉長鐵道は明治四十一年十一月締結の日清鐵路協約に依り清國政府は我國より施工工費の半額即ち金二百十五萬圓を借款し、四十三年五月工事に着手し二個年半の日子を費して漸く竣工し大正元年十月客貨車の全通を見たるものにして、吉林、長春間約七十九哩の延長なり、其後大正六年十月十五日第二回の借款契約成り第一回の借款額二百十五萬圓を合せて六百五十萬圓を滿鐵より貸與することとし、借款期間三十箇年の間は滿鐵に於て支那政府に代りて之が經營の任に當り、滿鐵は工務、運輸、會計の三主任を任命し、支那政府は局長一名を任命して鐵道全般に對し監督を行ふこととせり。吉長鐵道長春驛は長春城南門を距る約一哩の地點にあり、旅客列車は一日に二回當驛に發着し旅客貨物共に當驛に於て接續す。吉長鐵道は當驛に驛長以下驛員數名を常任せしめ列車の運轉事務及乗車券の發賣に任ず。

(ロ)、寬城子

一、沿革及位置

寛城子是一名を二道溝又た長春堡とも稱し、蒙古郭爾羅斯前旗の所領なるが、清朝に至り蒙古王と永代借地養民の契約を結び土地を開放し、嘉慶五年(紀元二千四百六十年)通判廳を設け理事通判を置き刑名錢穀の事を管理せしめ、道光五年現在の長春縣城に移したるものなり。

當地は哈爾濱を距る二百二十露里(一露里は我約九町四十五間)我長春驛を距る約一哩の地點にあり同驛は我長春驛に隣れる東支鐵道南部線の最南端驛乃ち北滿に向ふの關門にして重要な地位を占むと雖も其設備に至りては頗る不完全にして一、二、三等待合室及食堂の設けあるも露國政變勃發以來放任せられ、目下は殆ど苦力の集合所たる觀を呈して不潔を極め其他倉庫二棟(各棟六百貨車を收容し得)及小規模の貨物取扱所、公衆郵便電信取扱の設けある外何等の設備なし。冬季穀類の出廻盛なる時期にありては貨物の大部分は驛の周圍に露天積とせられ無數の小山を形成す。

同驛は前述の如く南部線の最南端驛にて、南滿及吉長鐵道との聯絡驛に當り、重要な地位を占むるを以て東支鐵道會社に於ては特に此點に留意し、從來四級格なりしものを先年改めて二級格に昇格せしめ尙ほ密門驛に於ける中央機關庫をも同驛に移すべき計畫なりしが疾く既に同地に移轉し來り事務を開始し居れり。然れども最近同驛の繁榮は殆ど我長春に奪はれ事實は僅に連絡事務取扱驛として餘脈を存するに過ぎざるなり。

人口は露國人約千名、支那人約千二百名にして大部分は鐵道従事員及其家族なり商業(食料品其

販賣業を主とし飲食店、宿屋、洗濯屋等)に従事するもの支那人約四十戸、露國人約二十戸あり邦人は戸數三十戸人口六七十名にして雜貨及料理店業を營む、併し最近其過半は長春に移轉せし筈なり。

工業としては見るべきものなく僅に露國人の經營に係る製粉所及露國人經營の煙草製造所及腸詰製造所あるのみ、製粉所は洋式機械を備へ露國革命前迄は一日平均二、三十噸の麥粉を製造したりしも昨今は萎靡不振の極にあり、其製品は同地に於て消費せられ一部長春に供せらるるに過ぎず。

今寛城子に於ける主なる官憲、軍憲等を掲記すれば次の如し。

寛城子露國警察所、支那警察所、寛城子國境旅券検査事務所(露國人の旅券検査並一般旅客の密輸入取締等に任ず、昨今同事務所は専ら支那警察巡官に於て之を行ふこととなれり)、寛城子露國鐵道守備隊(現今東支鐵道沿線一帯を通じ支那軍隊之が守備に任じつつあるを以て實際上何等の守備警戒に當らず、無爲駐屯するものにして僅に鐵道附屬地の貨物監視に任じ居れり)。

寛城子驛、驛長以下事務従事員は最近密門より移轉し來れる中央機關庫従事員を併せ露國人約三百名支那人約百五十名其他勞働に従事する支那人約四百名あり。

一時露人従業員は徒に政争に狂奔し鐵道業務を顧みず爲に輸送上困難を誘致しありしが近來頓に其風改まり熱心に其業務に従事す、從て車内の清潔及整頓の如き遙に革命前に優るの觀あり。

寛城子驛には小學校(四級迄)、鐵道俱樂部、鐵道附屬病院、(病室の設備なく僅に投藥診察に應ず)、

及コオベラチヅ(従業員に日常品を廉賣供給する所)等の設けあり。

(ハ)、卡倫街

卡倫街は吉長線に沿ひ驛の東北三支里長春の東北四十五支里にあり、戸數約二百七十、人口約千三百を有する市街にして巡警局、税局、郵便局、初等高等小學校等あり。

當地附近は土地肥沃にして穀物の收穫多く通常當地に集散する穀類は八萬石内外なりと。

又附近に硝石を含むの土地ありて之が採收に従事のもの二十餘戸(農家及小商人等其閑散時に於てす)あり一特産と云ふべし。

當地の主なる商家は雜貨商十戸、當舖一戸、油房一戸にして邦商も亦三戸あり。

(ニ)、燒鍋嶺屯

當地は沿道四、五支里に連る長春より農安に通ずる大道上長春の西北約六十五支里に存在する小丘阜燒鍋嶺の間に在り、戸數百五十餘、人口約九百を算す、世聚湧と稱する有名なる燒鍋あるを以て此名あり。

世聚湧燒鍋は方我三町の餘に亘る高さ丈餘の外壁を繞らし遠望城廓の觀あり内に倉庫數棟ありて盛に造酒業を營み外に雜貨、雜穀商を兼營し、當地附近の商業を獨占す、造酒量一箇年約三十萬斤にして長春地方に移出す。

(ホ)、双城堡

當地は長春の西方百支里の地點にあり、別名を小双城堡と稱す、今尙ほ土人中には斯く呼稱するもの多し其理由は哈爾濱の南方なる双城堡との混同を避くるにありと云はる。

戸數二百、人口約千三百を算し、税局、巡警局等あり附近農村の農作物集散地として重視せらる、商家は大小合して約四十戸あり何れも規模小にして大資本家と目すべきものなきに雜貨商、質商杯は相當見るべき店舗を構へ。而して特産物の出廻期に至れば人、馬車の往來頻繁にして熱鬧を極む。

集散物の主なるものは小麥、大豆等にして大部分は更に長春方面に移出せらる

三、伊通縣

(イ)、伊通

一、沿革及位置

縣城は昔時勾高麗の領地にして遼の時は率賓府及安定國に屬し金時代は咸平路、元朝には咸平府明朝には初め一禿河と稱せしが後ち輝發葉赫等の據る所となり清朝に至り雍正六年吉林より鑲黃正黃二旗を移し位領二名を置き後ち漢人の移住するもの漸次増加し嘉慶十九年(紀元二千四百七十四年)伊通河巡檢を設け光緒八年(明治十五年)之を廢し伊通州と爲し同二十八年本州の一部を割き別に盤山縣を獨立せしめ宣統元年(明治四十二年)伊通直隸州に昇し民國二年伊通縣と改稱せしものにして伊通河の左

岸にあり、東南約五十支里にして薩龍山、庫勒嶺を扣へ北方亦五十五支里強にして哈蘭達嶺の山脈起伏し此兩山脈の間に横はる平野の中央に位す。

二、戸數及人口

戸數二千四百餘人口約一萬五千を有す。

三、市街の狀況

一城は四圍十町餘四門あるも現今は南の一門にして他は其跡のみ市街は東西大街の一條を主とし他に七條の單街、七條の小路あり其内東西大街は巨商富豪軒を並べ市況殷賑なり。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署及其附屬官署、稅局、郵便局、電報局、官立兩等小學校、官立高等小學校、官立初等小學校、師範速成科等あり。

五、一般產物及特產物

農產物の外特記すべきものなし。

六、商工業

商業、抑も伊通は吉林より奉天に通ずる大道に沿ひ其西南方には大孤山及小孤山等の大小市鎮を控へ又東南伊通河の上流には營城子ありて磐石縣に通じ經濟上樞要の地位を占む。小孤山は地形上商的關

係獨立し、多くは公主嶺と直接取引を爲すも、大孤山、營城子は磨盤山と共に伊通の經濟的圈内にあるものの如く、又石炭の産地を以て知らるる大疙疸は伊通を距る東南八十支里の地にあり、尙ほ此外北方五十支里に大南屯東北九十支里にして雙陽等の市場あり、而して此等市場の意外にも當地今日の繁榮を援けし點少からざるが如し、將來若し伊公鐵道開通の曉ともならば更に一大發展を見るなるべし輸移出入農產物は大豆、蜀黍、陸稻、小麥、葉煙草、麻、藍、豆油等を主とし、公主嶺を経て南方に移出せらる。又移入雜貨の種類は綿布、綿糸、石油、燐寸、洋蠟燭、砂糖、木材等にして概ね移出の經路に依り移入せらる。

工業、酒造業一戸一日の釀造高約二千五百斤にして當地に於て消費せられ移出の餘力なし。

製粉業、五十餘戸あるも何れも土式にして大なるものも一日の製造高は僅に三百斤若し夫れ小なるものに至りては百斤に過ぎざるなり。

搾油業、當地の油坊は一年の中半箇年の作業を爲すのみにして一日の製造高豆油百斤、豆粕三十枚

(一枚大形四十六斤小形のもの二十二斤)を製出す。

豆粕は當地に消費せらるるもの四割營口及鐵嶺方面に移出せらるるもの六割なり。

豆油は當地に消費せらるるもの一割公主嶺方面に移出せらるるもの九割とす。

此地は交通の關係上產出する穀類の剩餘を各市場に送る能はざるものありて縣内に之を消費するの必

要を生し其れが原因となりて油坊業者の多数を現出するに至りしものなり。機械所、大八戸小十五戸あり何れも綿布を製造するものなるも大は一日十九疋（二疋大尺三十尺もの）と二十八尺のもの（あり）小は一日五疋を造るに過ぎざるなり。

(ロ)、伊把丹站

當地は滿人のみの部落なりしが清朝末葉より此地方に漢人の移住するものを増加し遂に今日の如き大部落を形成するに至りしなり。伊通より双陽に通ずる道路上伊通を距る東北方約三十四支里の地點にあり。

戸數約百二十、人口約九百を算し概ね農業に従事す。

當地は市街と稱するよりも部落と云ふを當れりとなすも稍々街形を成し雜貨舖等の商店約十戸に達し附近部落との間に小取引行はる。

巡警局、保衛團、郵便局、小學校、税局等の官公設機關あり。

附近一帶農耕地に富むを以て高粱、大豆等を主とする農産物多し然れども工業としては記すべきものなし。

(ハ)、大孤山

一、沿革及位置

大孤山は伊通を距る西南三十五支里、大孤山の麓にあり山の高さ百尺許り山に一廟あり。

二、戸數及人口

戸數約三百二十、人口二千二百余あり、其内商家の戸數は約四十なり。

三、市街の状況

市街は小河の兩側に散在し、兩側は樹木多く東側大孤山に接する所に人家稍々集團して市街を形成し主なる商家は此所にあり小河は深さ五、六寸幅二間に過ぎざれとも魚を産す。

四、官公衙其他の諸機關

巡警局、税局、小學校、郵便局あり。

五、一般産物及特産物

産物の主なるものは粟、蜀黍、大豆等にして大豆は大部分公主嶺に輸送せらる

六、商工業

(イ)、商業

主なる商家の營業別左の如し。

- 雜貨店四、 雜穀店一、 藥舖四、 小旅店三、

指物舗五、 銀細工舗二、 酒造業一、 製油業三、

雜貨類は主に奉天、鐵嶺より來り小商人は公主嶺より補充す。

(ロ)、工業

工業は燒鍋一、一箇年間の醸造高四十萬斤にして町内及附近村落に供給せらる。

油坊は上記の如く三家にして一年間の製造高は豆粕一萬枚而して豆油と共に總て公主嶺に輸送せらる。

七、雜件

當地より各地に至る距離左の如し。

公主嶺 八五支里 大疙疸 一二〇支里

(ニ)、營城子

伊通の東南六十支里伊通河の右岸にあり。

戸數五百八十、人口約三千五百を算し巡警局、小學校、郵便局、税局ありて平常と雖も街上來往者少からざる程なるを以て結氷期に於ける農産物の出廻期の如き市況活氣を呈し往々肩摩、穀擊の熱鬧を極むることあるなり。

集散物資は大豆、粟、等の穀類を主とし移入洋雜貨も亦少からざるなり。

(イ) 當地の西方近く大興鎮なる大部落あり此兩者の接近も亦榮城子の繁榮を助くる上に少からざる關係あり。

周圍は肥沃なる耕地にして饒かなる農村に乏しからざるが故に將來更に發達すべし。

(ホ)、小孤山

小孤山は伊通より約七十支里の地にあり、戸數二百七十、人口千六百餘、巡警局、税局、郵便局、小學校、及官鹽局ありて街形を成す。主なる商店別左の如し。

油坊四、 雜貨舗三、 質店一、 製粉業六、
藥舗三、 旅店二、

此他小商家約二十あり。

當地は別に特産なく農産品即ち蜀黍、粟、大豆等を主とす、而して自家用の外は大部公主嶺に送らる、小麦は當地の産額を以て自給不能の爲め他地方より移入しつつあり。雜貨類は奉天より移入せられ附近村落に供給せらる、

當地より各地に至る距離左の如し

掏鹿 一四〇支里 公主嶺 七〇支里 大疙疸 九〇支里

郭家店 九〇支里 二十家子 五〇支里 赫爾蘇邊門(四台子)四五支里
大肚門 一八〇支里

(へ) 靠山屯

當地は伊通を去る西方九十里の地點に在り、戸數三百五十、人口約二千二百を有し物資の集散上注目すべき一邑に屬し巡警局、保營團、郵便局、電話局、小學校、税局、商務會の諸機關あり。農民部落としては比較的繁昌の部に屬し端境期に於ても容易に左記の物資を供給し得べき資源を有す。

高粱 二千石 粟 千石 大豆 千五百石 米 五十石

牛 十頭 豚 百頭

其他鶏卵、各種野菜等も相當供給力を有す。

荷馬車 七十台

當地の産物は前記の通り主として穀類にして他に何等特記すべき産物を有せず。又街衢は不規則なるも年末頃の穀類出廻期節には四周より集る農民により一段の活氣を呈す、之れ四圍に富裕なる農村あるが爲めにして將來大に發展の餘地あり。

(ト) 赫爾蘇

赫爾蘇は伊通の西南百十支里に在りて、戸數四百餘、人口約二千(商家三十)餘を有する農民部落なれども比較的繁昌の一邑なり。

伊通より分屯の兵營一、巡警局、税局、郵便局、小學校等あり。又商工業としては油坊四、雜貨七、旅店三、雜穀店五、に過ぎざるも穀物の出廻期の如き相當の集散ありて案外賑なり。

(チ) 葉赫站

葉赫站は伊通を距る西南約百四十支里に在り、人家約三百二十戸(内商家四十戸)、人口千八百を有し税局、小學校、郵便局及巡防兵三十名あり。商家の内譯は左の如し。

雜貨舖三、 糧棧兼磨坊六、 其他小商家二十餘なり。

産物は大豆、蜀黍、粟を主とし總て此地方に於て消費せらる而して磨坊に要する原料たる小麦は伊通地方より移入す。

油坊業者に依り製出せらるる豆粕は一ヶ年一萬枚内外にして一半は土地に於て消費され他は南滿沿線に送らる。

當地より各地に至る距離左の如し。

雙廟子 五〇支里 四平街 六〇支里 掬鹿 七〇支里

(7) 蓮花街

蓮花街を別名を蒙古赫羅と謂ふ、其蓮花街と稱するは街の東端に小湖ありて蓮花ありしに因むものなりと、戸數七十餘、人口四百五十餘にして商家は雜貨舖四、旅店二、其他小商家四、五あるのみなるも巡警局と郵便局あり。

産物は蜀黍、粟、大豆等なるも土地に於て大部分消費せらる。又北方五支里に木炭の産地あり其木炭は當地方に於て消費せらる外開原に移出せらる而して一箇年の産額は約五萬斤なり。此地は山東方面より吉林に赴く苦力等の通行者一年約千五人百内外なる外別に長途旅行の人馬を見ず、平素は寂寥なる一小市街なり。

當地より各地に至る距離左の如し。

- 沙河子 三五支里
- 昌圖 七〇支里
- 鹿 七〇支里
- 雙廟子 五〇支里
- 大疙疸 一〇〇支里

四、濛江縣

(1) 濛江

一、沿革及位置

原と吉林府の一部なりしが光緒二十三年(明治三十年)墾務局を置き開墾に着手し同三十三年分離し

て濛江州を設置し民國二年濛江縣と改稱されたるものにして縣城は濛江大甸子、縣の中央山間に介在する荒蕪たる高原中の濕地に瀕する所にありて馬賊の巢窟若くは横行地として知らる。

二、戸數及人口

戸數約三百にして人口六百あり。

三、市街の狀況

市街には城壁なく否寧ろ未だ市街を形成せずと云ふ方適當ならん、極めて小なる雜貨商等約六十に達すとは官憲の云ふ所なるも一見多くは農家なるが故に商店と名くべきものは其半數にも足らざるべし、從て縣衙の如きも荒廢甚だしく狐狸の棲家然たるものあるも修繕するの經費なしと云ふ當地には一軒の旅店なきを見ても略ぼ一般を想像するに足らん、斯く當地の發達せざる原因は交通不便なるに剩へ馬賊の横行頻繁なるに依るものとす。

一時日支合辦事業たる豐材公司及華信公司の出張所を置き邦人亦若干居住し相當の餌(貨幣)を散布したりしも十分彼等を買収するに至らず常に損害多大なるが爲め豐材公司是擲句に移轉し華信公司も浮腰の筈なり。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署、警察處、陸軍營、保營團、監獄、稅捐局、郵便局、教育會、商務會、農務會、高等小學校、

初等小學校、宣講所、勸學所等ありと雖も公署外一、二の外は看板のみと思惟して可なり。

五、一般産物及特産物

特記すべき産物なし。

六、商工業

商業

官憲の表明は前述の如く商賣として大小約六十を算するも取引の殆ど見るべきものなし、併し來集貨物は地方消費量に超過し大豆、粟、小麦、小豆の若干は撫松、柳河地方に移出さるるも少額にして數字を以て表すに足らず。輸入日用品は柳河縣、様子哨若くは臨江縣より其需要を充たすものの如し、今官憲の表明する商家の營業別を示せば左の如し。

- 當舖 一、
- 磨坊 二、
- 雜貨舖 二七、
- 洋貨舖 一、
- 京貨舖 一、
- 木匠 三、
- 藥舖 六、
- 肉舖 四、
- 成衣舖 二、
- 人口大燒鍋 二、
- 鞋靴舖 一、
- 首飾舖 二、
- 銀匠舖 一、
- 鐵匠舖 一、
- 染坊 一、
- 皮舖 一、
- 飯館 三、
- 油坊 一、
- 瓦盆窑 一、
- 糧車店 三、
- 深塘 一、

工業の油坊、燒鍋たるや土式製法にして製品は當地方の消費に充る外移出するに至らず。

七、雜件

管内は森林地帯にして多くは徒歩路にして馬車路と稱すべきは様子哨を経て朝陽鎮に達する一あるのみ其他大甸子より官街に通ずる大路は一時修築されしことあるも目下は再び荒廢に飯せり撫松に到る道路は冬季橋を通ずるも夏季は全く往來なしと見て可なり。

各地に至る距離を示せば左の如し。

撫松	百二十支里	官街	百八十支里	輝南縣	百六十支里
朝陽鎮	二百支里	様子哨	百六十支里		

五、農安縣

(一)、農安

一、沿革及位置

元と蒙古郭爾羅斯前旗の放牧地にして久しく荒蕪に委しありしを清朝に至り嘉慶二十四年(紀元二千四百七十九年)に於て蒙古王と借地養民の契約を結び其地方を開放し、光緒八年(明治十五年)分防照磨を置き同十五年農安縣として獨立し同三十四年西北の境を長嶺縣の爲めに分割せしものにして縣城は縣の中央に位置し南長春縣に隣接し長春を距る北西百四十支里隆安府の舊趾にあり。

二、戸數及人口

戸數二千、人口一萬六千(内邦人五十二)

三、市街の狀況

市街は周圍七支里の土壁を繞らし大小七個の門あり南北約二支里東西約一支里東、西、南、北の四區に分たる。北街、南街、西街は道幅稍廣くして車馬の往來便なりと雖も東街は斜面上にありて平坦ならず、極めて不便なり。街衢は十字街を中心として四方に走り大街は商況殷盛にして大商舖軒を並べ秋冬穀物出廻り期節中の如き雜沓を極む、從來此十字街附近には多數小商人等が露店を開き居りしが縣當局の覺醒に因り西門外に驅逐し、城外樞要の地點に市場を置き、又下水溝を設け菓子類の賣品に蓋覆を命じ、其他共同便所の増設道路の修築等各種整備に意を用ゐし結果最近大に市の面目を一新するに至りたり。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署、警察所、稅局、南王徵租局、捐徵收所、牲畜特別捐徵收處、鹽務局、勸學所、縣立國民高等小學校、同附屬初等小學校、縣立國民第一、第二小學校、縣立女子高等初等小學校、巡務教練所、通俗教育講演所、商務會、工業習藝所、普濟院、縣立施醫院、宏仁醫院、郵便局、電報局、電話局、及我領事分館同警察官出張所等あり。

五、一般產物及特產物

當地の產物は主として農産穀類にして每年秋季收穫後九月下旬頃より出廻り始め其最も盛なるは十一月下旬より十二月中旬迄なり、此間一日平均二千石内外に及び十二月下旬より一月中旬迄は七百石乃至千二百石位舊正月後は漸次減少し三月初旬に至りて殆ど止むを例とす今最近數年間に於ける當地出廻農産品の平均額を示せば次の如し。

種類	出廻額	備考
大豆	五〇、〇〇〇石	五分の二は長春方面に仕向けられ五分の一は當地油坊に五分の二は自家用として消費せらる
高粱	三〇、〇〇〇	十分の一は長春方面に仕向けられ餘は釀造用、食料或は飼料として當地附近に於て消費せらる
小麥	二五、〇〇〇	二分の一は長春方面に仕向けられ其他は當地に於て消費せらる
大麥	六、〇〇〇	
玉蜀黍	八、〇〇〇	
粟	一〇、〇〇〇	同右
小豆	三、〇〇〇	
麻子	四、〇〇〇	

計	一四五、〇〇〇	
其 他	七、〇〇〇	十分の一は長春方面に仕向けられ残餘は當地附近に於て消費せらる
壹 類	二、〇〇〇	

特産物としては豆粕、豆油、高粱酒、麥粉、豆素麵等にして主として長春方面又酒、粉類は一部齊々哈爾、蒙古方面に移出せらる。

六、商工業

農安市場の今昔

當地は嘉慶年間清朝が郭爾羅斯王と借地養民の契約を締結して開放せし以來地方物資の集散市場及通過貨の貿易市場として商業頗る殷盛を極め、東支鐵道の未だ敷設せられざりし時代にありては西南の懷德、八面城等を経由して新民屯に出て更に遠く錦州、營口、遼西一帶、東北は哈爾濱、雙城堡に東南は吉林に南は長春、奉天に西北は伯都訥及蒙古地方より遠く齊々哈爾の輿地に通ずる要衝に當りたるのみならず附近一帶は滿蒙の命脈たる大平原の一部を形成し實に一望千里際涯なき肥沃の農耕地なれば其産出する多額の農産物及牛、馬、羊豚は悉く此地に集散し其商圏の範圍頗る廣大なりしが、東支鐵道の敷設に次で南滿支線延長せられ、漸次露國勢力の南進するに伴ひ稍其状態に變動を來たし、

又日露戰役後其經濟状態に一大變動を生じたる結果從來の商圏は漸次萎縮衰頹し剩へ蒙古貿易市場たる特殊の地位は遠く洮南、鄭家屯等に移りて、僅に附近地方の中心市場として其繁榮を支持し來りたるものなり。然れとも管内は廣大なる沃野連亘し人煙稠密民戸富裕にして開拓の事業逐年進歩し、之れに伴ひ農産亦漸次増加の傾向を示すに至りしを以て近時頹勢を挽回し再び活氣ある市場となれり。

當地商店の最も大なるものは穀物商、雜貨、燒鍋、磨坊、油坊、質業、兩替店を兼營するものにして其主なる商舖を擧ぐれば次の如し。

- 質屋兼雜貨商一、 雜貨兼穀物商三、 穀物商兼雜貨、油坊、磨坊、粉坊業一〇、
- 酒造兼雜貨、油坊、磨坊、粉坊業二、 穀物商一、 雜貨商一一、
- 太古洋行代理店(英商)一、 美孚洋行代理店(米商)一、 英米佛聯合煙公司(洋商)一、
- 東亞煙公司(日商)一、 南滿鐵路撫順煤炭公司(日商)

工業として目すべきものは燒酒釀造、製油、製粉、豆素麵製造、煉瓦製造、機織、製紙等なれども何れも小規模且舊式設備によるものなれば其發達進歩の點に於て見るべきものなしと雖も由來當地方は各種製造工業の原料豊富にして勞力を得ること易く殊に勞銀は南滿地方に比して遙かに低廉なるが故に企業上幾多の便益あるは云ふを俟たず、加ふるに當地方有力者の其經營に當るの關係上自然地方

の産業を主宰するの状を呈し其勢力驚くべきものあり、就中燒酒釀造業に於て然るを見る。
七、雜件

當地方の住民は南滿各地、直隸、山東方面より移住し來りたるものなれば日常生活狀態も是等地方と大差なく概して簡易質朴なり。

(ロ) 哈拉海城子

當地は附近農村の小市場にして農安の北方六十支里に在り街衢は十字形を爲し東するもつは商家店に西するものは伏龍泉に北するものは公爺府及伯都訥に通ず燒鍋一、小雜貨店十、糧食店、馬車宿二、及農家九十餘、人口約五百あるも素より半農半商の部落たり、燒鍋は周圍二、三支里の方形の屋敷に丈餘の外壁を圍らし要所に銃眼を設けて馬賊に備へ外壁の内側には老榆樹を植ゑ防風に便せり燒鍋の設備は五班あり、一個年三十五萬斤内外を製造し、且つ當舖、布疋、雜貨商、油坊、磨坊、粉坊等を兼營し金權に依りて一帯地方を威壓し粒々辛苦の餘に成りたる農民の膏血を吸收し居れり。

(ハ) 伏龍泉

一、沿革及位置

伏龍泉は農安縣所屬の一鎮にして農安を距る西方九十支里に位置し東南方長春に百八十支里南方懷徳に百三十支里北方伯都訥に二百二十支里を隔つるの距離にあり。

二、戸數及人口

戸數約四百、人口約三千を算す。

三、市街の狀況

市街は城壁を有せず、東西南北各一條の大街より成り、西街及南街十字路(路上穀物取引を行ふ)附近は最も繁華にして馬車輻輳す、軍隊此地に駐割しあるを以て比較的平穩にして市況活氣を呈す。

四、官公衙其他の諸機關

混成旅司令部、歩兵團一營、騎兵二連常に駐在、郵便局、税局、小學校等あり。

五、一般產物及特產物

附近は土地豊饒人家稠密にして農產物の産額少からざるが故に逐年其出廻數量を増加するの傾向あり今最近數年間に於ける穀物出廻高の平均數を示せば次の如し。

種類	種類	種類	種類
大豆	高粱	小麥	大豆
糜子	粟	綠豆	
小豆	大麥		
量數	量數	量數	量數
二〇、〇〇〇石	一〇、〇〇〇石	七、〇〇〇石	
五、〇〇〇〃	四、〇〇〇〃	一、〇〇〇〃	
五、〇〇〇〃	三、〇〇〇〃		

畜産及皮革類は附近の農民が副業的に飼育せしもの及南郭爾羅斯旗下より出廻るものにして其主要なる年額左の如し。

種類	量	種類	量	種類	量
豚	四、〇〇〇頭	馬	一、〇〇〇頭	牛	七〇〇頭
羊	一、〇〇〇〃	牛皮	八〇〇枚	馬皮	一、二〇〇枚
狗皮	三、二〇〇枚	馬尾	一三、〇〇〇斤	猪鬃	三、〇〇〇斤
猪毛	七、〇〇〇斤				

六、商工業

商業、

當市場光緒二十二年(明治二十九年)頃より發達し來りしものにして現今に於ては商店大小八十餘戸あり附近は土地肥沃にして農民多く農産物の出廻多額に上り布疋、雜貨、日用品の需要も亦少からず、大正七年當市場出廻穀物約十一萬五千石、輸入貨物七十餘萬圓に達し實に農安縣管内に於ては縣城たる農安に次ぐ殷賑なる市場なりとす、尙ほ冬季は蒙古貿易も亦盛にして當地商業の約三割強を占む、蒙人は總て南郭爾羅斯旗内の在住者にして近きは四、五十支里遠きは百二、三十支里の未開放地より

來集す彼等蒙人は入市の際穀物、牛、馬、羊毛、皮類を馬車、牛車又は馱馬にて運び來り歸路には酒煙草、布疋、小麥粉、豆素麵、豆油、砂糖、其他日用雜貨及食料品を購入す。
當地商店の主なるもの左の如し。

商店名	營業種別
順升公	燒酒釀造、質商、雜貨、染物、油坊、磨坊、粉坊及糧行等を經營し當地商業を獨占し當地方第一の巨商にして宛然城廓の如き店舗たり
世合昌	燒酒釀造、雜貨、油坊、
德玉厚	雜貨、油坊、糧行
德成興	雜貨、糧行、
永隆盛	雜貨、
永利昌	雜貨、油坊、

移入貨物は從來本邦品約七割支那品三割の比例なりしが我物價暴騰の結果今や其反對となりしは嘆ずべし、而して長春は第一仕入地にして營口之れて次ぐ、其品種數量概ね左の如し。

種類	量	種類	量	種類	量
大尺布	七〇〇件	綿糸	一六〇件	燐寸	五〇〇箱
花旗布	六五〇	市布	二〇〇		
打連布	二〇〇	坎布	二五〇		
砂糖	五〇〇	石油	八〇〇		

其他洋蠟、紙卷煙草、古新聞紙、紙等とす

工業、

當地の製造工業は前記各商舖の兼營する所にして普通の年に於ける其製造高は大約次の如し。

種類	量	種類	量
燒酒	七〇〇、〇〇〇斤	麥粉	一六〇、〇〇〇斤
豆粕	三五〇、〇〇〇個	豆油	一〇〇、〇〇〇
		豆素麵	一一〇、〇〇〇斤

(二)、靠山屯

當地は農安より双城堡及陶賴昭地方に通ずる路上の一鎮にして老少溝驛の西方四十支里の地點にあり

戸數五百(内商家八十)、人口約二千六百を算し粗末なれども街形を成し、巡警局、小學校及郵便局あり。
鐵道に接近する爲め物資の集散地を以て目すべきにあらず。毎年農産出廻期節に至れば通過牛、馬車及旅客の宿泊地として又小雜貨の供給地として市内は相當活氣を呈す、但し工業としては燒鍋一戸あるの外特記するに足るものなし。

六、長嶺縣

(一)、長嶺

一、沿革及位置

長嶺は渤海時代に於ける名稱にして蒙古郭爾羅斯前旗の游牧地なりしを清朝に至り蒙古王と借地養民の契約を結び農安縣として獨立せしものの西部の一部を割き光緒三十四年置縣せしものにして俗に長嶺子と稱し鄭家屯の東北二百六十支里、長春の西北二百八十支里に在り。

二、戸數及人口

戸數七百餘、人口四千二百餘あり尙ほ年々多少増加の傾向あり。

三、市街の狀況

市街は宣統二年(明治四十三年)以後に建設せられ方約二支里に亘る土壁を繞らし外濠を有す、城内は

東西南北に通ずる大街中央にて交叉し四樓門あり門衛には歩哨兵あり通行人を監視す。商舖は東大街北大街に在り家屋の構造は煉瓦建の瓦葺多く葦葺及土葺の家屋稀なり、街衢は幅三、四間ありて兩側に柳樹を植ゑ案外整頓せり。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署、巡警局、稅局、警察所、郵便局、兩等小學堂、商務會等あり。

五、一般産物及特産物

農産物の外特記すべきものなし。

六、商工業

當地は十二三年前に建設せられたる市街にして商業尙ほ幼稚なれども四圍に於ける荒地の年々開墾せられ農民の移住するもの日に多きを加へ且つ管内土地廣く地味比較的良好なるを以て農産市場として將來有望なるものあり、商店の多くは長春、鄭家屯、懷徳よりの支店或は移住者にして現在にては附近農民の日用品を供給するに止まれども雜貨の移入額は年々増加し其賣行良好なり商家の主なるもの百六十戸内外にして各地に同しく上記の如く商務分會あり商務會は普通の事務の外一種の帖子(私札)を發行して金融に便し居れり。

長嶺子以東及以南の耕地は肥沃にして大豆、小麥等の産額少からざれとも當市場に出廻るもの比較的

少く概して直接長春及公主嶺地方に輸送せらる。新墾の地は産額未だ多からざれども開墾の進歩するに従ひ農産物の出廻り著しく増加すべきは疑ふの餘地なし。雜貨の一半は之を長春に仰き一半は之を公主嶺等に仰ぎ又此等の地方を経て營口より輸入す其種別の概要次の如し。

大尺布、花旗布、打連布、市布、綿絲、石油、燐寸、砂糖其他の雜貨

最近數年間に於ける當市場出廻數量の年均年額概ね左の如し

種類	種類	種類	種類
類數	類數	類數	類數
高粱	五〇、〇〇〇石	玉蜀黍	三五、〇〇〇石
糜子	二、〇〇〇	粟	八、〇〇〇
其他	五、〇〇〇	小豆	一、〇〇〇
		大豆	四〇、〇〇〇石

製造業には燒鍋、油坊、磨坊、粉坊及磚窑(煉瓦製造)等あり燒鍋は城内に一戸にして毎日一班の作業を爲すも夏季は休業す、一班(一日の製酒單位)の原料及造酒量次の如し。

原料高粱三石六斗、麵子九十塊(一塊二斤半)造酒量燒酒三百六十斤。

此外附近の田舎に五家あり其造酒量は一家十萬斤乃至二十萬斤なり。油坊、城内に二、附近の田舎に四戸あり一家の搾油作業は一箇年百五十班乃至三百班にして一班の原料及生産高左の如し。

原料大豆四石、生産高豆餅六十塊(一塊二十八斤)豆油百五十斤
磨坊及粉坊、磨坊及粉坊は共に燒鍋、油坊或は穀物商の兼營に係り、城内に三、四戸附近の田舎に四、
五戸あり其生産高一定せず。

磚窑、城外三、四支里の所にあり、當地に於ける建築用煉瓦、瓦等を製造す。

(ロ)、新集廟

當地は別名を新安鎮とも云ふ、縣城の南六十支里鄭家屯に通する道路上にあり、長嶺縣下に於ける重
要邑鎮にして街衢は不規則なれども戸數三百、人口約二千百を算し、内商家七十戸あり。

巡警局、郵便局、税局、各種小學校、商務會等の機關を有す。

而して附近農村に對し日用雜貨を供給し農産品の小集散市場として多少其名を知らる。移入雜貨及來
集農産品の取引は主として公主嶺又は鄭家屯の兩地に關係を有し毎年農産品の出廻期には一日百台乃
至百五十台の荷馬車を見市況甚に活氣を呈す。

七、德惠縣

(イ)、德惠

一、沿革及位置

一名大房身と稱せし一邑にして、以前は長春縣に屬せしが宣統二年(明治四十三年)其北境を割きて新

設せられたるものに係る、當地は東支鐵道密門驛を距る東方四十支里の地にあり附近は山岳を以て圍
まるる丘陵地帯にして波狀形を成す所多し。

二、戸數及人口

戸數約三百二十、人口約二千三百を算す。

三、市街の狀況

當地は今尙ほ一條(外に住宅的集團あるも)の市街にして延長約十町餘、商家其間に並立する所多きも
新設の縣城にして未だ繁榮を見ず。

四、官公衙其他の諸機關

縣公署、警察所、商務會、税捐徵收分局、蒙租長春分局、郵便局、小學校等あり。

五、一般産物及特産物

特記すべき産物なし。

六、商工業

縣の所在地なる前記の如くなるも人口少く商業未だ盛んならず從て密門驛の發展者しきに比し當地は
僅に附近の農村を中心とする一小市場にして商家約八十餘何れも小資本のもののみなり、今當地に於
ける主なる商舖を擧ぐれば左の如し。

燒鍋、當舖、雜貨兼營一、燒鍋、雜貨、油坊兼營一、雜貨商四、

燒鍋の製造に係る燒酒は何れも當地方にて消費せられ油坊一、染坊一、粉坊一、磨坊數戸あるも其規模小にして此製品亦何れも本地にて消費せられ移出の餘力なし、當地の移入雜貨は夏季の如き密門より來るを常とするも大部は冬季長春より來着す、又穀物市場としては密門を距ること遠からず又長春へも諸種の便あるを以て未だ糧棧なく殆んど通過地たるの觀あり。

(ロ)、密門

一名張家灣と稱す。東支鐵道南部線の一驛にして、長春の北方四十八哩、哈爾濱の南方約百哩に位す。戸數約千五百、人口八千八百内外を算し、其内邦人八十餘名、鮮人六名、露人約七百名あり。

市街は鐵道附屬地及張家灣(支那街にして俗に道外と稱す)の二部より成る。附屬地は面積

る街衢は東西に貫通さる大街及是より南北に通ずる數條にして糧

棧、雜貨舖を始めとし大小の商家櫛比す。

道外は附屬地の西部に隣接し、南北三條東西數條より成り、各種商舖軒を連ね人家稠密す。然れとも家屋は概ね煉瓦建或は土造平家にして矮小なるもの多し。

官公衙其他の諸機關には巡警局、稅局、郵便局、電報局、鹽務局、商務會、小學校、驛食堂、同倉庫鐵道事務所、同病院、鐵道俱樂部、及我領事館警察官出張所等あり。

當地は東支南部線中重要なる穀類集散地の一にして冬季は各地商人の來集するもの多く其出廻の最盛期には一日の來集馬車千台に達することあり。然れとも夏季は取引著しく閑散なり。而して來集せる穀類は主として長春に輸送せらる。今最近一箇年間に於ける當驛發送穀類の數量を擧ぐれば左の如し

大豆	二十七萬石	高粱	二十二萬石	玉蜀黍	八千石
小麥	八千石	粟	一萬五千石	雜穀	五千石

以上の如く穀類は當地集散貨物の大宗にして鷄卵及鷺鳥其他の家禽之に亞ぎ哈爾濱、長春其他各地に移出せられ年額約百五十車に達す。

此地の商店は長春、營口等の支店或は此等地方に取引先を有するもの多き關係上、商品は主として該地方より移入せらる。而して其大部は鐵道に移送せらるるも、各季穀類の歸荷として馬車により移入せらるるもの亦尠からず。今移入雜貨類の年額を示せば次の如し。

大布	五千件	花旗布	二千包	大連布	千五百包
坎布	六百包	洋線	五百包	燐寸	八千箱
白砂糖	二千袋	赤砂糖	二千五百袋	粉連紙	四百包
海紙	二萬塊				

又商舖の主なるものは糧棧二十、雜貨商十、油坊二、錢舖二、當舖二、等にして外國人の經營せるも